

令和 3 (2021) 年度

# 年間指導計画

～ 指導と評価の計画～



神奈川県立横浜平沼高等学校全日制普通科

〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1丁目5番8号

TEL 045-313-9200 (代表) FAX 045-311-0519

# 目次

- 1 各教科の「評価の観点」一覧 . . . . P. 1
- 2 教育課程表 . . . . P. 2
- 3 各学年の科目のページ

第1学年の科目	P.	第2学年の科目	P.	第3学年の科目	P.
①国語		①国語		①国語	
国語総合	3	現代文B	2 5	現代文B	5 0
②地理歴史・公民		古典A	2 6	総合古典	5 1
世界史B	5	古典B	2 7	現代文研究	5 2
③数学		②地理歴史・公民		古典研究	5 3
数学I	6	日本史A	2 8	②地理歴史・公民	
数学A	7	日本史B	2 9	世界史研究	5 4
④理科		③数学		日本史研究	5 5
化学基礎	8	数学Ⅱ(α型)	3 0	地理B	5 6
生物基礎	9	数学Ⅱ(β型)	3 1	※世界近現代史特論	
⑤保健体育		数学B	3 2	※日本近現代史特論	
体育	1 0	④理科		現代社会	5 7
保健	1 1	物理基礎	3 3	政治・経済	5 8
⑥芸術		化学	3 4	③数学	
音楽I	1 2	⑤保健体育		数学Ⅲ	5 9
美術I	1 3	体育	3 5	一般数学	6 0
書道I	1 4	保健	3 6	応用数学	6 1
⑦外国語(英語)		⑥芸術		実践数学I・A	6 2
コミュニケーション英語I	1 5	音楽Ⅱ	3 7	④理科	
英語表現I	2 0	美術Ⅱ	3 8	物理	6 3
⑧総合的な探究の時間	2 4	書道Ⅱ	3 9	生物	6 4
		⑦外国語(英語)		応用化学	6 5
		コミュニケーション英語Ⅱ	4 0	生物研究	6 6
		英語表現Ⅱ	4 5	⑤保健体育	
		⑧家庭		体育	6 7
		家庭基礎	4 8	⑥外国語(英語)	
		⑨総合的な探究の時間	4 9	コミュニケーション英語Ⅲ	6 8
				英語表現Ⅱ	7 3
				リーディング・スキルズ	8 0
				⑦情報	
				社会と情報	9 0
				⑧音楽(専)	
				ソルフェージュ音楽理論	9 1
				⑨美術(専)	
				美術概論	9 2
				素描	9 3
				⑩家庭(専)	
				フードデザイン	9 4
				⑩総合的な学習の時間	9 5
				※世界史近現代特論、日本近現代史特論は117期生以降、開講されません。	

# 1 各教科の「評価の観点」一覧

<p><b>国語</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 話す・聞く能力</p> <p>c : 書く能力</p> <p>d : 読む能力</p> <p>e : 知識・理解</p>	<p><b>地理歴史・公民</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 資料活用の技能</p> <p>d : 知識・理解</p>	<p><b>数学</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 数学的な見方や考え方</p> <p>c : 数学的な技能</p> <p>d : 知識・理解</p>
<p><b>理科</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 観察・実験の技能</p> <p>d : 知識・理解</p>	<p><b>保健体育</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断</p> <p>c : 運動の技能</p> <p>d : 知識・理解</p>	<p><b>芸術（音楽）</b></p> <p>a : 音楽への関心・意欲・態度</p> <p>b : 音楽表現の創意工夫</p> <p>c : 音楽表現の技能</p> <p>d : 鑑賞の能力</p>
<p><b>芸術（美術）</b></p> <p>a : 美術への関心・意欲・態度</p> <p>b : 発想や構想の能力</p> <p>c : 創造的な技能</p> <p>d : 鑑賞の能力</p>	<p><b>芸術（書道）</b></p> <p>a : 書への関心・意欲・態度</p> <p>b : 書表現の構想と工夫</p> <p>c : 創造的な書表現の技能</p> <p>d : 鑑賞の能力</p>	<p><b>外国語（英語）</b></p> <p>a : コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <p>b : 外国語表現の能力</p> <p>c : 外国語理解の能力</p> <p>d : 言語や文化についての知識・理解</p>
<p><b>家庭</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 技能</p> <p>d : 知識・理解</p>	<p><b>情報</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 技能</p> <p>d : 知識・理解</p>	<p><b>総合的な学習の時間</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 技能</p> <p>d : 知識・理解</p> <p><b>総合的な探究の時間</b></p> <p>a : 知識・技能</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 主体的に取り組む態度</p>

◎各科目の「評価の方法」の詳しい内容や重み付けについては、授業の中で各担当者が説明します。

◎各科目の「評価の観点」は、必ずしも上記のものとは限りません。

(2) 令和3(2021)年度入学生教育課程表

※選択科目については変更になる場合があります。

教科	科目	標準単位数	1年次	α型(文系)			β型(理系)		
				2年次	3年次		2年次	3年次	
					必修	選択		必修	選択
国語	国語総合	4	4						
	国語表現	3				②			②
	現代文B	4		2	2		2	2	
	古典A	2					2		
	古典B	4		4					
	総合古典	※							③
	現代文研究	※							②
地理歴史	世界史B	4	4						
	日本史A	2					2		
	日本史B	4		4					
	地理B	4							③
	世界史研究	※							④
公民	現代社会	2			2			2	
	倫理	2							③
	政治・経済	2							③
数学	数学Ⅰ	3	3						
	数学Ⅱ	4		3			4		
	数学Ⅲ	5							⑤
	数学A	2	2						
	数学B	2		②			2		
	一般数学	※							③
	応用数学	※							③
理科	実践数学Ⅰ・A	※							②
	物理基礎	2		2			2		
	物理	4							④
	化学基礎	2	2						
	化学	4					3		
	生物基礎	2	2						
	生物	4							④
	物理研究	※							②
保健体育	応用化学研究	※							③
	化学研究	※							②
芸術	生物研究	※							②
	体育	7~8	3	2	2		2	2	
	保健	2	1	1			1		
	音楽Ⅰ	2	②						
	音楽Ⅱ	2		②					
	美術Ⅰ	2	②						
外国語	美術Ⅱ	2		②					
	書道Ⅰ	2	②						
	書道Ⅱ	2		②					
	書道Ⅲ	2							②
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3						
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4			4		
	コミュニケーション英語Ⅲ	4			3			3	
英語表現Ⅰ	2	2							
英語表現Ⅱ	4		2	2		2	2		
実用英語	※							②	
リーディングスキルズ	※							②	
家庭情報	家庭基礎	2		2			2		
(専)家庭	社会と情報	2			2			2	
(専)家庭	服飾文化	2~4						②	
(専)体育	フードデザイン	2~6						②	
(専)音楽	スポーツⅡ	2~13						②	
(専)音楽	音楽理論	2~6						②	
(専)美術	ソルフェージュ	2~9						④	
(専)美術	美術概論	2~4						③	
(専)美術	素描	2~6						③	
*学校外活動	ボランティア活動	※	①	①			①		①
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1		1	1	
計			29	29	14	6~14	29	14	6~14
ホームルーム活動			1	1	1		1	1	
総計			30	30	21~29		30	21~29	
備考			]は選択肢を示す。○印の数字は選択科目の単位数を示す。*印は学校設定教科・学校設定科目を示す。ボランティア活動は3年間を通じて1単位まで認定する。ただし卒業単位に含めない。1コマの授業時間は55分。						



令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	国語・国語総合	学年	第1学年	教科書	大修館「精選 国語総合 新訂版」
		単位数	4単位	副教材	筑摩書房「語彙力をつける 入試漢字2600」 第一学習社「古文解釈のための総合力を養う完全マスター古典文法」 第一学習社「完全マスター古典文法律規ノート＜基礎固め＞」 大修館「トータルサポート新国語便覧」

**学習目標**  
 (科目目標) 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てることが「国語総合」の目標である。

**学習方法**  
 ○論理的な文章については論理の展開や要旨を的確にとらえ、文学的文章については、人物・情景・心情などを的確にとらえたとともに表現を味わいましょう。  
 ○授業では「トータルサポート新国語便覧」などを利用し、文学史や古典常識などの知識を深めましょう。  
 ○学習を効果的に進めるために、教材を予習、復習することを心がけましょう。

学習評価	科目の評価の観点の趣旨	
	評価の観点	趣旨
a	関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりしようとする。
b	話す・聞く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする力を身に付けている。
c	書く能力	自分の考えを深めたり発展させたりして、目的や相手に応じて、筋道を立てて適切な文章を書くことができる。
d	読む能力	様々な文章を的確に読み取る力を身に付けており、ものの見方、考え方が豊かである。
e	知識・理解	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し知識を身に付けている。

学期	時間数	指導事項	単元の評価規準	評価方法	主な学習活動	単元(題材)
前期	10	書くこと ア相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	a各種の文章を主体的に読み、積極的に取り組む姿勢を身に付けている。 b与えられた課題に即して思考を深めスピーチや作文、小論文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。 c比喩表現や情景描写、慣用語の使い方などを理解する力を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	表現に注意して評論を読み、本文の内容を的確に理解する。	近現代の文章(評論)
	6	読むこと ウ文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	a各種の文章を主体的に読み、積極的に取り組む姿勢を身に付けている。 d場面展開や文章の構造を的確にとらえ、内容を正確に掴んで、提起された問題について理解する力を身に付けている。 e比喩表現や情景描写、慣用語の使い方などを理解する力を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	小説に描かれた登場人物の感じ方や生き方などを、話の展開に注意して読み取る。	近現代の文章(小説)
	4	読むこと ア文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	a各種の文章を主体的に読み、積極的に取り組む姿勢を身に付けている。 d場面展開や文章の構造を的確にとらえ、内容を正確に掴んで、提起された問題について理解する力を身に付けている。 e比喩表現や情景描写、慣用語の使い方などを理解する力を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	筆者のものの見方や感じ方、表現の特色に注意して随想(随筆・エッセー)を読む。	近現代の文章(随想)
	2	話すこと・聞くこと ウ課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進捗の仕方などを工夫して話し合うこと。	a各種の文章を主体的に読み、積極的に取り組む姿勢を身に付けている。 b与えられた課題に即して思考を深めスピーチや作文、小論文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。 c比喩表現や情景描写、慣用語の使い方などを理解する力を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	合意形成に向けて話し合いを行う。	近現代の文章(言語活動)
	5	読むこと ア文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	a古文に親しみを持ち、古文学習の基本的な姿勢を身に付けている。 d作品の内容を的確に理解し、作者のものの感じ方・考え方を把握する力を身に付けている。 e文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	古文と現代文との違いを知り、古文を読む基礎となる文語のきまりを理解する。 随話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。	古文(随話)
	5	読むこと ア文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	a随話・随筆・物語を読むことに興味・関心を持つことができる。 d作品の内容を的確に理解し、作者のものの感じ方・考え方を把握する力を身に付けている。 e文法の基礎知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	作者の考えを叙述に即して的確に読み取り、それについて話し合う。	古文(随筆)
	8	読むこと ア文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	a古文に親しみを持ち、古文学習の基本的な姿勢を身に付けている。 d作品の内容を的確に理解し、作者のものの感じ方・考え方を把握する力を身に付けている。 e文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	歌物語に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。 想像力をはたかせながら、歌物語の世界を読み味わう。	古文(歌物語)
	7	読むこと エ文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	a随話・随筆・物語を読むことに興味・関心を持つことができる。 d作品の内容を的確に理解し、作者のものの感じ方・考え方を把握している。 e文法の基礎知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	文章に現れた古語と現代語の表記や意味の違いについて調べる。 古語で書かれた文章の内容を読み取る。	古文(物語)
	5	読むこと ア文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	a詩や文章を読むことに興味・関心を持つことができる。 dそれぞれの詩に描かれた状況や作者の心情などを理解する力を身に付けている。 e句法について理解する力を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	訓読のきまりを理解し、文章の内容を的確に読み取る。	漢文(入門)
	5	読むこと イ文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	a詩や文章を読むことに興味・関心を持つことができる。 d長文においては、各段落の内容を整理するとともに、論の展開を理解する力を身に付けている。 e文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	格言や故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。	漢文(故事)

	7	読むこと ウ文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	a詩や文章を読むことに興味・関心を持つことができる。 d長文においては、各段落の内容を整理するとともに、論の展開を理解する力を身に付けている。 e文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	史話に描かれた情景や人物の心情などを、表現に即して読み味わう。	漢文（史伝）	
	10	書くこと ウ対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。	a内容について自分なりの意見を持ち、社会的な問題に対し広く目を向けていくことを身に付けている。 b与えられた課題に即して考察を深めスピーチや作文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。 c筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について深い考察をめぐらすことができる。また、近代の文学作品を主体的に読解し、より深く鑑賞する力と知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	小説に描かれた登場人物・情景・心情などを、表現に即して読み取る。	近現代の文章（小説）	
	4	話すこと・聞くこと エ話したり聞いたり話し合ったことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、もの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	a内容について自分なりの意見を持ち、社会的な問題に対し広く目を向けていく力を身に付けている。 b与えられた課題に即して考察を深めスピーチや作文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。 c筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について深い考察をめぐらすことができる。また、近代の文学作品を主体的に読解し、より深く鑑賞する力と知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	形式やリズム、表現方法に注意して読む。 詩歌に親しみ、描かれた世界を読み味わう。	近現代の文章（詩歌）	
	6	読むこと 才幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、もの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。	a内容について自分なりの意見を持ち、社会的な問題に対し広く目を向けていく力を身に付けている。 b文章の論理展開を的確に把握し理解する力を身に付けている。 c筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について深い考察をめぐらすことができる。また、近代の文学作品を主体的に読解し、より深く鑑賞する力と知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	評論に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。	近現代の文章（評論）	
	2	話すこと・聞くこと エ話したり聞いたり話し合ったことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、もの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	a内容について自分なりの意見を持ち、社会的な問題に対し広く目を向けていく力を身に付けている。 b与えられた課題に即して考察を深めスピーチや作文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。 c筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について深い考察をめぐらすことができる。また、近代の文学作品を主体的に読解し、より深く鑑賞する力と知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	合意形成に向けて話し合いを行う。	近現代の文章（言語活動）	
後期	5	読むこと イ文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	a古文に親しみをもち、古文学習の基本的な姿勢を身に付けている。 b作品の内容を的確に理解し、作者のもの感じ方・考え方を把握している。 c文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	表現の特色に注意して和歌を読む。 和歌に表れたもの見方、感じ方に触れる。	古文（和歌）	
	7	読むこと ウ文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	a講話・随筆・物語を読むことに興味・関心を持つことができる。 b作品の内容を的確に理解し、作者のもの感じ方・考え方を把握している。 c文法の基礎知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	作品に表れた作者の考えを踏まえて、もの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	古文（日記文学）	
	8	読むこと 才幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、もの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。	a古文に親しみをもち、古文学習の基本的な姿勢を身に付けている。 b作品の内容を的確に理解し、作者のもの感じ方・考え方を把握している。 c文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	作品に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。 表現の特色に注意して作品を読み味わう。	古文（軍記物語）	
	7	読むこと ウ文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	a講話・随筆・物語を読むことに興味・関心を持つことができる。 b作品の内容を的確に理解し、作者のもの感じ方・考え方を把握している。 c文法の基礎知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	文章の内容や表現上の工夫を確認し、書き手の意図を捉える。 自分の考えを深めるために話し合う。	古文（非語紀行）	
	5	読むこと ウ文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	a詩や文章を読むことに興味・関心を持つことができる。 dそれぞれの詩に描かれた状況や作者の心情などを理解する力を身に付けている。 e近体詩の決まりや表現技法を理解する力を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	漢詩のきまりと表現の特色について学び、唐詩の世界に親しむ。	漢文（唐詩）	
	5	読むこと エ文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	a詩や文章を読むことに興味・関心を持つことができる。 d長文においては、各段落の内容を整理するとともに、論の展開を理解する力を身に付けている。 e句法について理解する力を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	古代中国の思想について理解を深め、もの見方、考え方を豊かにする。	漢文（思想）	
	5	読むこと エ文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	a詩や文章を読むことに興味・関心を持つことができる。 d長文においては、各段落の内容を整理するとともに、論の展開を理解する力を身に付けている。 e文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期テスト 課題プリント	話の構成や展開を確かめ、作品の内容や表現の仕方について理解する。 登場人物の言動から、作品に込められた意図について考える。	漢文（文章）	
	「話すこと・聞くこと」 18時間、「書くこと」 35時間、「読むこと」 75時間、合計 128時間（国語総合）						

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・世界史B	学年	第1学年	教科書	帝国書院「新詳 世界史B」 帝国書院「地歴高等地図-現代世界とその歴史的背景-」
		単位数	4単位	副教材	帝国書院「最新世界史図説タペストリー十九訂版」 帝国書院「新詳世界史Bノート」

**学習目標**

- 世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。
- 文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

**学習方法**

- 授業における課題に対して自ら考え、また、資料を活用することでデータを読み取って考察する活動を行います。
- 家庭学習においては世界史B専用の問題集を利用します。
- 夏季休暇の際にはレポート課題を提出します。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を備えている。
b	思考・判断・表現	世界の文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断するとともに、考察した過程や結果を適切に表現することができる。
c	資料活用の技能	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめるなど活用することができる。
d	知識・理解	世界の歴史についての基本的な事象を、地理的条件や我が国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	古代～中世	17	先史・オリエントと地中海世界	メソポタミア文明・エジプト文明・ギリシア世界	○			○	a:オリエント・地中海両世界とそれをまとめあげたヘレニズムおよびローマについて関心を持ち、追究している。 b:オリエント世界と地中海世界の風土・社会・政治・文化・宗教について比較し、その共通点と相違点を示すことができる。 c:地図などの各種資料を活用して、各地域における特色と相違点を把握できる。 d:オリエント・地中海・インダス文明の特色を理解している。	授業への取り組み、発言内容、プリントへの取り組み、定期試験、課題レポート等をふまえ、総合的に評価する。
				ローマ帝国	○	○		○		
		16	南アジア・東南アジアの世界	インダス文明	○			○		
				東南アジア諸国の興亡	○			○		
15	東アジア世界と中央ユーラシア世界	殷～唐の世界	○	○		○				
		遊牧国家	○	○		○				
16	イスラーム世界の形成と拡大	イスラーム世界の成立	○	○		○				
		イスラーム世界の拡大	○	○		○				
後期	中世～近代	15	ヨーロッパ世界の形成と発展	東ヨーロッパ世界				○	a:キリスト教を共有するヨーロッパ世界が、東西の地域性を保ちながら変動した過程に関心を高めている。 b:ヨーロッパ世界変動の過程を多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 c:地図を用いて、モンゴルの活動によってユーラシア大陸の内陸交易と海上交易が一体化したことを指摘できる。 d:モンゴルによりユーラシア大陸が一体化したことで、ユーラシア規模で人の交流やものの流通が起こったこと、および14世紀の危機を理解している。	授業への取り組み、発言内容、プリントへの取り組み、定期試験、課題レポート等をふまえ、総合的に評価する。
				西ヨーロッパ世界とルネサンス	○	○		○		
		16	モンゴル帝国の出現とアジア諸地域の繁栄	モンゴル帝国	○			○		
				オスマン帝国・ムガル帝国・明朝・清朝	○			○		
17	近代ヨーロッパの成立・ヨーロッパ主権国家体制の展開	大航海時代	○	○						
		絶対王政と啓蒙思想	○			○				
16	欧米における近代社会の成長・近代国民国家の発展	産業革命と各国の独立革命	○	○						
		ナポレオン、アメリカ南北戦争	○			○				
合計時数(55分授業)		128								



# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	数学・数学A	学年	第1学年	教科書	数研出版「改訂版 数学A」
		単位数	2単位	副教材	数研出版「サクシード 数学I+A」

**学習目標**  
 場合の数と確率、図形の性質について理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用できるようにする。

**学習方法**  
 ○教科書に沿って解説、演習を行い基礎力徹底、応用力向上を図る。  
 ○授業は週に2回と少ないので、予習復習をこまめに行い、授業内容を理解することにつとめる。  
 ○自主的に問題集を活用し、授業で学習した内容を確認し積極的に問題に取り組む。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	b	c	d
a	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。		
b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。		
c	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。		
d	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。		

※ 定期テストに関しては、上記四つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	場合の数と確率	14	場合の数	集合の要素の個数			○	○	a:集合や順列・組合せに関心を持ち、それらに関する性質を調べようとする。 b:集合や順列・組合せについて、さまざまな場面に適用して考察することができる。 c:事象を集合や順列・組合せを用いた表現をし、処理する技能を身に付けている。 d:集合や順列・組合せにおける基本的な用語や記号の意味を理解している。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				場合の数	○			○		
				順列				○		
				円順列・重複順列				○		
				組合せ	○	○				
	確率	12	確率	事象と確率	○			○	a:事象の確率に関心を持ち、それらに関する性質を調べようとする。 b:事象の確率について、さまざまな場面に適用して考察することができる。 c:試行や事象に関して確率を表現し、処理する技能を身に付けている。 d:確率における基本的な用語や記号の意味を理解している。	
				確率の基本性質				○		
				独立な試行の確率	○	○				
				反復試行の確率	○	○				
				条件付き確率	○	○				
図形の性質	6	平面図形	三角系の辺の比				○	a:平面図形や空間図形に関心を持ち、それらに関する性質を調べようとする。 b:平面図形や空間図形について、さまざまな場面に適用して考察することができる。 c:平面図形や空間図形について、図形の計量や証明等により表現・処理する技能を身に付けている。 d:平面図形や空間図形における基本的な用語や記号の意味を理解している。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等	
			三角形の外心、内心、重心				○			
			チェバの定理とメネラウスの定理	○			○			
			円に内接する四角形	○			○			
			円と直線	○			○			
	10	空間図形	方べきの定理		○	○	○			
			2つの円の位置関係	○	○					
			作図	○	○	○				
			直線と平面	○			○			
			多面体	○	○					
後期	6	約数と倍数	約数と倍数				○	a:約数や倍数に関心をもつとともに、それを整数の性質の考察に活用しようとする。 b:素因数分解から約数の個数や最大公約数・最小公倍数の仕組みに気づくことができる。 c:素因数分解から約数の個数や最大公約数・最小公倍数を求めることができる。 d:約数の個数や最大公約数や最小公倍数を求める方法を理解し、基礎的な知識を身に付けている。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等	
			最大公約数と最小公倍数	○	○		○			
			整数の割り算と商および余り		○	○				
	6	ユークリッドの互除法と不定方程式	ユークリッドの互除法		○	○	○			
			1次不定方程式	○	○	○				
	4	整数の性質の活用	分数と小数	○	○					
n進法			○	○						
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	理科・化学基礎	学年	第1学年	教科書	数研出版「改訂版 化学基礎」
		単位数	2単位	副教材	数研出版「五訂版 リードα 化学基礎」

**学習目標**  
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養うことを目標とします。

**学習方法**  
○授業では化学のノートを用意し、板書と問題演習に利用します。そのほか問題演習専用のノートも使います。  
○演示実験や生徒実験を通して実験の基本操作を習得し、データの処理の仕方を身に付けましょう。  
○問題演習を数多く解き、計算問題などの解答能力を習得しましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。
	b	思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
	c	観察・実験の技能	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
	d	知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法			
					a	b	c	d					
前期	物質の構成と化学結合	8	物質の構成	混合物と純物質	○			○	a:物質の構造や性質に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとしている。 b:混合物の分離や成分元素の確認などの実験の原理を考察できる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質の構造や性質に関する基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート			
				物質の三態	○	○							
		8	物質の構成粒子	原子とその構造	○						a:物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとしている。 b:物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとしている。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:電子配置の安定性を理解し、化学結合に関する知識を身に付けている。		
				イオン	○								
		16	粒子の結合	イオン結合とイオンからなる物質	○	○	○					a:化学変化や酸塩基の中和反応に関心をもち、意欲的に変化を探究しようとしている。 b:化学変化では、一定の量的関係を物質量と関連付け考察することができる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				分子と共有結合	○	○							
共有結合の物質	○			○									
			金属結合と金属	○	○								
後期	物質の変化	8	物質量と化学反応式	原子量・分子量・式量と物質量	○	○			a:酸化還元反応に関心をもち、日常と関連付けながら意欲的に探究しようとしている。 b:酸化還元概念と化学変化の量的関係を理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート			
				化学反応式と物質量	○	○	○						
		12	酸と塩基の反応	酸・塩基と水溶液のpH	○						a:酸化還元反応に関心をもち、日常と関連付けながら意欲的に探究しようとしている。 b:酸化還元概念と化学変化の量的関係を理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。		
				中和反応と塩	○		○	○					
		12	酸化還元反応	酸化と還元	○							a:酸化還元反応に関心をもち、日常と関連付けながら意欲的に探究しようとしている。 b:酸化還元概念と化学変化の量的関係を理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	
				酸化還元反応	○	○							
金属の酸化還元反応	○				○	○							
			酸化還元反応の応用	○									
合計時数(55分授業)		64											

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	理科・生物基礎	学年	第1学年	教科書	実教出版「生物基礎 新訂版」
		単位数	2単位	副教材	東京書籍「改定版NEW GLOBAL 生物基礎」 数研出版「三訂版フォトサイエンス生物図録」

**学習目標**  
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養い、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付けることを、目標とします。

**学習方法**  
○ 授業における課題に対して自ら考える活動を行います。  
○ 授業においては実験実習を行い、レポートを作成し提出してもらいます。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち探求しようとするともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
b	思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	
c	観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	
d	知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	生物と遺伝子	16	生物の特徴	生物の多様性と共通性	○	○	○	○	a:生物の共通祖先や代謝・呼吸・光合成について関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。 b:現生生物の特徴から、生物の共通祖先のモデルを理論的に推定する。 c:顕微鏡の扱い方、観察材料に応じたプレパラートの作成法を習得している。 d:すべての生物は共通した特徴をもつことや代謝・呼吸・光合成について理解する。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み
				細胞とエネルギー	○	○	○	○		
		16	遺伝子とその働き	遺伝情報とDNA	○	○	○	○	a:遺伝子研究の歴史やDNAに興味を示し、意欲的に学習しようとする。 b:遺伝子研究の歴史から、実験結果からどのような事実がわかったのかを理解する。 c:押しつぶし法によってプレパラートを作成できるようになる。 d:DNAの二重らせん構造の特徴や複製、タンパク質合成について理解している。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み
後期	生物の体内環境とその維持	16	生物の体内環境	体内環境	○	○	○	○	a:体液と恒常性との関係や生体防御に関心をもち、理解しようとする。 b:恒常性の維持について科学的に考察する。 c:実験の結果を的確に記録し、わかりやすくまとめることができる。 d:体液の種類と関係について、生体防御や体内環境の維持について理解している。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み
				体内環境維持の仕組み	○	○	○	○		
				免疫	○	○	○	○		
後期	生物の多様性と生態系	8	植生の多様性と分布	植生と遷移	○	○	○	○	a:陸上の生物集団の成り立ちに関心をもち、バイオームについて理解しようとする。 b:陸上のバイオームは、そこに生育する植物に依存して成り立つことを科学的に理解する。 c:複数の試料について測定を行い、信頼性の高い数値を得ることができる。 d:バイオームの概念を理解している。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み
				気候とバイオーム	○	○	○	○		
		8	生態系とその保全	生態系と物質循環	○	○	○	○	a:生態系の成り立ちやその保全について関心をもち、意欲的に理解しようとする。 b:食物網において、上位にある生物がいなくなった場合にどのような影響が生じるかなど、生態系のバランスについて科学的に理解する。 c:情報機器などを利用して、信頼のできる情報を得ることができる。 d:生態系の構造やその保全について理解している。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み
	人間活動と生態系の保全	○	○	○	○					
合計時数(55分授業)		64								

# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	保健体育・体育	学年	第1学年	教科書	大修館書店「アクティブスポーツ2021(総合版)」
		単位数	3単位	副教材	

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら希望する種目を選択し、楽しみながら学ぶ喜びを知ることができるようにする。</li> <li>・基礎体力を向上できるようにする。</li> <li>・基本的技能を修得できるようにする。</li> <li>・試合の進め方、方法、ルールを理解できるようにする。</li> </ul>
------	--

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業における課題に対して自ら考えられるような活動を行う。</li> <li>○学習ノート、補助プリント等を利用する。</li> <li>○互いに協力し、自己の責任を果たせるようグループでの活動を行う。</li> </ul>
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。
b	思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	
c	運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	
d	知識・理解	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	体づくり運動(全員)	3	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・基礎練習</li> <li>・応用練習</li> <li>・トレーニング</li> </ul>	○	○	○	○	a:仲間と協力し、積極的に運動に参加している。 b:自分の体力を把握し、適切な目標を設定できる。 d:体づくりの意義を理解している。	・授業への取り組み
	球技・武道(全種目男女)	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドボール</li> <li>・バレーボール</li> <li>・柔道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・基礎練習</li> <li>・応用練習</li> <li>・ゲーム(試合)</li> </ul>	○	○	○	○	球技 a:ルールを守り、公正な態度で練習や試合を行っている。 b:ゲームに必要なルールや審判法を知っている。 c:基本的な技術を向上させることができる。 d:基本的な技術を実践で生かせる。 武道 a:積極的に技を覚えている。 b:自己の能力に応じて練習を工夫できる。 d:武道に対する伝統的な考え方を理解している。	・授業への取り組み ・記録 ・試験
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳</li> <li>・器械運動</li> <li>・陸上競技</li> <li>・ダンス</li> </ul> (全種目男女)	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳</li> <li>・器械運動</li> <li>・陸上競技</li> <li>・ダンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・基礎練習</li> <li>・応用練習</li> <li>・記録測定(発表)</li> </ul>	○	○	○	○	水泳 a:記録の向上の喜びや競泳の楽しさなどを味わっている。 b:自己の目標を達成するための練習を計画している。 器械運動 b:自己に合った技を選択している。 c:技の習得し、演技の構成をすることができる。 陸上競技 c:自己の記録を向上するための各種の技能を高めることができる。 d:自己の記録を向上するための方法を理解している。 ダンス a:曲に合わせて、楽しく取り組んでいる。 b:自己の能力に応じた課題を選び、自ら考え工夫することができる。	
球技・武道(全種目男女)	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトボール</li> <li>・バスケットボール</li> <li>・剣道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・基礎練習</li> <li>・応用練習</li> <li>・ゲーム(試合)</li> </ul>	○	○	○	○	球技 a:ルールを守り、公正な態度で練習や試合を行っている。 b:ゲームに必要なルールや審判法を知っている。 c:基本的な技術を向上させることができる。 d:基本的な技術を実践で生かせる。 武道 a:積極的に技を覚えている。 b:自己の能力に応じて練習を工夫できる。 d:武道に対する伝統的な考え方を理解している。		
後期	球技(全種目男女)	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー</li> <li>・テニス</li> <li>・バドミントン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・基礎練習</li> <li>・応用練習</li> <li>・ゲーム(試合)</li> </ul>	○	○	○	○	a:ルールを守り、公正な態度で練習や試合を行っている。 b:ゲームに必要なルールや審判法を知っている。 c:基本的な技術を向上させることができる。 d:基本的な技術を実践で生かせる。	
	陸上競技(全員)	12	持久走	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・ジョギング</li> <li>・タイム測定</li> </ul>	○	○	○	○	a:持久走の必要性を理解し、積極的に取り組んでいる。 b:体に負担の少ない走り方を考えている。 c:自己のベスト記録を更新することができる。 d:自己の能力を判断し、適切な目標タイムを設定できる。	・授業への取り組み ・記録
	体育理論	6	体育理論	運動・スポーツの文化的特徴	○	○	○	○	a:運動・スポーツの文化的特徴について理解し、諸問題について学ぼうとしている。 b:運動・スポーツの文化的特徴の問題点を考えている。 d:運動・スポーツの文化的特徴の問題点について理解している。	・授業への取り組み ・レポート
合計時数(55分授業)		96								



令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	保健体育・保健	学年	第1学年	教科書	大修館書店「現代高等保健体育 改訂版」
		単位数	1単位	副教材	大修館書店「図説現代高等保健」

学習目標	健康を保持増進するために適切な生活行動を選択し実践できるようにする。 また、環境を改善していく能力を身に付けられるようにする。
------	--

学習方法	○授業における課題に対して自ら考えられるような活動を行う。 ○ノート、補助プリント等を利用する。 ○テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。
------	---

学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
	a 関心・意欲・態度	私たちの健康について、関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。
b 思考・判断	私たちの健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	
d 知識・理解	私たちの健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	

※定期試験に関しては、上記3つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	d		
前期	現代社会と健康	5	健康の考え方	国民の健康水準と疾病構造の変化	○	○	○	a: 現代社会の健康水準や健康のとりえ方について理解し、健康問題について課題を解決しようと意欲的に取り組んでいる。 b: 自己や家族の生活習慣の問題点に気づき、改善しようとしている。 d: 個人の行動と社会の活動が私たちの健康とどうかかわっているか理解している。食事・運動・休養や睡眠・喫煙・飲酒などの生活習慣を適切なものにしていく必要性や、医薬品の使用、薬物乱用と健康、感染症の予防などの問題について理解している。	・授業への取り組み ・小テスト ・試験
				健康のとりえ方と成り立ち	○	○	○		
				健康に関する意志決定や行動選択	○	○	○		
				健康に関する環境づくり	○	○	○		
前期	現代社会と健康	11	健康の保持増進と疾病の予防	生活習慣病と日常生活行動	○	○	○	a: 現代社会の健康水準や健康のとりえ方について理解し、健康問題について課題を解決しようと意欲的に取り組んでいる。 b: ストレスの存在に気づき、適切なストレスの対処法を考え行動できる。交通事故の悲惨さを理解し、運転者・歩行者の立場で交通環境や運転状況を考えている。 d: 心の働きと健康とのかかわり、ストレスへの対処、自己実現について理解している。わが国の交通事故の現状を把握し、事故の原因と対策、および交通社会で必要とされる資質と責任について理解している。応急手当の手順や方法について理解している。	・授業への取り組み ・試験
				喫煙、飲酒と健康	○	○	○		
				薬物乱用と健康	○	○	○		
				感染症とその予防	○	○	○		
後期	現代社会と健康	6	精神の健康	欲求と適応機制	○	○	○	a: 現代社会の健康水準や健康のとりえ方について理解し、健康問題について課題を解決しようと意欲的に取り組んでいる。 b: ストレスの存在に気づき、適切なストレスの対処法を考え行動できる。交通事故の悲惨さを理解し、運転者・歩行者の立場で交通環境や運転状況を考えている。 d: 心の働きと健康とのかかわり、ストレスへの対処、自己実現について理解している。わが国の交通事故の現状を把握し、事故の原因と対策、および交通社会で必要とされる資質と責任について理解している。応急手当の手順や方法について理解している。	・授業への取り組み ・試験 ・発表 ・レポート
				心身の相関	○	○	○		
				ストレスへの対処	○	○	○		
				自己実現	○	○	○		
	現代社会と健康	5	交通安全	交通事故の現状	○	○	○		
				交通社会に必要な資質と責任	○	○	○		
				安全な社会づくり	○	○	○		
				応急手当の意義	○	○	○		
現代社会と健康	5	応急手当	日常的な応急手当	○	○	○			
			心肺蘇生法	○	○	○			
				○	○	○			
合計時数(55分授業)		32							

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	芸術・音楽 I	学年	第1学年	教科書	教育出版「高校音楽 I 改訂版 Music View」
		単位数	2単位	副教材	教育芸術社「3訂版 高校生のための音楽研究ノート」

**学習目標**  
音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

**学習方法**  
○技能の習得は短時間にできるものではありません。授業時間を無駄にせず、焦らずあきらめずに練習しましょう。  
○楽譜に関する理解や鑑賞は演奏と深く結び付いています。真摯に取り組みましょう。  
○他の生徒の演奏を聴いたり、自分の演奏を聴いてもらったりしながら、表現方法を学んでいきましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	音楽への関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。
b	音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	
c	音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表現している。	
d	鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	A 表現	16	(1) 歌唱	独唱 伊・独・英語ほか	○	○	○		a: 独唱や二重唱に興味を持ち、発声・発音練習等にも積極的に取り組んでいる。 b: 楽曲の形式や音楽的な特徴を理解し、それらの働きを感じながら、表現を工夫している。 c: 楽曲のジャンルや表現形態に応じた歌唱方法を身に付けている。	・授業への取り組み ・実技テスト
		8		二重唱	○	○	○			・授業への取り組み ・演奏発表兼実技テスト ・相互評価
		6	(3) 創作	楽典	○		○		a: 楽譜に興味を示し、楽典をたたく理解しようとしている。 c: 学んだ知識を実際の楽曲に生かしている。	・授業への取り組み ・小テスト
	B 鑑賞	2	(4) 鑑賞	器楽・声楽曲				○	d: 声や楽器の特性を理解して、主体的に曲を聴こうとする態度ができています。 楽曲の形式を理解し、分析的に聴こうとしている。	・授業への取り組み ・提出物
後期	A 表現	8	(1) 歌唱	合唱	○	○	○		a: 合唱に興味を持ち、主体的に練習に取り組んでいる。 b: 楽曲の構成や音楽的な特徴を理解しながら、皆と表現しようとしている。 c: 合唱の歌唱技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・実技テスト
		12	(2) 器楽	箏曲二重奏	○	○	○		a: 箏曲に興味を持ち、楽器や道具の扱いに注意しながら積極的に取り組んでいる。 b: 日本音楽の特徴の理解に努め、和の雰囲気味わいながら、自らの技能にあった演奏表現を工夫している。 c: 音色と表現の関係を理解し、正しい技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・実技テスト
		5		ポティ・パーカッション	○	○	○		a: リズム表現に興味を持ち、主体的にグループ活動や練習に取り組んでいる。 b: 楽曲の構成や音楽的な特徴を理解し、それらの働きを感じながら、自身の表現を工夫している。 c: リズムアンサンブルの表現技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・演奏発表兼実技テスト ・相互評価
		5	(3) 創作	楽典	○		○		a: 楽譜に興味を示し、楽典をたたく理解しようとしている。 c: 学んだ知識を実際の楽曲に生かしている。	・授業への取り組み ・小テスト
	B 鑑賞	2	(4) 鑑賞	音楽と劇 (ミュージカル)	○			○	a: 物語や表現方法に興味を持ち、その良さを感じながら鑑賞している。 d: 作品の構成や音楽的特徴と表現上の効果とのかかわりを理解している。	・授業への取り組み ・提出物
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	芸術・美術 I	学年	第1学年	教科書	日本文教出版社「高校生の美術1」
		単位数	2単位	副教材	

学習目標	内外における美術の幅広い活動を通して国際的な感覚を身に付け、生涯にわたり美術を愛好する心情を育み、感性を高める。より専門的な芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化への理解を深め、豊かな情操を養う。				
学習方法	○授業は実技中心に行い、基礎的な美術の力を養うため、絵画、デザイン、色彩演習等の平面作品を主に制作し、生徒ひとり一人の進捗を観察しながら、じっくりと技術力と表現力の向上を目指します。 ○作品づくりを通して、自らの存在と高校生としての自覚を持って感性豊かな表現力を身に付けていきます。 ○生徒相互の作品を鑑賞し合い、客観的なものの見方を養うだけでなく、幅広い芸術文化への興味関心を持ち理解を深めましょう。				
学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨		
	a	美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。		
	b	発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。		
	c	創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を工夫して表している。		
	d	鑑賞の能力	美術作品の表現の工夫や美術文化などを理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。		

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	オリエンテーション 表現・鑑賞	12	デザイン (色彩構成)	・平面色彩表現 ・色彩理論とデザイン	○	○	○	○	ad中学校までに学んだ美術科目の知識と技術を確認しつつ、高等学校美術科目の方向性と目標について説明し、美術科目への客観的な理解を深める。bc全員に同じ条件に基づいた課題として色彩構成を制作する。美術における基礎的な構成力や表現力に加え、色彩について理解しようと工夫と努力が見られる。	授業への取り組みと活動観察 提出作品 ワークシート レポート課題
		20	絵画・映像 (自画像 淡彩着彩) 鑑賞 夏休み課題 (美術館についての調べ学習)	・絵画技法を学ぶ (デッサン・着彩)・ 絵画と写真の違いを学び、自画像を描き、表現方法を考察する	○	○	○	○	aモチーフから発想する画面構成、素材の特徴と色彩を取り入れた作品を考えようと努力している。 b発想から計画、制作のプロセスを観察し、感性豊かな表現に結びついており達成感を味わっている。 c構成バランスを工夫している。 dグループで協力し合って作品づくりに努めている。	
後期	表現・鑑賞	22	絵画 ・デザイン	・切り絵(白黒のバランスと構成力)	○	○	○	○	a物語の一場面をテーマに基づいた画面構成、切り絵の特徴と色彩を取り入れた作品を考えようと努力している。 b発想から計画、制作のプロセスを観察し、感性豊かな表現に結びついており達成感を味わっている。 c構成バランスを工夫している。 dお互い作品を鑑賞し、アドバイス等のコメントをしている。	授業への取り組みと活動観察 提出作品 アイディアスケッチ 鑑賞シート
		10	塑像 芸術週間 作品鑑賞	・模刻(食品サンプル)	○	○	○	○	a身近なものをじっくり観察し、様々な形態や質感を発見できる力を身に付けている。 b素材の特徴を理解し、本物そっくり再現できるよう表現を試行錯誤し、創作に生かしている。 c本物に近づけるよう様々な技法を駆使し、丁寧に表現している。 d他人の作品の良さや価値を見出し、共感できる姿勢が見られる。	
合計時数(55分授業)		64								

# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	芸術・書道 I	学年	第1学年	教科書	光村図書出版「書 I」
		単位数	2単位	副教材	

**学習目標**  
書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を養うとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基本的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

**学習方法**  
○表現では実技を中心に基礎・基本となる学習をします。丁寧な学習を心がけましょう。  
○鑑賞では文字や書の伝統と文化について理解したり、作品の表現の根拠を考えたりします。多くの視点で考えましょう。  
○生徒同士での話し合いや考えを発表することもあります。積極的に取り組みましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	
b	書表現の構想と工夫	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。		
c	創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、効果的な表現の技能を身に付け表している。		
d	鑑賞の能力	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書よさや美しさを創造的に味わっている。		

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	表現・鑑賞	20	漢字の書	姿勢・執筆	○			○	a: 用具・用材の知識や扱いを理解するとともに、楷書の表現に興味を持ち書写能力の向上に努めている。 b: 楷書の書美に対する感性を働かせて、普遍性のある表現を工夫している。 c: 楷書の基本的な点画や線質の表し方を理解し、創造的な書表現をするための基本事項を身に付けている。 d: 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解している。	・授業への取り組み ・ワークシート ・提出作品
				楷書の学習	○	○	○	○		
前期	表現・鑑賞	12	漢字仮名交じりの書	漢字仮名交じり書の学習(半紙創作・うちわに文字を書く)	○	○	○	○	a: 書の魅力や身の回りの書に興味・関心を持っている。 b: 目的や用途に即した形式と書き方を判断し、用具用材、全体構成などについて工夫している。 c: 実用的な表現や芸術的な表現を理解し、漢字と仮名の線質の調和を図る技能を身に付けて表している。 d: 社会の中での書の役割を知り、書の効用を理解している。	・授業への取り組み ・ワークシート ・提出作品
				暮らしの中の書	○	○	○	○		
後期	表現・鑑賞	14	漢字の書	行書の学習	○	○	○	○	a: 行書の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 b: 行書の構造や変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫している。 c: 行書の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を理解し、創造的な表現を身に付け表している。 d: 書の伝統と文化について幅広く理解している。	・授業への取り組み ・ワークシート ・提出作品
				平仮名・変体仮名の学習	○	○	○	○		
					連綿の学習	○	○	○		
	後期	表現・鑑賞	5	漢字仮名交じりの書	半切作品の制作	○	○	○	○	a: 書の魅力や身の回りの書に興味・関心を持っている。 b: 目的や用途に即した形式と書き方を判断し、用具用材、全体構成などについて工夫している。 c: 実用的な表現や芸術的な表現を理解し、漢字と仮名の線質の調和を図る技能を身に付けて表している。 d: 社会の中での書の役割を知り、書の効用を理解している。
短冊の制作					○	○	○	○		
後期	鑑賞	1	鑑賞	芸術週間作品鑑賞	○			○	a: 鑑賞することを楽しみ、書への関心を高めようとしている。 d: 作品の良さや美しさを創造的に味わっている。	・授業への取り組み ・鑑賞カード
合計時数(55分授業)		64								

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	3
教科書	東京書籍「PROMINENCE English CommunicationⅠ」		副教材	東京書籍「PROMINENCE English CommunicationⅠ WORKBOOK Standard」 旺文社「英単語ターゲット1400」	

CAN-DO リストに基づく学習到達目標とその評価規準・評価方法					
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	(評価方法) コミュニケーション活動への取組の観察				
外国語表現 の能力	<p>話すこと</p> <table border="1"> <tr> <td>やり取り</td> <td>発表</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> <li>定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>英語を話すことに抵抗を感じない。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>前もって準備してあれば、聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近なことがらなどについて、簡単な英語で話すことができる。</li> <li>聞き手を意識して発表することができる。(アイコンタクトなどの定着)</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>(評価方法) 課題及びスピーキングテスト (年2回)</p>	やり取り	発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> <li>定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>英語を話すことに抵抗を感じない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前もって準備してあれば、聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近なことがらなどについて、簡単な英語で話すことができる。</li> <li>聞き手を意識して発表することができる。(アイコンタクトなどの定着)</li> </ul>
	やり取り	発表			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> <li>定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>英語を話すことに抵抗を感じない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前もって準備してあれば、聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近なことがらなどについて、簡単な英語で話すことができる。</li> <li>聞き手を意識して発表することができる。(アイコンタクトなどの定着)</li> </ul>			
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>*<u>枠組みや補助</u>があれば、聞いたり読んだりしたことや身近なことがらについて、まとまりのある英文を書くことができる。</li> <li>※<u>枠組みや補助</u>とは、理由の述べ方やパラグラフ・ライティングなど、ライティングの基本的な型を指す。</li> <li>英文を書くことに抵抗を感じない。</li> </ul> <p>(評価方法) 課題及びライティングテスト (ライティングテストは年1回)</p>				
外国語理解 の能力	<p>聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身や家族の情報、買い物、地元の地域、学校などの身近なことについて、聞き取ることができる。</li> </ul> <p>(評価方法) 課題及び定期テスト・小テスト</p> <p>読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習を目的に書かれた短めの英文を読んで、その概要や要点を読み取ることができる。</li> <li>文の構造や意味を正しく理解することができる。</li> </ul> <p>(評価方法) 課題及び定期テスト・小テスト</p>				
言語や文化についての 知識・理解	(評価方法) 課題及び定期テスト・小テスト				

科目	コミュニケーション英語 I	学期	前	時数 (55分授業)	48	単元	Lesson 1～5		
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)						評価方法		
	定期テスト 小テスト	パワー テスト	課題						
Lesson 1	コミュニケーションへの関心・態度：ペアワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。 (評価方法：活動の観察)								
	外国語理解 の能力	L: "We are Together" に関するインタビューを聞いて、概要やキーワードを聞き取ることができる。						○	
	外国語表現 の能力	R: ..... S: "We are Together" について身近な日本文化を取り上げ、簡単な紹介ができる。						○	○
	言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。	W: ..... ○						○	
Lesson 2	コミュニケーションへの関心・態度：ペアワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。 (評価方法：活動の観察)								
	外国語理解 の能力	L: ..... R: "Animal Emotions" に関する説明文の概要や要点を読み取ることができる。						○	
	外国語表現 の能力	S: ..... W: "Animal Emotions" について、まとまった量の英文を書くことができる。						○	○
	言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。	○						○	
Lesson 3	コミュニケーションへの関心・態度：ペアワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。 (評価方法：活動の観察)								
	外国語理解 の能力	L: 文化の再生に関する説明文を聞いて、概要やキーワードを聞き取ることができる。						○	
	外国語表現 の能力	R: ..... S: 文化の再生について、簡単な紹介ができる。						○	○
	言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。	○						○	

	の能力	W:			
	言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。			○	
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。 (評価方法：活動の観察)				
Lesson 4	外国語理解の能力	L: R: 環境問題に関する説明文の概要や要点を読み取ることができる。			
	外国語表現の能力	S: W: まとまった量の英文で環境問題の紹介ができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。			○	
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。 (評価方法：活動の観察)				
Lesson 5	外国語理解の能力	L: 葛飾北斎に関する説明文を聞いて、概要やキーワードを聞き取ることができる。			
	外国語表現の能力	S: 葛飾北斎の簡単な紹介ができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。			○	
	授業中に、リスニングテストを随時行います。また、英作文を課題として提出します。パフォーマンステストを3回実施します。パフォーマンステストの詳細や評価方法は授業の中で連絡します。				
備考					

科目	コミュニケーション英語 I	学 期	後	時数 (55分授業)	48	単元	Lesson 6～10	
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)						評価方法	
	定期テスト	小テスト	パフォーマンステスト	課題				
Lesson 6	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。							
	(評価方法：活動の観察)							
	外国語理解の能力			L：アンパンマンに関するインタビューを聞いて、概要やキーワードを聞き取ることができる。				○
	外国語表現の能力			R： S：日本のアニメについて、簡単なやり取りができる。 W：				○
言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。								
コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。								
(評価方法：活動の観察)								
Lesson 7	外国語理解の能力			L： R：イグ・ノーベル賞に関する説明文の概要や要点を読み取ることができる。				○
	外国語表現の能力			S： W：イグ・ノーベル賞について、まとまった量の英文を書くことができる。				○
	言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。							
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。							
(評価方法：活動の観察)								
Lesson 8	外国語理解の能力			L：折り紙と自然の神秘に関する説明文を聞いて、概要やキーワードを聞き取ることができる。				○
	外国語表現の能力			R： S：伝統文化の紹介ができる。				○
	言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。							
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。							
(評価方法：活動の観察)								



	言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。	○	
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。 (評価方法：活動の観察)		
Lesson 9	外国語理解の能力		
	外国語表現の能力	○	
	外国語理解の能力	○	○
	外国語表現の能力	○	○
	言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。	○	
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。 (評価方法：活動の観察)		
Lesson 10	外国語理解の能力	○	
	外国語表現の能力	○	○
	外国語理解の能力	○	
	外国語表現の能力	○	○
	言語や文化に関する知識・理解：使われている言葉の意味や働きを理解している。	○	
備考	授業中に、リスニングテストを随時行います。また、英作文を課題として提出します。パフォーマンステストを1回、スピーキングテストを3回実施します。パフォーマンステストの詳細や評価方法は授業の中で連絡します。		

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科	外国語	科目	英語表現 I	単位数	2
教科書	啓林館「Vision Quest English Expression I Advanced」		副教材	いいずな書店「総合英語 Evergreen」 いいずな書店「総合英語 Evergreen English Grammar 27 Lessons updated」	

CAN-DO リストに基づく学習到達目標とその評価規準・評価方法					
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	(評価方法) コミュニケーション活動、授業内アクティビティへの取り組みの観察および提出物による。				
外国語表現 の能力	<p style="text-align: center;">話すこと</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; border-right: 1px dashed black;">やり取り</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">発表</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に英語を話すことができる。</li> <li>・ 定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>・ なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前もって準備してあれば、聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近な事柄等について、簡単な英語で話すことができる。</li> <li>・ 聞き手を意識して発表ができる。(アイコンタクトなどの定着)</li> </ul> </td> </tr> </table>	やり取り	発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に英語を話すことができる。</li> <li>・ 定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>・ なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前もって準備してあれば、聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近な事柄等について、簡単な英語で話すことができる。</li> <li>・ 聞き手を意識して発表ができる。(アイコンタクトなどの定着)</li> </ul>
	やり取り	発表			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に英語を話すことができる。</li> <li>・ 定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>・ なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前もって準備してあれば、聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近な事柄等について、簡単な英語で話すことができる。</li> <li>・ 聞き手を意識して発表ができる。(アイコンタクトなどの定着)</li> </ul>			
	(評価方法) 定期テスト、パフォーマンステスト (年2回)				
書くこと					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に英語を書くことができる。</li> </ul> ※ <u>枠組み</u> や <u>補助</u> があれば、聞いたり読んだりしたことや身近なことからについて、まとまりのある英文を書くことができる。 ※ <u>枠組み</u> や <u>補助</u> とは理由の述べ方やパラグラフライティングなど、ライティングの基本的な型を指す。					
(評価方法) 定期テスト、小テスト、課題					
外国語理解 の能力	聞くこと				
	(評価方法)				
	読むこと				
	(評価方法)				
言語や文化についての 知識・理解	(評価方法) 定期テスト、小テスト、課題				

科目	英語表現 I	学期	前	時数 (55分授業)	3 2	単元	啓林館「Vision Quest English Expression I Advanced」		
単元名	単元の評価規準（学習到達目標）						評価方法		
	定期テスト	パワーマンス テスト	課題						
Lesson1 ～ Lesson2	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。</p> <p>外国語理解の能力 L: _____ R: _____</p> <p>外国語表現の能力 S: 文型を使い分けて、正しく話することができる。 W: 文型の用法を理解し、それぞれの場面で使い分けて、表現することができる。</p> <p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>						○	○	○
Lesson3 ～ Lesson4	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。</p> <p>外国語理解の能力 L: _____ R: _____</p> <p>外国語表現の能力 S: 時制を使い分けて、正しい英文を話すことができる。 W: 時制の用法を理解し、それぞれの場面で使い分けて、表現することができる。</p> <p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>						○	○	○
Lesson5 ～ Lesson6	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。</p> <p>外国語理解の能力 L: _____ R: _____</p> <p>外国語表現の能力 S: 助動詞・受動態を使い分けて、正しい英文を話すことができる。 W: 助動詞・受動態の用法を理解し、場面に応じて、必要な表現を用いることができる。</p> <p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>						○	○	○

備考  
 パフォーマンステストとして、ライティングテストを1回、スピーキングテストを1回実施します。パフォーマンステストの詳細や評価方法は授業の中で連絡します。  
 また、夏休みの課題として、既習事項の演習問題を解きます。

科目	英語表現 I	学期	後	時数 (55分授業)	3 2	単元	啓林館「Vision Quest English Expression I Advanced」		
							定期テスト 小テスト	パフォーマンス テスト	課題
単元の評価規準 (学習到達目標)							評価方法		
Lesson7 ~ Lesson9							(評価方法：授業内の取り組み、提出物)		
コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。 外国語理解の能力 L: R: 外国語表現の能力 S: 不定詞、動名詞、分詞を使い分けて、適切に話すことができる。 W: 不定詞、動名詞、分詞を使い分け、必要な表現を用いて英文を書くことができる。 言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。									
Lesson10							(評価方法：授業内の取り組み、提出物)		
コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。 外国語理解の能力 L: R: 外国語表現の能力 S: 関係詞を使い、正しい英文を話すことができる。 W: 関係詞の用法を理解し、場面に応じて、使い分けて表現することができる。 言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。									
Lesson11 ~ Lesson12							(評価方法：授業内の取り組み、提出物)		
コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。 外国語理解の能力 L: R: 外国語表現の能力 S: 比較・仮定法の様々な表現を使い分けて、適切に話すことができる。									

	の能力	W：比較・仮定法の様々な表現を使い分けて、適切な英文を書くことができる。			○
備考	言語や文化に関する知識・理解	言語材料について正しく理解し、運用することができる。			
		パフォーマンステストとして、ライティングテストを1回、スピーキングテストを1回実施します。パフォーマンステストの詳細や評価方法は授業の中で連絡します。 また、冬休み、入試期間中の課題として既習事項に関わる問題演習を行います。			

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	総合的な探究の時間(SL)	学年	第1学年	教科書	
		単位数	1単位	副教材	課題研究メソッド(啓林館) 校史教育冊子(自主教材)

学習目標	自らの興味関心に基づき、テーマを探し出す力を養います。また、テーマに基づいて目標を設定し、学習を進める方法を学びます。さらに、学習の成果をレポート・発表として表現する力、自己の生き方・在り方を考えることができる力を身に付けます。
------	--

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講演を聞いたり、大学研究を行ったりすることで、でグローバル社会の自己の生き方・在り方を考えます。</li> <li>○課題研究を行うことで、自らの興味関心に基づいたテーマを探し出します。</li> <li>○以上の2つから学習を進める方法を学び、その成果を発表することにより、他者に伝えることや、他者への理解を深めましょう。</li> </ul>
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨		
	a	知識・技能	探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、グローバル社会に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。		
	b	思考・判断・表現	諸問題と自己との関わりから問いを見出し、自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。		

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c		
通年	総合的な探究の時間	1	自己探求	ガイダンス(情報収集の方法)	○		○	a:探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、グローバル社会に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。 b:諸問題と自己との関わりから問いを見出し、自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 c:探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。	授業への取り組み ワークシート
		1		校史教育	○				
		4		スタディサポート キャリアサポート		○	○		
		8		講演会(薬物・人権・先輩セミナー・思春期・携帯電話)	○	○			
		6		グローバル教育 オンライン 海外学校交流 他	○	○	○		
		12	課題研究	課題研究	○	○	a:探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、グローバル社会に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。 b:諸問題と自己との関わりから問いを見出し、自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 c:探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。	授業への取り組み 模造紙等 評価シート 報告書	
	発表			○	○				
合計時数(55分授業)		32							

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	国語・現代文B	学年	第2学年	教科書	第一学習社「高等学校 改訂版 現代文B」
		単位数	2単位	副教材	第一学習社「意味から学ぶ頻出漢字3000」 第一学習社「新版四訂カラー版新国語便覧」

**学習目標**  
近代以降の優れた文章や作品を読解し、鑑賞する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深めることを目標とする。

**学習方法**  
○授業で扱う各教材について自ら考え、また周りの生徒とともに作品を読解する活動を行います。  
○授業では「新版四訂カラー版新国語便覧」を利用し、文学史などの知識を深めます。  
○小テスト・課題レポートなど、各自の取り組みを評価します。テスト実施日や提出日をしっかりと把握しましょう。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
b	話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
c	書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
d	読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
e	知識・理解	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d	e			
前期	近現代の文章	7	評論	「自明性の畏」からの解放	○	○	○			○	a文章の論理展開を的確に把握し、筆者の主張を理解している。 b内容について自分なりの意見を持ち、今後の考え方に反映させることができる。 c与えられた課題に即して思考を深めスピーチや作文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。 d古典的な名作を読み文学の面白さを味わうことができる。 d登場人物の心情を的確にとらえ、時代と人間の関係について考えを深めることができる。	授業への取り組み・定期試験・小テスト等
		11	小説	山月記	○			○	○		e筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について認識を深めることができる。また、進んで評論を読む態度を身に付けている。	
		7	評論	手の変幻	○	○	○			○		
		7	評論	働かないアリに意義がある	○	○	○			○		
後期	近現代の文章	5	評論	「集合知」という考え方	○	○	○			○	a文章の論理展開を的確に把握し、筆者の主張を理解している。 b与えられた課題に即して考察を深めスピーチや作文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。 c内容について自分なりの意見を持ち、社会的な問題に対し広く目を向けていくことができる。 d筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について深い考察をめぐらすことができる。また、近代の文学作品を主体的に読解し、より深く鑑賞する力と知識を身に付けている。 e完成度の高い文章の論理展開を的確に把握し理解している。	
		16	小説	こころ	○	○	○			○		
		5	評論	動的平衡	○			○	○	○		
		6	小説	葉桜と魔笛	○			○	○	○		
合計時数(55分授業)		64										

# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	国語・古典A	学年	第2学年	教科書	第一学習社「高等学校 改訂版 標準古典A 物語選」
		単位数	2単位	副教材	東京書籍「新精選古典文法 改訂版」 第一学習社「新版四訂カラー版新国語便覧」 いっずな書店「古文単語330三訂版」

**学習目標**  
1年次の国語総合における古典の学習成果を踏まえ、基礎学力を定着させるとともに、発展的に古典を鑑賞する姿勢を養い、中古の古文作品を中心に読解・鑑賞し、漢文も取り入れながら学習し、作品を取り巻く時代、文化、社会等について幅広く学習し、興味・関心を高めながら知識を深めることを目標とする。

**学習方法**  
○繰り返し音読することで古典のリズムを体感し、古人の心を理解するよう努力しましょう。  
○古典文法や古語についての知識を確かにするために、一つ一つ確認しながら読解を進めていきます。  
○重要古語の意味内容を覚えるため、古文単語の小テストを定期的に行います。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。
	d	読む能力	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。
	e	知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解を深め、知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	d	e		
前期	古文	6	物語	竹取物語	○	○	○	a物語を読むことに興味・関心を持っている。 a範読・音読・指名読みに積極的に取り組んでいる。 d作品の内容を的確に理解している。 d随筆の作者の内面を理解している。 e用言の活用・助動詞・助詞、重要古語などについて理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み、定期テスト、単語テスト等
		6	歌物語	伊勢物語	○	○	○		
		6	歴史物語	大鏡	○	○	○		
		6	随筆	方丈記	○	○	○		
前期	漢文	4	故事・寓話	「嬰逆鱗」 「画竜点睛」	○	○	○	a中国文化や漢文に関心を持っている。 a故事成語や教材の内容に興味・関心を持っている。 a範読・音読・指名読みの際の態度は積極的である。 d返り点に従って正しく音読できる。 dそれぞれの文章の内容を的確に理解している。 e漢文訓読・書き下し文のきまりを理解している。 e再読文字・助字の種類や用法を理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。	
		4	漢詩	近体詩	○	○	○		
後期	古文	6	随筆	枕草子	○	○	○	a長編物語・随筆等を読むことや、教材の内容に興味・関心を持っている。 d随筆の作者の内面を理解している。 d物語の展開と登場人物の心情を理解している。 e助動詞・助詞・重要古語などについて理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。 e和歌論・人物論を支える発想法を理解している。	
		8	物語	源氏物語	○	○	○		
		6	日記文学	更科日記	○	○	○		
	漢文	8	歴史物語	鴻門之会	○	○	○		a史伝を読むことに興味・関心を持っている。 d範読・音読・指名読みに積極的に取り組んでいる。 d返り点に従って正しく音読できている。 d史伝の登場人物の行動と心情を理解している。 e本文に出てくる句法について理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。
4		思想	諸子百家	○	○	○			
合計時数(55分授業)		64							



令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	国語・古典B	学年	第2学年	教科書	第一学習社「高等学校古典B」
		単位数	4単位	副教材	東京書籍「新精選古典文法 改訂版」 第一学習社「新版四訂カラー版新国語便覧」 いっずな書店「古文単語330三訂版」

学習目標  
1年次の国語総合における古典の学習成果を踏まえ、基礎学力の定着を図るとともに、発展的に古典を鑑賞する姿勢を身に付けることを目標とする。  
作品を読解・鑑賞し、作品を取り巻く時代、文化、社会等について幅広く興味・関心を高めることを目標とする。

学習方法  
○繰り返し音読することで古典のリズムを体感し、古人と心を通わせられるようにします。  
○古典文法や古語についての知識を確かにするために、一つ一つ確認しながら読解を進めていきます。  
○重要古語の意味内容を覚えるため、古文単語の小テストを定期的に行います。

学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
	a 関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。
d 読む能力	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	
e 知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解を深め、知識を身に付けている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	d	e		
前期	読むこと	6	古文	説話	○	○	○	a説話・随筆・物語を読むことに興味・関心を持っている。 d範読・音読・指名読みの際の態度が積極的である。 e作品の内容を的確に理解している。 e用言の活用・助動詞・助詞、重要古語などについて理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み、定期テスト、単語テスト等
		10		随筆(一)	○	○	○		
		12		物語(一)	○	○	○		
		12		随筆(二)	○	○	○		
	6	漢文	故事成語	○	○	○	a中国文化や漢文に関心を持っている。 a故事成語や教材の内容に興味・関心を持っている。 d音読・指名読みの際の態度が積極的である。 e漢文訓読・書き下し文のきまりを理解している。 e再読文字・助字の種類や用法を理解している。 eそれぞれの文章の内容を的確に理解している。		
	8		史伝	○	○	○			
10	漢詩		○	○	○				
後期	読むこと	10	古文	物語(二)	○	○	○	a随筆・長編物語・日記等を読むことや、教材の内容に興味・関心を持っている。 a和歌を読むことに興味・関心を持っている。 d物語の展開と登場人物の心情を理解している。 d日記の作者の内面を理解している。 d和歌や俳諧の表現に即して内容を把握している。 e助動詞・助詞・重要古語などについて理解している。 e和歌の修辞について理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み、定期テスト、単語テスト等
		10		日記	○	○	○		
		10		物語(三)	○	○	○		
		10		和歌・歌謡・俳諧	○	○	○		
		8	漢文	文章	○	○	○	a教材の内容に興味・関心を持っている。 d音読・指名読みの際の態度が積極的である。 d思想において、本文の論理の展開を理解している。 e本文に出てくる句法について理解している。	
		6		思想	○	○	○		
		10		小説	○	○	○		
合計時数(55分授業)		128							

# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・日本史A	学年	第2学年	教科書	実教出版「新日本史A 新訂版」
		単位数	2単位	副教材	帝国書院「図説日本史通覧」

学習目標	1. 日本前近代の歴史をふまえ、近現代史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化を理解する。 2. 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。 3. 日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身に付ける。
------	--

学習方法	1. 授業における課題に対して自ら考え、また、資料を活用することでデータを読み取って考察する活動を行います。 2. 夏季休暇の際には課題レポートを提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	近現代史を中心とする日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。
b	思考・判断・表現	近現代史を中心とする日本の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野の下で日本を取り巻く国際環境などと関連づけて多角的に考察するとともに、国際社会の変化をふまえた公正な判断ができ、追究・考察した過程や結果も適切に表現できる。	
c	資料活用の技能	近現代史を中心とする日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けている。	
d	知識・理解	近現代史を中心とする日本の歴史の展開について、その基本的な事柄に関する知識を身に付け、世界史的視野の下、日本を取り巻く国際環境などと関連づけて理解している。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前期	日本の近代史	16	国際環境の変化と明治維新	19世紀の世界動向と日本	○			○	a: 日本の近代国家の成立過程について、その時代の人物や遺跡・遺物などにふれ、関心を養っている。 b: 前近代と近代の基本的な違いを理解しつつ、日本の近代国家としての構造や発展過程の特徴を調べ、まとめ、発表できる。 c: 歴史資料や歴史地図、さらに年表などを活用する力を身に付けている。 d: 日本の近代国家形成過程とその特徴を理解している。	授業への取り組み(発言内容、プリント類への取り組み)、定期試験、課題レポート等をふまえ、総合的に評価する。	
				開国と倒幕		○		○			
				明治政府の諸改革と社会の変化		○	○	○			
				明治初期の外交と新しい文化の形成	○			○			
		16	近代国家の成立と国際関係の推移	自由民権運動の展開	○	○					a: 日本の近代国家の展開過程で起こった民衆運動や戦争などについて、身近な人からの聴き取りなどをしながら、関心を養っている。 b: 民衆運動や戦争などが起こる歴史の構造を調べ、まとめ、発表できる。 c: 地域に残る遺跡や遺物を調べ、まとめる力を身に付けている。 d: 日本の近代国家の展開過程で、民衆運動がおこったり、戦争に傾斜していく経過、そして戦争がどんな性格であったかを理解している。
				立憲体制の成立	○			○			
				日清戦争と国際関係			○	○			
				日露戦争前後の世界と日本	○			○			
後期	日本の現代史	16	両大戦をめぐる国際情勢と日本	第一次世界大戦下の世界と日本		○	○	a: 日本の近代と現代の基本的違いに関心を持つとともに、身近な人から聴き取りをしたり、時事的なニュースに関心を持つなど、現代社会への関心を養っている。 b: 戦前と戦後の基本的違いを認識するとともに、戦後の変遷を考え、まとめ、表現できる。 c: 歴史資料や年表を活用する力を身に付けている。新聞や雑誌の分析などで調べる力を身に付けている。 d: 戦後の日本が戦前の国家の構造と全く違う民主的な国家体制になったことを理解する。	授業への取り組み(発言内容、プリント類への取り組み)、定期試験、課題レポート等をふまえ、総合的に評価する。		
				デモクラシーの展開と大衆文化	○	○				○	
				軍国日本への道		○	○				
				アジア太平洋戦争と日本	○					○	
		16	現代世界と日本	戦後世界と日本	○	○					a: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移について、相互の動きを関連付け多角的に考察している。 c: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付け、考察した結果を表現できる。 d: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。
				日本の再建と復興への道	○	○				○	
				冷戦と日米安保体制			○			○	
				高度経済成長下の日本	○	○	○				
合計時数(55分授業)		64									

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・日本史B	学年	第2学年	教科書	山川出版社「詳説日本史B 改訂版」
		単位数	4単位	副教材	第一学習社「最新日本史図表 三訂版」 実教出版「新詳述日本史史料集」

学習目標	1. 日本の原始から現代までを事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化を理解する。 2. 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。 3. 日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身に付ける。																				
学習方法	1. 授業における課題に対して自ら考え、また、資料を活用することでデータを読み取って考察する活動を行います。 2. 授業においては補助プリントや演習プリントも利用します。図表と史料集も活用します。 3. 夏季休暇の際には課題レポートを提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。																				
学習評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価の観点</th> <th colspan="2">科目の評価の観点の趣旨</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a</td> <td>関心・意欲・態度</td> <td colspan="2">日本の通史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。</td> </tr> <tr> <td>b</td> <td>思考・判断・表現</td> <td colspan="2">日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界史的視野の下で日本を取り巻く国際環境などと関連づけて多角的に考察するとともに、国際社会の変化をふまえた公正な判断ができ、追究・考察した過程や結果も適切に表現できる。</td> </tr> <tr> <td>c</td> <td>資料活用の技能</td> <td colspan="2">日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けている。</td> </tr> <tr> <td>d</td> <td>知識・理解</td> <td colspan="2">日本の歴史の展開について、その基本的な事柄に関する知識を身に付け、世界史的視野の下、日本を取り巻く国際環境などと関連づけて理解している。</td> </tr> </tbody> </table>	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨		a	関心・意欲・態度	日本の通史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。		b	思考・判断・表現	日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界史的視野の下で日本を取り巻く国際環境などと関連づけて多角的に考察するとともに、国際社会の変化をふまえた公正な判断ができ、追究・考察した過程や結果も適切に表現できる。		c	資料活用の技能	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けている。		d	知識・理解	日本の歴史の展開について、その基本的な事柄に関する知識を身に付け、世界史的視野の下、日本を取り巻く国際環境などと関連づけて理解している。	
	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨																		
	a	関心・意欲・態度	日本の通史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。																		
	b	思考・判断・表現	日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界史的視野の下で日本を取り巻く国際環境などと関連づけて多角的に考察するとともに、国際社会の変化をふまえた公正な判断ができ、追究・考察した過程や結果も適切に表現できる。																		
	c	資料活用の技能	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けている。																		
d	知識・理解	日本の歴史の展開について、その基本的な事柄に関する知識を身に付け、世界史的視野の下、日本を取り巻く国際環境などと関連づけて理解している。																			

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前期	原始古代と中世、近世の日本	30	古代国家の成立から武家社会の展開まで	日本文化のあけぼのから律令体制の成立	○			○	a:日本の古代国家の成立過程や武家社会について、その時代の人物や遺跡・遺物などにふれ、関心を養う。 b:中国や朝鮮諸国との違いを理解しつつ、日本の古代国家としての構造や発展過程、武家政権の成立過程の特徴を調べ、まとめたり、発表できる。 c:歴史資料や歴史地図、史料などを活用する力を身に付けている。 d:日本の古代国家と武家社会の成立過程とその特徴を理解している。	「学習態度」(授業への取り組み、発言内容、プリント類への取り組み)、「定期試験」、「課題レポート」等をふまえ、総合的に評価する。	
				摂関政治と荘園公領制の展開		○		○			
				武家社会の成立と文化の新機運		○	○	○			
				武家社会の展開と室町文化	○			○			
		34	藩体制の成立と動揺	幕藩体制の展開	○	○		○			a:幕藩体制の展開過程で起こった身分制度や税制などに興味を持ち、身近な文学作品なども活用して関心を養う。 b:百姓一揆や新田開発などの実際の構造を調べ、まとめ、発表できる。 c:地域に残る伝承や遺跡を調べ、まとめる力を身に付けている。 d:幕藩体制の成立から崩壊までを、海外諸国との関係を含めながら理解している。また、近世文化の正しい知識を身に付けている。
				近世文化の成立	○			○			
				幕藩体制の動揺		○		○			
				近世文化の成熟	○			○			
後期	近・現代の日本	32	近代国家の形成と二つの大戦	近代への転換		○	○	a:近世と近代の基本的違いに関心を持つとともに、大きな時代の転換期や激動の時代に生きた人々の実際の姿を想像することができる。 b:戦争の実情を具体的に理解し、まとめ、表現できる。 c:図書や映像などの史資料を活用するだけでなく、新聞や雑誌なども積極的に活用する力を身に付けている。 d:近代の日本の発展と文化を实態に即して理解する。	「学習態度」(授業への取り組み、発言内容、プリント類への取り組み)、「定期試験」、「課題レポート」等をふまえ、総合的に評価する。		
				近代国家の形成	○	○				○	
				二つの世界大戦		○	○			○	
				日本の市民文化	○					○	
		32	十五年戦争から現代日本	十五年戦争	○	○				○	a:戦中から戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b:戦争時の世界情勢の推移について、相互の動きを関連づけ多角的に考察している。 c:戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付け、考察した結果を表現できる。 d:20世紀以降の日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。
				戦時下の国民生活	○	○				○	
				現代の日本			○			○	
				新しい文化	○	○	○				
合計時数(55分授業)		128									

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	数学・数学Ⅱ(α)	学年	第2学年	教科書	数研出版「改訂版 高等学校 数学Ⅱ」
		単位数	3単位	副教材	数研出版「サクシード 数学Ⅱ+B」

学習目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分法と積分法について、基礎的な知識や技能を習得する。事象を数学的に考察し表現する能力を養うことで数学のよさを理解できるようにする。
------	--

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業においては、定義・公式・例題を理解し、練習問題を自ら考える。疑問点は積極的に質問する。</li> <li>○復習を心がけ、毎週末には必ず1週間に学んだ内容を理解できているか確認する。</li> <li>○授業用と問題集用のノートを用意し、幅広く多くの問題を解き、基礎力の徹底、応用力の向上を図る。</li> </ul>
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法の考え方に興味を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。			
b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法について、数学的な見方や考え方を身に付けている。				
c	数学的な技能	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。				
d	知識・理解	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法における基本的な理念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けている。				

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	式と証明	14	式と計算	3次式の展開と因数分解	○				a: 整式の四則計算に関心をもち、それらを四則計算の考察に活用しようとする。 b: 二項定理を用いた展開式や恒等式についてを考察することができる。 c: 等式、不等式の証明ができる。 d: 等式、不等式の証明における証明方法、式の扱い方を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				二項定理		○				
前期	複素数と方程式	9	複素数と2次方程式の解	複素数とその計算	○				a: 2次方程式の解を求める際、複素数に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 解と係数の関係を用いて考察し表現することができる。 c: 因数定理を用いた因数分解ができる。 d: 解と係数の関係や高次方程式の解き方を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 課題等
				2次方程式の解	○			○		
前期	図形と方程式	26	点と直線	解と係数の関係		○	○		a: 直線上、平面上の点や直線の方程式に関心をもち、2直線の関係の考察に活用しようとする。 b: 軌跡の方程式や不等式の表す領域について考察し、表現することができる。 c: 円と直線、2つの円の関係について考察し、扱いなどの技能を身に付けている。 d: 円と直線、2つの円の関係の調べる方法を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				剰余の定理と因数定理			○			
前期	高次方程式		高次方程式	高次方程式				○		
				直線上の点	○					
前期	円		円	平面上の点	○					
				直線の方程式	○					
前期	軌跡と領域		軌跡と領域	2直線の関係	○					
				円の方程式				○	○	
前期	三角関数	15	三角関数	円と直線				○	○	
				2つの円				○	○	
前期	加法定理		三角関数	角の拡張	○				a: 三角関数の性質に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 三角関数の性質をグラフを用いて考察し表現することができる。 c: 加法定理(2倍角・半角の公式)を用いて、様々な角の三角関数の値を求めることができる。 d: 三角関数のグラフや三角関数の合成について理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				三角関数	○					
後期	指数関数と対数関数	15	指数関数	三角関数のグラフ		○	○		a: 指数の拡張と対数に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 累乗や対数の可能性を考察し表現できる。 c: 指数や対数を含んだ式の計算ができる。 d: 指数や対数の扱いを理解できる。	授業への取り組み 定期試験 課題等
				三角関数の性質	○					
後期	微分と積分	17	微分係数と導関数	三角関数の応用		○			a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める、方程式に應用するなどができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				加法定理				○		
後期	対数関数		対数関数	指数の拡張	○	○				
				指数関数			○	○		
後期	積分法		積分法	対数とその性質	○					
				対数関数				○		
後期	不定積分		不定積分	常用対数				○		
				定積分					○	
後期	定積分		定積分	導関数とその計算		○				
				定積分面積					○	
合計時数(55分授業)		96								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	数学・数学Ⅱ(β)	学年	第2学年	教科書	数研出版「改訂版 数学Ⅱ」
		単位数	4単位	副教材	数研出版「サクシード 数学Ⅱ+B」 数研出版「Focus Gold 数学Ⅱ+B」

学習目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分法と積分法について、基礎的な知識や技能を習得する。事象を数学的に考察し表現する能力を養うことで数学のよさを理解できるようにする。
------	--

学習方法	○授業においては、定義・公式・例題を理解し、練習問題を自ら考える。疑問点は積極的に質問する。 ○復習を心がけ、毎週末には必ず1週間に学んだ内容を理解できているか確認する。 ○授業用と問題集用のノートを用意し、幅広く多くの問題を解き、基礎力の徹底、応用力の向上を図る。
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法の考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。			
	b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法について、数学的な見方や考え方を身に付けている。			
	c	数学的な技能	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。			
	d	知識・理解	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法における基本的な理念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けている。			

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	式と証明	18	式と計算	3次式の展開と因数分解	○				a: 整式の四則計算に関心をもち、それらを四則計算の考察に活用しようとする。 b: 二項定理を用いた展開式や恒等式についてを考察することができる。 c: 等式、不等式の証明ができる。 d: 等式、不等式の証明における証明方法、式の扱い方を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				二項定理		○				
				整式の割り算	○					
				分数式とその計算	○					
				恒等式			○			
			等式と不等式の証明	等式の証明			○	○		
				不等式の証明			○	○		
前期	複素数と方程式	12	複素数と方程式	複素数	○				a: 2次方程式の解を求める際、複素数に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 解と係数の関係を用いて考察し表現することができる。 c: 因数定理を用いた因数分解ができる。 d: 解と係数の関係や高次方程式の解き方を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 課題等
				2次方程式の解と判別式	○			○		
				解と係数の関係		○		○		
				剰余の定理と因数定理			○			
				高次方程式			○			
前期	図形と方程式	34	点と直線	直線上の点	○				a: 直線上、平面上の点や直線の方程式に関心をもち、2直線の関係の考察に活用しようとする。 b: 軌跡の方程式や不等式の表す領域について考察し、表現することができる。 c: 円と直線、2つの円の関係について考察し、扱いなどの技能を身に付けている。 d: 円と直線、2つの円の関係の調べる方法を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				平面上の点	○					
				直線の方程式	○					
			円	2直線の関係	○					
				円の方程式			○	○		
				円と直線			○	○		
軌跡と領域	2つの円			○	○					
	軌跡と方程式		○							
	不等式の表す領域		○							
前期	三角関数	20	三角関数	一般角と弧度法	○				a: 三角関数の性質に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 三角関数の性質をグラフを用いて考察し表現することができる。 c: 加法定理(2倍角・半角の公式)を用いて、様々な角の三角関数の値を求めることができる。 d: 三角関数のグラフや三角関数の合成について理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				三角関数	○					
				三角関数の性質	○					
				三角関数のグラフ		○	○			
				三角関数の応用		○				
前期	指数関数と対数関数	20	指数関数と対数関数	加法定理			○		a: 指数の拡張と対数に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 累乗や対数の可能性を考察し表現できる。 c: 指数や対数を含んだ式の計算ができる。 d: 指数や対数の扱いを理解できる。	授業への取り組み 定期試験 課題等
				加法定理の応用			○			
				三角関数の合成			○			
後期	微分と積分	24	微分法	指数の拡張	○	○			a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める、方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				指数関数	○		○			
				対数とその性質	○					
				対数関数			○			
				常用対数			○			
			導関数の応用	微分係数	○					
				導関数		○				
				接線	○					
				関数の値の変化		○				
				最大値・最小値			○			
積分法	グラフと方程式・不等式			○						
	不定積分				○					
	定積分				○					
	面積				○					
	面積				○					
合計時数(55分授業)		128								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	数学・数学B	学年	第2学年	教科書	数研出版「数学B 改訂版」
		単位数	2単位	副教材	数研出版「サクシード 数学II+B 改訂版」

**学習目標**  
 数列およびベクトルについて、基礎的な知識や技能を習得します。事象を数学的に考察し表現する能力を養うことで数学のよさを理解できるようにします。

**学習方法**  
 ○授業においては、定義・公式・例題を理解し、練習問題を自ら考えましょう。疑問点は積極的に質問しましょう。  
 ○復習を心がけ、毎週末には必ず1週間に学んだ内容を理解できているか確認しましょう。  
 ○授業用と問題集用のノートを用意し、幅広く多くの問題を解き、基礎力の徹底、応用力の向上を図りましょう。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	数列、ベクトルの考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数列、ベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。
c	数学的な技能	数列、ベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
d	知識・理解	数列、ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

※定期テストに関しては、上記の観点について学習内容に応じて配分する。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法			
					a	b	c	d					
前期	(1) 平面上のベクトル	16	平面上のベクトルとその演算	平面上のベクトル	○	○			a:ベクトルの基本的な概念に関心を持ち、考察に活用しようとする。 b:位置ベクトルや内積などを用いて形式的な処理ができることを理解し、いろいろな平面図形の性質の考察をすることができる。 c:ベクトルの演算について、数の演算と類似の法則が成り立つことを理解し、その演算をすることができる。 d:ベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、成分表示、内積及び基本的な性質について理解している。	授業への取り組み 定期試験 小テスト レポート 課題等			
				ベクトルの演算	○								
				ベクトルの成分		○	○						
				ベクトルの内積			○	○					
			ベクトルと平面図形	位置ベクトル	○								
				ベクトルと平面図形 ベクトル方程式			○	○					
	(2) 空間のベクトル	16	空間のベクトル	空間の座標	○								
				空間のベクトル	○	○							
				ベクトルの成分		○	○						
				ベクトルの内積			○	○					
位置ベクトル				○									
ベクトルと図形 座標空間における図形						○	○						
後期	(3) 数列	26	数列とその和	数列	○		○	a:等差数列や等比数列、その他の数列とその和に関心を持ち、それらを活用しようとしている。 b:等差数列や等比数列、その他の数列とその和を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、等差数列と等比数列、いろいろな数列における数学的な見方や考え方を身に付けている。 c:いろいろな数列の一般項や和について、その求め方を理解し、事象の考察に活用する。 d:等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項及び和を求めることができる。	授業への取り組み 定期試験 小テスト レポート 課題等				
				等差数列とその和	○		○						
				等比数列とその和	○		○						
				和の記号Σ	○	○							
				階差数列			○			○			
				いろいろな数列の和	○	○							
	数学的帰納法	6	漸化式と数列			○	○						
			数学的帰納法			○	○						
	合計時数(55分授業)		64										

# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	理科・物理基礎	学年	第2学年	教科書	数研出版「改訂版 物理基礎」
		単位数	2単位	副教材	第一学習社「セミナー物理基礎」

**学習目標**  
 日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

**学習方法**  
 ○ 授業における課題に対して自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行います。  
 ○ 復習を心がけ、各単元終了ごとに教科書やノートの内容が理解できているかどうか確認しましょう。  
 ○ 家庭学習において副教材等を活用し、演習問題を数多く解き、理解を深めましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。
b	思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現する方法を身に付けている。	
c	観察・実験の技能	物理的な事物・現象に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
d	知識・理解	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	

※ 定期テストに関しては、上記四つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	(1) 力学・熱力学	23	運動とエネルギー	運動の表し方	○		○	○	a: 物体の運動に興味を示し、その法則性を物理的に理解しようとする。 b: 物体の運動を表す変位や速度を、その公式からとらえ、考えることができる。物体にはたらくすべての力を図示し、運動方程式を考えることができる。 c: 探究活動を通じて、力と運動に関する法則性を導くことを確認する。 d: 物体のエネルギーと物体にはたらく力、仕事との関係を理解する。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み
				運動の法則	○	○	○	○		
				仕事と力学的エネルギー	○		○	○		
		9	熱とエネルギー	熱と熱量	○		○	○	a: 熱とはどういうものか興味をもって考え、熱とエネルギーの関係を考える。 b: 温度の異なる物体が接すると熱が移動すること、物体によって温まり方が異なることなど、熱の移動について考える。 c: 仕事によって、運動エネルギーは熱に変換されることを理解する。 d: 摩擦などによる仕事は熱に変換され、そのエネルギー量は変化しないことを理解する。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み
熱と物質の状態	○		○	○						
熱と仕事	○	○	○	○						
不可逆変化と熱機関	○	○		○						
後期	(2) 波動力学	21	波	波の性質	○	○	○	○	a: 身のまわりにはさまざまな波があることに興味を示し、波が移動するとき何が伝わっているか考える。 b: 波が移動する現象を学習し、波が伝わるときの一般的な公式を考える。 c: 横波と縦波が伝わるようすを観察し、波の伝わり方とそれぞれの波の特徴を理解する。 d: 音が縦波であり、波の性質をもつことを理解する。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み
				音	○		○	○		
	(3) 電気とエネルギーとその利用	9	電気	物質と電気抵抗	○	○		○	a: 日常生活と密着した関わりのある電気の性質を意欲的に考える。 b: 抵抗に電流が流れるとき、電圧と電流の関係について考える。太陽エネルギーの直接、間接的な利用を学習し、エネルギーの循環を理解する。 c: 携帯電話をアルミニウムホイールで包み、電波の遮断を確認する。 d: 直流と交流の性質、交流の有用性を理解する。身の回りには、電気、磁気を利用したさまざまなものがあることを理解する。携帯電話の小型化への技術の進化を理解する。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み
				交流と電磁波	○		○	○		
	2	物理学と社会	エネルギーとその利用	○	○		○			
			物理学が拓く世界	○		○	○			
合計時数(55分授業)		64								



# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	理科・化学	学年	第2学年	教科書	数研出版「改訂版 化学」
		単位数	3単位	副教材	数研出版「四訂版 リードα化学」 実教出版「四訂版 サイエンスビュー化学総合資料」

学習目標  
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養いましょう。

学習方法  
○必要に応じてノート等を準備し、必要に応じて活用しましょう。  
○演示実験や生徒実験を通して実験の基本操作を習得し、データの処理の仕方を身に付けましょう。  
○演習問題を数多く解き、計算問題などの解答能力を習得しましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	化学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
b	思考・判断・表現	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	
c	観察・実験の技能	化学的な事物・現象に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
d	知識・理解	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	物質の状態	6	粒子の結合と結晶の構造	化学結合	○	○	○	○	a:物質の構造や性質に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:化学結合と結晶の種類・状態変化との関連性について考察できる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質の構造や性質に関する基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				結晶の種類と性質	○	○	○	○		
		6	物質の三態と状態変化	粒子の熱運動	○	○	○	○		
				状態変化とエネルギー				○		
	6	気体	理想気体の性質	○	○	○	○	a:気体・溶液の成り立ちや性質に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:気体や溶液について、共通に成り立つ法則について理解している。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート	
			実在気体		○	○	○			
	6	溶液	溶解とそのしくみ/溶解度	○	○	○	○	c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:各種法則の定義を理解し、知識を身に付けている。		
			コロイド溶液		○	○	○			
6	物質の変化	6	化学反応とエネルギー	化学反応と熱	○	○	○	○	a:化学反応とエネルギーの関係に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:反応熱や電子の物質質量と化学変化の量的関係を理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				化学反応と光	○	○	○	○		
	6	電池と電気分解	電池	○	○	○	○	a:化学反応の根本的なしくみに関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:反応速度や化学平衡の概念と化学変化の量的関係を理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート	
			電気分解		○	○	○			
6	化学平衡	6	化学反応の速さ	可逆反応と平衡状態の変化	○	○	○	○	a:無機物質の単体や化合物に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:周期表上における元素の陽性や陰性の傾向について理解し、性質に関連付けられることができる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				反応条件と反応速度	○	○	○	○		
後期	無機物質	7	非金属元素	元素の分類と周期表	○	○	○	○	a:無機物質の単体や化合物に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:周期表上における元素の陽性や陰性の傾向について理解し、性質に関連付けられることができる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:無機物質の性質について理解を深め、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				各元素とその化合物	○	○	○	○		
	有機化合物	18	低分子化合物	金属元素(I)		○	○	○	a:有機低分子化合物に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:有機化合物の性質について理解し、体系的にまとめることができる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:有機化合物の性質について理解を深め、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				金属元素(II)	○	○	○	○		
				有機化合物の分類と分析	○			○		
				脂肪族炭化水素	○	○	○	○		
	高分子化合物	8	天然有機化合物	アルコールと関連化合物	○	○	○	○	a:天然有機化合物・高分子化合物に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:高分子化合物の種類や性質について理解し、体系的にまとめることができる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:天然有機化合物・高分子化合物の種類や性質について理解を深め、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				芳香族化合物	○	○	○	○		
				天然有機化合物	○	○	○	○		
				天然高分子化合物	○	○	○	○		
	8	合成高分子化合物	高分子化合物の性質	○	○	○	○	a:天然有機化合物・高分子化合物に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:高分子化合物の種類や性質について理解し、体系的にまとめることができる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:天然有機化合物・高分子化合物の種類や性質について理解を深め、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート	
			合成高分子化合物		○	○	○			
合計時数(55分授業)		96								



令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	保健体育・体育	学年	第2学年	教科書	
		単位数	2単位	副教材	大修館書店「ステップアップ高校スポーツ2020」

学習目標  
 ・自ら希望する種目を選択し、楽しみながら学ぶ喜びを知ることができるようにする。  
 ・基礎体力を向上できるようにする。  
 ・基本的技能を修得できるようにする。  
 ・試合の進め方、方法、ルールを理解できるようにする。

学習方法  
 ○授業における課題に対して自ら考えられるような活動を行う。  
 ○学習ノート、補助プリント等を利用する。  
 ○互いに協力し、自己の責任を果たせるようグループでの活動を行う。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。
b	思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	
c	運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	
d	知識・理解	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	体づくり運動(全員)	3	体づくり運動	・体操 ・基礎練習 ・応用練習 ・トレーニング	○	○			a:仲間と協力し、積極的に運動に参加している。 b:自分の体力を把握し、適切な目標を設定できる。 d:体づくりの意義を理解している。	・授業への取り組み
	球技(全種目男女)	13	・ソフトボール ・テニス ・バスケットボール	・体操 ・基礎練習 ・応用練習 ・ゲーム(試合)	○	○	○		a:ルールを守り、公正な態度で練習や試合を行っている。 b:ゲームに必要なルールや審判法を知っている。 c:基本的な技術を向上させることができる。 d:基本的な技術を実践で生かせる。	・授業への取り組み
	・水泳 ・器械運動 ・陸上競技(全種目男女)	13	・水泳 ・器械運動 ・陸上競技	・体操 ・基礎練習 ・応用練習 ・記録測定	○	○	○		水泳 a:記録の向上の喜びや競泳の楽しさなどを味わっている。 b:自己の目標を達成するための練習を計画している。 器械運動 b:自己に合った技を選択している。 c:技の習得し、演技の構成をすることができる。 陸上競技 c:自己の記録を向上するための各種の技能を高めることができる。 d:自己の記録を向上するための方法を理解している。	・授業への取り組み ・記録 ・試験
	体育理論	3	体育理論	運動・スポーツの学び方	○	○			a:運動・スポーツの学び方について理解し、諸問題について学ぼうとしている。 b:運動・スポーツの学び方の問題点を考えている。 d:運動・スポーツの学び方の問題について理解している。	・授業への取り組み ・レポート
後期	武道・ダンス(全種目男女)	10	・柔道 ・剣道 ・ダンス	・体操 ・基礎練習 ・応用練習 (発表)	○	○			武道 a:積極的に技を覚えている。 b:自己の能力に応じて練習を工夫できる。 d:武道に対する伝統的な考え方を理解している。 ダンス a:曲に合わせ、楽しく取り組んでいる。 b:自己の能力に応じた課題を選び、自ら考え工夫することができる。	・授業への取り組み ・記録 ・試験
	球技(全種目男女)	11	・サッカー ・テニス ・バドミントン	・体操 ・基礎練習 ・応用練習 ・ゲーム(試合)	○	○	○		a:ルールを守り、公正な態度で練習や試合を行っている。 b:ゲームに必要なルールや審判法を知っている。 c:基本的な技術を向上させることができる。 d:基本的な技術を実践で生かせる。	・授業への取り組み
	陸上競技(全員)	8	持久走	・体操 ・ジョギング ・タイム測定	○	○	○		a:持久走の必要性を理解し、積極的に取り組んでいる。 b:体に負担の少ない走り方を考えている。 c:自己のベスト記録を更新することができる。 d:自己の能力を判断し、適切な目標タイムを設定できる。	・授業への取り組み ・記録
	体育理論	3	体育理論	運動・スポーツの学び方	○	○			a:運動・スポーツの学び方について理解し、諸問題について学ぼうとしている。 b:運動・スポーツの学び方の問題点を考えている。 d:運動・スポーツの学び方の問題について理解している。	・授業への取り組み ・レポート
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	保健体育・保健	学年	第2学年	教科書	大修館書店「現代高等保健体育 改訂版」
		単位数	1単位	副教材	大修館書店「図説現代高等保健」

学習目標	健康を保持増進するために適切な生活行動を選択し実践できるようにする。 また、環境を改善していく能力を身に付けられるようにする。
------	--

学習方法	○授業における課題に対して自ら考えられるような活動を行う。 ○ノート、補助プリント等を利用する。 ○テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	私たちの健康について、関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。
b	思考・判断	私たちの健康について、課題の解決を目指して考え、判断している。	
d	知識・理解	私たちの健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	

※定期試験に関しては、上記3つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	d		
前期	生涯を通じる健康	8	生涯の各段階における健康	思春期と健康	○	○	○	a:生涯の各段階における健康課題を理解し、健康問題について課題を解決しようと意欲的に取り組んでいる。 b:学習した内容を身に付け、自己の生活改善に役立てようとしている。 d:思春期の体の変化や精神的な不安および対処について理解している。また不正確な性情報に惑わされない知識を持っている。受精、妊娠、出産という一連の流れおよび人工妊娠中絶の法律や内容について理解している。	・授業への取り組み ・試験
				結婚生活と健康	○	○	○		
				加齢と健康	○	○	○		
前期	生涯を通じる健康	8	保健・医療制度と地域の保健・医療機関	我が国の保健・医療制度	○	○	○	a:生涯の各段階における健康課題を理解し、健康問題について課題を解決しようと意欲的に取り組んでいる。 b:学習した内容を身に付け、自己の生活改善に役立てようとしている。 d:思春期の体の変化や精神的な不安および対処について理解している。また不正確な性情報に惑わされない知識を持っている。受精、妊娠、出産という一連の流れおよび人工妊娠中絶の法律や内容について理解している。	・授業への取り組み ・試験
				地域の保健・医療機関の活用	○	○	○		
				様々な保健活動や対策	○	○	○		
後期	社会生活と健康	5	環境と健康	環境の汚染と健康	○	○	○	a:環境問題についてよく理解し、健康問題について課題を解決しようと意欲的に取り組んでいる。 b:学習した内容を身に付け、自己の生活改善に役立てようとしている。 d:環境と食品にかかわって、どのような保健活動がおこなわれているかについて理解している。ゴミ処理の現状や循環型社会の重要性および上下水道の現状と問題点を理解している。	・授業への取り組み ・試験 ・発表 ・レポート
				環境と健康にかかわる対策	○	○	○		
		6	環境と食品の保健	環境衛生にかかわる活動	○	○	○		
				食品保健にかかわる活動	○	○	○		
				健康の保持増進のための環境と食品の保健	○	○	○		
		5	労働と健康	労働災害と健康	○	○	○		
働く人の健康の保持増進	○			○	○				
合計時数(55分授業)		32							

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	芸術・音楽Ⅱ	学年	第2学年	教科書	教育出版「高校音楽Ⅱ改訂版 Music View」
		単位数	2単位	副教材	教育芸術社「3訂版 高校生のための音楽研究ノート」

**学習目標**  
音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

**学習方法**  
○技能の習得には継続的な取り組みが必要です。特に発声は成長とともに変化します。授業時間を無駄にせず、焦らずあきらめずに練習し、音楽Ⅰで習得したものを発展させましょう。  
○楽譜に関する理解や鑑賞は演奏と深く結び付いています。十分に理解するよう取り組みましょう。  
○他の生徒の演奏を聴いたり、自分の演奏を聴いてもらったりしながら、表現方法を話し合ってみましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	音楽への関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に積極的に取り組もうとしている。
b	音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	
c	音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を十分に身に付けている。	
d	鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	A 表現	13	(1)歌唱	独唱	○	○	○		a:歌唱に興味を持ち、発声・発音練習等にも主体的に取り組んでいる。 b:楽曲の形式や音楽的特徴を理解し、それらの働きを生かしながら、表現を工夫している。 c:楽曲のジャンルや表現形態に応じた歌唱方法を身に付けている。	・授業への取り組み ・実技テスト ・自己評価
		11	(2)器楽	箏曲合奏	○	○	○		a:箏曲に興味を持ち、楽器や道具の扱いを十分に身に付けている。 b:日本音楽の特徴を十分に理解し、和の味わいを生かしながら、楽曲の構成を踏まえた演奏表現を工夫している。 c:音色と表現の関係を理解し、正しい技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・演奏発表兼実技テスト ・相互評価
		6	(3)創作	楽典	○		○		a:コードネームに興味を持ち、学習に取り組んでいる。 c:学んだ知識を実際の楽曲に生かしている。	・授業への取り組み ・小テスト
	B 鑑賞	2	(4)鑑賞	音楽の役割(音楽劇)	○			○	a:歌唱表現に興味を持ち、その良さを感じながら鑑賞している。 d:声の音色や特徴と表現上の効果とのかかわりを理解している。	・授業への取り組み ・提出物
後期	A 表現	12	(1)歌唱	合唱	○	○	○		a:合唱に興味を持ち、個人練習・パート練習にも積極的に取り組んでいる。 b:楽曲の構成、詩と旋律・ハーモニーの関係、音楽的な特徴などを理解し、それらを生かした表現になるよう取り組んでいる。 c:楽曲のジャンルや表現形態に応じた歌唱方法、合唱の歌唱技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・実技テスト
		12	(2)器楽	ギター二重奏	○	○	○		a:ギターに興味を持ち、楽器や道具の扱いに注意しながら地道に取り組んでいる。 b:ギターや弦楽器の特徴を十分に理解し、自らの技能にあった演奏表現を工夫している。 c:音色と表現の関係を理解し、正しい技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・実技テスト
		6	(3)創作	ボイス・アンサンブル	○	○			a:創作に興味を示し、積極的に取り組んでいる。 b:歌唱や器楽で習得した技能と知識とが結びつき、音楽性豊かな表現になるよう取り組んでいる。	・演奏発表兼実技テスト ・相互評価
	B 鑑賞	2	(4)鑑賞	伝統芸能	○			○	a:物語や表現方法に興味を持ち、その良さを感じながら鑑賞している。 d:作品の構成や音楽的特徴と表現上の効果とのかかわりを理解している。	・授業への取り組み ・提出物
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	芸術・美術Ⅱ	学年	第2学年	教科書	日本文教出版社「高校生の美術2」
		単位数	2単位	副教材	

**学習目標**  
1年次での学習を基盤に美術の専門的技術力を身に付けている。多様な制作活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むよう努力する。多角的に感性を高め、芸術における諸能力を伸ばす。さらに内外の芸術文化についての理解を深め、豊かな情操と教養を身に付ける。

**学習方法**  
○美術Ⅰを基礎とし、さらに発展的な創造活動を実践し、国際的な感覚も育みつつ、自らの主体的な考えで作品づくりに取り組みます。  
○制作を通して空間把握力を身に付け、自然と自己とのつながりを見つめ直し、高校生活の充実を図ります。  
○生徒ひとり一人が美術を通じた社会への役割と繋がりを考え、積極的に各種コンクールにも出品し、社会性を身につけましょう。さらに未来に向けての夢と希望を考えた作品づくりを目指しましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	b	a	b
a	美術への関心・意欲・態度		美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	
b	発想や構想の能力		感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	
c	創造的な技能		創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表している。	
d	鑑賞の能力		美術作品の表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などを理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	オリエンテーション 表現・鑑賞	16	デザイン (平面構成) 鑑賞	・文字から発想するデザイン ・アクリル絵の具の表現技法	○	○	○	○	a文字から発想したデザインを工夫して構成しようと努力している。 b自らの思考を美術的感性を生かして画面構成や色彩を工夫している。 cアクリル絵の具の特徴を生かして美しく表現できる技能を身に付けている。 dお互いの作品と鑑賞し良さを味わっている。	・授業への取り組みと活動観察 ・提出作品 ・アイディアスケッチ ・ワークシート
		16	絵画 (風景写生) 夏休み (自主課題)	・水彩画の技法 ・風景と構図 ・絵画と写真の違いを理解	○	○	○	○	a身近な校内風景の中から、自らが美しいと思える風景を探し出せるように努力している。 b実景から切り取った構図を写生に生かすことができる。 cサイズの大きな画面にアクリル絵の具を使って表現できるよう水彩技法の基本を身に付けている。 d他人の作品から構図や技術的な特徴を見出し、自らの作品の良さを理解できる。	
後期	表現・鑑賞	20	立体 (模型の制作)	・立体(三次元)への理解と創造力	○	○	○	○	a「ある物語の一場面」をテーマに建築や構造に興味を持ち、積極的に理解しようと努力している。 b美術における造形活動として、自力で任意の形を創造・設計し、立体表現できる力を身に付けている。 c模型を細部にまでこだわって丁寧に制作に取り組んでいる。 dお互いの作品の良さを味わっている。どのようなコンセプトでデザインしたのか端的で明確なプレゼンテーションをすることができる。	・授業への取り組みと活動観察 ・提出作品 ・アイディアスケッチ ・鑑賞シート
		12	・版画 (ドライポイント版画) ・鑑賞 (芸術週間における生徒作品の鑑賞)	・様々な版画技法を学び、特徴を生かした表現を目指す。 ・他者の作品と比較して自らの表現の特質を理解	○	○	○	○	a2年間の学習の総まとめとして、生涯芸術を愛し、豊かな人生を送るための深い理解と関心を持ち続けようと努力している。芸術的付加価値を理解し身に付けようと努力している。 bc総合的な表現力と技法における応用力を身に付けている。 d芸術週間にて他人の作品の良さを理解し、自らの存在価値をも認められるよう、歴史に残る名品の数々の素晴らしさから総合力を身に付けている。	
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	芸術・書道Ⅱ	学年	第2学年	教科書	光村図書出版「書Ⅱ」
		単位数	2単位	副教材	

**学習目標**  
書道の創造的な書活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

**学習方法**  
○表現は実技中心に授業を行い、基礎基本をふまえ発展的な内容を学習する。  
○鑑賞は作品の文化的・歴史的背景を理解し、より深く広い知識教養を身に付け多角的に書をとらえる。  
○表現するにあたり、目的や意図に基づく表現方法について考えを深め工夫する。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
b	書表現の構想と工夫	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	
c	創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、効果的な表現の技能を身に付け表している。	
d	鑑賞の能力	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の良さや美しさを創造的に味わっている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	表現・鑑賞	20	漢字の書	篆書の学習	○	○	○	○	a:篆書・篆刻の字形・線質・用筆に関心を持ち制作に主体的に取り組んでいる。 b:線質と用筆の関係を理解し、半紙・印面にうまく収まるよう文字の大きさや配置を工夫している。 c:用具用材の特徴を理解し、用筆や運筆を工夫し表現している。 d:互いに作品を鑑賞し合い、構成や技能のよい点を認め合っている。	提出作品 ワークシート 授業への 取り組み
				篆刻の学習	○	○	○	○		
		12	漢字仮名交じり書	半紙創作	○	○	○	○		
				変形作品制作	○	○	○	○		
後期	表現・鑑賞	10	仮名の書	仮名散らし書きの学習	○	○	○	○	a:仮名の空間を生かした散らし書きの構成に関心を持ち、作品制作に生かそうとしている。 b:書風や紙面構成などの構想を練り、個性的な表現を生み出そうと工夫している。 c:古典の表現技法を身に付け表現に生かしている。 d:互いに作品を鑑賞し、表現や紙面構成のよい点を認め合っている。	提出作品 ワークシート 授業への 取り組み
				14	漢字の書	草書の学習	○	○		
		隸書の学習	○			○	○	○		
		大作臨書	○			○	○	○		
	6	漢字仮名交じり書	大作制作	○	○	○	○	a:漢字と仮名の調和と線質との関係について関心を持ち、表現を高めようとしている。 b:表現の意図に応じて全体の構成、用具・用材などを工夫している。 c:自分が意図した書風を表現するのに必要な技能を身に付けている。 d:表現の効果を分析して筆者の意図や作品の美を感じ取り、優れた点を認め合う。		
2	鑑賞	鑑賞	芸術週間作品鑑賞	○	○	○	a:広く芸術作品について関心を持ち、理解を深めようとしている。 d:作品を鑑賞し自分なりの意見を持ち、説得力のある鑑賞文を書く力を身に付けている。	ワークシート 授業への 取り組み		
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4
教科書	東京書籍「PROMINENCE English CommunicationⅡ」	副教材	東京書籍「PROMINENCE English CommunicationⅡ WORKBOOK Standard」 いいずな書店「English Generator 4500 Plus 英単語・熟語」 Z会「速読英単語 必修編」 東京書籍「Listening Pilot level2.5」 桐原書店「Reading Flash Stage 2」 Z会「Reading Express Book 4」		

CAN-DO リストに基づく学習到達目標とその評価規準・評価方法

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	(評価方法) コミュニケーション活動への取組の観察
外国語表現 の能力	<p>話すこと</p> <p>やり取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞いたたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、伝えたり、意見の交換をしたりすることができる。</li> <li>他人の意見に対して、感想や意見を述べたりすることができる。</li> <li>聞き手に伝わるように暗唱したり、発表したりすることができる。</li> <li>適切な質問をして、インタビューをすることができる。</li> </ul> <p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図表や絵に基づいて情報を整理し、説明することができる。</li> <li>表現を工夫して、相手に伝わるように話すことができる。</li> </ul> <p>(評価方法) 課題及びスピーキングテスト (年2回)</p>
	<p>書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞いたたり読んだりしたことに基づき、要旨や自分の考えを6～10文で簡潔に書くことができる。</li> <li>学習した題材に関して発展的に情報を調べて6～10文で書くことができる。</li> <li>スピーチの原稿を書くことができる。</li> <li>事実について意見や感想を書くことができる。</li> </ul> <p>(評価方法) 課題及びライティングテスト (ライティングテストは年1回)</p>
	<p>聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人物や事物に関して、必要な情報を得ることができる。</li> <li>事物に関する説明や対話などを聞いて、考えや情報などの要点や詳細をとらえることができる。</li> <li>他人の意見を聞いて、自分の意見との共通点や相違点を理解することができる。</li> </ul> <p>(評価方法) 課題及び定期テスト・小テスト</p>
外国語理解 の能力	<p>読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異文化コミュニケーション・日本文化・生物などに関する600～800語程度の英文を読んで、要点や詳細をとらえることができる。</li> <li>日本文化・芸術・社会問題などに関する800～1,100語程度の英文を読んで、要点や詳細をとらえることができる。</li> <li>文のつながりを示す語(句)などに注意しながら読むことができる。</li> <li>要点を整理しながら、読むことができる。</li> </ul> <p>(評価方法) 課題及び定期テスト・小テスト</p>
	<p>言語や文化についての 知識・理解</p> <p>(評価方法) 課題及び定期テスト・小テスト</p>

科目	コミュニケーション英語Ⅱ	学期	前	時数 (55分授業)	64	単元	Lesson 1～5				
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)							評価方法			
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：コミュニケーションにおいて相手に共感することの重要性について積極的に理解しようとしている。身近な人に共感を示すために、どのようなことができるかを考えることができる。 (評価方法：活動の観察)							定期テスト 小テスト	パフォーマンス テスト	課題	
Lesson 1	外国語理解の能力	L：共感力の大切さについて、聞いたことが理解できる。 R：共感力の大切さについて、読んだことが理解できる。							○		
	外国語表現の能力	S：キーワードを使って、医者の共感力に関する実験について、口頭で説明できる。 W：自分の意見を英語で書くことができる。							○		○
		・ 言語や文化に関する知識・理解：医者と患者のコミュニケーションなど共感力の重要性が問われる事例について理解している。							○		
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：廃線の再利用について関心を持ち、空中公園ができるまでどのような問題があるのか、積極的に考えようとしている。 (評価方法：活動の観察)										
Lesson 2	外国語理解の能力	L：廃線の再利用によるハイラインの建設について、聞いたことが理解できる。 R：廃線の再利用によるハイラインの建設について、読んだことが理解できる							○		
	外国語表現の能力	S：ハイライン建設の過程を、時系列に要点を整理しながらとらえることができる。 W：エッセイの構成を理解し、理由を示しながら、自分の意見を書くことができる。							○		○
		・ 言語や文化に関する知識・理解：ハイラインの存在について興味と理解を深めている。コミュニケーション活動が社会に与える影響について理解している。							○		
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：田邊氏の生き方や南極大陸の湖の生態系について関心を持ち、古代の地球生命との関係について意欲的に考えようとしている。 (評価方法：活動の観察)										
Lesson 3	外国語理解の能力	L：聞いた内容に関する質問に英語で答えることができる。 R：読んだ内容に関する質問に英語で答えることができる。							○		
	外国語表現の能力	S：インタビュースクリプトを作成し、ペアでインタビュースクリプト活動を行うことができる。							○		○





科目	コミュニケーション英語Ⅱ	学期	後	時数 (55分授業)	64	単元	Lesson 6～10		
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)						評価方法		
							定期テスト	パフォーマンス テスト	課題
Lesson 6	<p>・ コミュニケーションへの関心・意欲・態度：近藤氏の片づけに対するユニークな考え方や方法に興味を持ち、積極的に理解しようとしている。 (評価方法：活動の観察)</p> <p>外国語理解の能力</p> <p>L：近藤氏の片づけ方が世界で広く受け入れられた理由や具体的な片づけ方について、聞いて理解することができる。 R：近藤氏の片づけ方が世界で広く受け入れられた理由や具体的な片づけ方について、読んで理解することができる。 S：効果的な片づけ方について、自分の意見を、英語で発表することができる。 W：近藤流のTシャツをたたむ方法を、英語でわかりやすく説明できる。</p> <p>外国語表現の能力</p> <p>言語や文化に関する知識・理解：近藤流の片づけに含まれている感謝の気持ちや自己の内面を見つめることの大切さについて理解している。</p> <p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：マララさんの経験について興味を持ち、パキスタンの社会・政治背景や、彼女の祖国や教育に対する情熱を積極的に理解しようとしている。 (評価方法：活動の観察)</p>								
Lesson 7	<p>外国語理解の能力</p> <p>L：マララさんのスピーチに込められたメッセージを聞いて、理解することができる。 R：マララさんのスピーチに込められたメッセージを読んで、理解することができる。 S：マララさんの人生に起こったことや彼女の活動について英語で説明することができる。 W：マララさんの人生に起こったことや彼女の活動について英語で説明することができる。</p> <p>外国語表現の能力</p> <p>言語や文化に関する知識・理解：パキスタンで教育を受けられない子供が多くいる現状を知り、対策について考えることができる。 (評価方法：活動の観察)</p>								
Lesson 8	<p>外国語理解の能力</p> <p>L：『ムーミン』の主要な登場人物の特徴をとらえ、物語に込められたメッセージを理解できる。 R：『ムーミン』の主要な登場人物の特徴をとらえ、物語に込められたメッセージを理解できる。 S：適切な表現を選んで、スピーチを完成させることができる。 (評価方法：活動の観察)</p> <p>外国語理解の能力</p> <p>L：『ムーミン』の主要な登場人物の特徴をとらえ、物語に込められたメッセージを理解できる。 R：『ムーミン』の主要な登場人物の特徴をとらえ、物語に込められたメッセージを理解できる。 S：適切な表現を選んで、スピーチを完成させることができる。 (評価方法：活動の観察)</p>								

	の能力	W: キーワードを適切に用いながら、英語で要約を作成することができる。							
	言語や文化に関する知識・理解	『ムーミン』の作者について知り、作品に込められた自由や平和に対する願いについて理解している。							
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	日本の都市に特徴的な電柱や看板の存在とその影響について興味を持ち、それらに対する異なる主張やその理由を積極的に理解しようとしている。							
	(評価方法: 活動の観察)								
Lesson 9	外国語理解の能力	L: 日本の景観に関する Dennett 氏の意見とその理由を理解できる。							
	外国語表現の能力	R: Dennett 氏と Kato 氏や Honda 氏の意見の共通点や相違点を整理して理解することができる。							
	外国語表現の能力	S: 他の人と意見を交換しながら、議論を深めることができる。							
	外国語表現の能力	W: 題材に関する自分の意見を、根拠を示しながら、適切な表現で説明することができる。							
	外国語表現の能力	・ 言語や文化に関する知識・理解: 日本でよく見られる電柱や看板の存在と景観に与える影響について理解している。							
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	if の使用にまつわるエッセイを読み、著者の説明や感情を積極的に理解しようとしている。							
	(評価方法: 活動の観察)								
Lesson 10	外国語理解の能力	L: 様々な場面における if の使われ方とその働きを理解できる。							
	外国語理解の能力	R: if が導く様々な仮想場面に親しみ、この短い単語が作り出す言葉の力について理解できる。							
	外国語表現の能力	S: 「if という言葉がなかったら自分の生活はどう変わるだろうか」という課題について、グループディスカッションすることができる。							
	外国語表現の能力	W: ことわざや童謡に効果的に使用される if の働きに注目し、自らも if を使って文を作ることができる。							
	言語や文化に関する知識・理解	ことわざや童謡などに効果的に使用される if について理解している。							
備考		授業中に、リスニングテストを随時行います。また、英作文を課題として提出します。パフォーミングテスト、スピーキングテストをそれぞれ2回程度実施します。パフォーミングテストの詳細や評価方法は授業の中で連絡します。							

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科	外国語	科目	英語表現Ⅱ	単位数	2
教科書	文英堂「UNICORN English Expression 2」		副教材	文英堂「UNICORN English Expression 2 WORKBOOK [語彙・文法編]」 旺文社「スクランブル英文法・語法」	

CAN-DO リストに基づく学習到達目標とその評価規準・評価方法					
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	(評価方法) コミュニケーション活動、授業内アクティビティへの取り組みの観察および提出物による。				
外国語表現 の能力	<p style="text-align: center;">話すこと</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; border-right: 1px dashed black;">やり取り</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">発表</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発話の細部に気を配りながら積極的に英語を話すことができる。</li> <li>・ 定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>・ なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近な事柄等について、準備を進め、まとめた内容を英語で話すことができる。</li> <li>・ 聞き手を意識してわかりやすい発表ができる。(アイコンタクトやジェスチャー、十分な声量などの定着)</li> </ul> </td> </tr> </table>	やり取り	発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発話の細部に気を配りながら積極的に英語を話すことができる。</li> <li>・ 定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>・ なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近な事柄等について、準備を進め、まとめた内容を英語で話すことができる。</li> <li>・ 聞き手を意識してわかりやすい発表ができる。(アイコンタクトやジェスチャー、十分な声量などの定着)</li> </ul>
	やり取り	発表			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発話の細部に気を配りながら積極的に英語を話すことができる。</li> <li>・ 定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>・ なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近な事柄等について、準備を進め、まとめた内容を英語で話すことができる。</li> <li>・ 聞き手を意識してわかりやすい発表ができる。(アイコンタクトやジェスチャー、十分な声量などの定着)</li> </ul>			
	(評価方法) 定期テスト、パフォーマンステスト (年2回)				
書くこと					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の細部に気を配りながら、積極的に英語を書くことができる。</li> </ul> <p>※<u>枠組み</u>や<u>補助</u>があれば、聞いたり読んだりしたことや身近なことからについて、構成を意識したまとまりのある英文を書くことができる。</p> <p>※<u>枠組み</u>や<u>補助</u>とは理由の述べ方やパラグラフライティングなど、ライティングの基本的な型を指す。</p>					
(評価方法) 定期テスト、小テスト、課題					
外国語理解 の能力	聞くこと				
	読むこと				
言語や文化についての 知識・理解	(評価方法) 定期テスト、小テスト、課題				

科目	英語表現Ⅱ	学期	前	3 2	単元	文英堂「UNICORN English Expression 2」	
単元名	単元の評価規準（学習到達目標）						
	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。            (評価方法：授業内の取り組み、提出物)</p>						
Lesson1 ～ Lesson5	<p>外国語理解の能力</p> <p>外国語表現の能力</p>	<p>L: R: S: 比較・対照、時間的順序、具体例・例証、原因・結果、意見と理由に関する表現を用いて、正しい英文を話すことができる。 W: 比較・対照、時間的順序、具体例・例証、原因・結果、意見と理由に関する表現を理解し、それぞれの場面で使い分けて、表現することができる</p>			<p>定期テスト 小テスト</p>	<p>パフォーマンス テスト</p>	<p>課題</p>
	<p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>						
Lesson6 ～ Lesson7	<p>外国語理解の能力</p> <p>外国語表現の能力</p>	<p>L: R: S: 推量・確信、予測・期待、欠陥結果、言い換えに関する表現を用いて、正しい英文を話すことができる。 W: 推量・確信、予測・期待、欠陥結果、言い換えに関する表現を理解し、それぞれの場面で使い分けて、表現することができる</p>					
	<p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>						
Lesson8 ～ Lesson10	<p>外国語理解の能力</p> <p>外国語表現の能力</p>	<p>L: R: S: 類似、義務・必要、部分否定・強調、時を表す構文・情報、時を加える表現を用いて、正しい英文を話すことができる。 W: 類似、義務・必要、部分否定・強調、時を表す構文・情報、時を加える表現を理解し、場面に応じて、必要な表現を用いることができる。</p>					
	<p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>						
備考	<p>パフォーマンステストとして、リスニングテストを1回、スピーキングテストを1回実施します。パフォーマンステストの詳細や評価方法は授業の中で連絡します。            また、夏休みの課題として、既習事項の演習問題を解きます。</p>						

科目	英語表現Ⅱ	学期	前	3 2	単元	文英堂「UNICORN English Expression 2」							
単元名	単元の評価規準（学習到達目標）						評価方法						
	定期テスト	パフォーマンス	小テスト		テスト		課題						
Lesson11 ～ Lesson15	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。            (評価方法：授業内の取り組み、提出物)</p> <p>外国語理解の能 力 L: R</p> <p>外国語表現の能 力 S：付帯状況・頻度、条件・驚き、列挙・要求、原因・結果、譲歩、可能性に関する表現を用いて、英文を適切に話すことができる。 W：付帯状況・頻度、条件・驚き、列挙・要求、原因・結果、譲歩、可能性に関する表現を用いて英文を書くことができる。</p> <p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>												
Lesson16 ～ Lesson17	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。            (評価方法：授業内の取り組み、提出物)</p> <p>外国語理解の能 力 L: R:</p> <p>外国語表現の能 力 S：比較、賛成・反対、後方照応、理由に関する表現を用いて、英文を適切に話すことができる。 W：比較、賛成・反対、後方照応、理由に関する表現を用いて英文を書くことができる。</p> <p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>												
Lesson18 ～ Lesson20	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。            (評価方法：授業内の取り組み、提出物)</p> <p>外国語理解の能 力 L: R:</p> <p>外国語表現の能 力 S：数量・失望、譲歩・後方、許可・禁止に関する表現を用いて、英文を適切に話すことができる。 W：数量・失望、譲歩・後方、許可・禁止に関する表現を用いて、適切な英文を書くことができる。</p> <p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>												
備考	<p>パフォーマンステストとして、スピーキングテストを1回実施します。パフォーマンステストの詳細や評価方法は授業の中で進捗します。            また、冬休み、入試期間中の課題として既習事項に関する問題演習を行います。</p>												

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	家庭・家庭基礎	学年	第2学年	教科書	東京書籍「家庭基礎 自立・共生・創造」
		単位数	2単位	副教材	実教出版「生活学Navi 資料+成分表2021」

**学習目標**  
 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。

**学習方法**  
 ○授業における課題に対して自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行います。  
 ○授業においてはプリントを利用します。  
 ○調理実習ではレポートを作成し、実習結果をもとに考察を行います。  
 ○家庭学習における課題を提出してもらいます。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	b	a	b
a	関心・意欲・態度		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活等について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	
b	思考・判断・表現		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活等について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	
c	技能		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活等に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	
d	知識・理解		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活等に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	2	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	・ホームプロジェクトの進め方 ・ホームプロジェクトのテーマ検討	○	○			a: 自分や家族と家庭等の課題に関心を持ち、課題設定に向けて意欲的に取り組んでいる。 b: 課題設定に向けて広く資料収集し、様々な実践課題を検討している。	・プリント ・取り組み
	家族・社会との共生	6	自分らしい人生を作る	・家族に関する法律 ・家庭の役割	○	○			a: 家庭との関わりに関心を持ち、今の自分と向き合おうとしている。 b: 家族と家庭について、自身の考え方を明らかにすることができた。 d: 一生に関わる法律を知り、必要性を理解している。	・プリント ・取り組み ・テスト
		8	子どもと共に育つ	・発達・発育の特徴 ・集団保育と家庭保育 ・権利と福祉	○	○	○		a: 保育学習の意義を理解しようとしている。 b: 望ましい保育環境を考えている。 c: 子どもの遊びを体験し、子どもの心身の発達を促す遊びを実感することができる。 d: 子どもを支える仕組みについて理解している。	・プリント ・取り組み ・レポート ・テスト
		5	高齢社会を生きる	・高齢者の生活と福祉	○	○			a: 高齢者の生活に関心を持ち、未来の自分の生活として学習に取り組んでいる。 b: 高齢者福祉の問題点や解決策を考えている。 d: 高齢者を支える仕組みについて理解している。	・プリント ・取り組み ・テスト
		4	共に生き共に支える	・私たちの生活と福祉 ・社会保障の考え方	○	○	○		a: 一生を通じた福祉や社会的支援の必要性について考えようとしている。 b: 多様な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解し、ユニバーサルデザインを考えている。 c: 社会福祉の問題点や解決策を考え発表することができる。 d: 社会保障制度の理念を内容を理解している。	・プリント ・取り組み ・発表 ・テスト
		7	経済生活を営む	・家庭経済 ・三者間契約 ・権利と責任 ・消費者問題	○	○			a: 消費生活と資源・環境との関わりについて考えようとしている。 b: 消費生活の問題点や解決策を考えている。 d: 消費生活をおくるために必要な知識を身に付けている。	・プリント ・取り組み ・テスト
後期	生活の自立	13	食生活をつくる	・食生活 ・栄養と栄養素 ・食の安全 ・調理実習	○	○	○		a: 食生活に関心を持ち、安全で健康的な食生活について考えようとしている。 b: 健康や環境に配慮した食生活を考えている。 c: 調理技術を身に付け、食環境などに配慮することができる。 d: 栄養素や食品の衛生について理解している。	・プリント ・取り組み ・テスト
		8	衣生活をつくる	・着用目的 ・成り立ちと性質 ・管理	○	○			a: 衣服の性能や改善に関心を持ち、衣服の選択や管理について考えようとしている。 b: 衣服管理において適切な判断ができる。 d: 衣服について基本的な知識を理解している。	・プリント ・取り組み ・テスト
		7	住生活をつくる	・快適な住生活 ・賃貸契約	○	○	○		a: 住生活に関心を持ち、快適な住環境について考えようとしている。 b: 快適な住生活について改善策を考えている。 c: 快適な住生活について検討することができる。 d: 快適な住生活等に関する知識を理解している。	・プリント ・取り組み ・テスト
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	2	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	・ホームプロジェクト実践活動 ・発表	○	○	○		a: 住生活に関心を持ち、快適な住環境について考えようとしている。 b: 快適な住生活について改善策を考えている。 c: 快適な住生活について検討することができる。 d: 快適な住生活等に関する知識を理解している。	・レポート ・発表
	生活の創造	2	生活を設計する	・生涯を見通す	○				a: 生活設計や、職業設計の重要性を理解し、自分の将来の適性を考えようとしている。	・取り組み
合計時数(55分授業)	64									

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	総合的な探究の時間(SL)	学年	第2学年	教科書	
		単位数	1単位	副教材	課題研究メソッド(啓林館)

**学習目標**  
 自らの興味関心に基づき、テーマを探し出す力を養います。また、テーマに基づいて目標を設定し、学習を進める方法を学びます。さらに、学習の成果をレポート・発表として表現する力、自己の生き方・在り方を考えることができる力を身に付けます。

**学習方法**  
 ○講演を聞いたり、大学研究を行ったりすることで、でグローバル社会の自己の生き方・在り方を考えます。  
 ○課題研究を行うことで、自らの興味関心に基いたテーマを探し出します。  
 ○以上の2つから学習を進める方法を学び、その成果を発表することにより、他者に伝えることや、他者への理解を深めましょう。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	知識・技能	探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、グローバル社会に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。
b	思考・判断・表現	諸問題と自己との関わりから問いを見い出し、自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。
c	主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c		
通年	総合的な探究の時間	1	自己探求	ガイダンス(情報収集の方法)	○		○	a:探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、グローバル社会に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。 b:諸問題と自己との関わりから問いを見い出し、自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 c:探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。	授業への取り組み ワークシート
		6		スタディサポート キャリアサポート			○		
		3		講演会(シチズンシップ、思春期、教育実習)	○	○			
		4		グローバル教育講演会 交流会	○	○			
		6	課題研究	課題研究①	○		○		
		12		発表①		○	○		
				課題研究②	○		○		
				発表②		○	○		
合計時数(55分授業)		32							

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	国語・現代文B	学年	第3学年	教科書	大修館書店『精選現代文B新訂版』
		単位数	2単位	副教材	第一学習社『新版四訂カラー版新国語便覧』 第一学習社『意味から学ぶ頻出漢字3000』

**学習目標**  
近代以降の優れた文章や作品を読解し、鑑賞する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深めることを目標とする。

**学習方法**  
○授業で扱う各教材について自ら考え、また周りの生徒とともに作品を深く読解する活動を行います。  
○「便覧」を活用し、文学史などの知識を深めます。  
○小テスト・課題レポートなど、日々の取り組みを評価します。しっかりと努力しましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	
b	話す・聞く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取る技能を身に付けている。		
c	書く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書くことができる。		
d	読む能力	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を読み取ったり読書に親しむ態度を身に付けている。		
e	知識・理解	表現と理解に役立つための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。		

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d	e		
前期	・読むこと ・聞くこと ・書くこと ・話すこと	6	近現代の文章	評論1	○	○			○	a文章の論理展開を的確に把握し、筆者の主張を理解している。 b内容について自分なりの意見を持ち、今後の考え方に反映させることができる。 c与えられた課題に即して思考を深めスピーチや作文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。 d古典的な名作を読み文学の面白さを味わうことができる。 e登場人物の心情を的確にとらえ、時代と人間の関係について考えを深めることができる。 e筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について認識を深めることができる。また、進んで評論を読む態度を身に付けている。	授業への取り組み・定期試験・小テスト等
		8		小説1	○	○			○		
		6		評論2	○		○		○		
		8		小説2	○		○	○			
		4		表現	○	○	○				
後期	・読むこと ・聞くこと ・書くこと ・話すこと	7	近現代の文章	評論3	○		○	○	○	a文章の論理展開を的確に把握し、筆者の主張を理解している。 b与えられた課題に即して考察を深めスピーチや作文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。 c内容について自分なりの意見を持ち、社会的な問題に対し広く目を向けていくことができる。 d筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について深い考察をめぐらすことができる。また、近代の文学作品を主体的に読解し、より深く鑑賞する力と知識を身に付けている。 e完成度の高い文章の論理展開を的確に把握し理解している。	授業への取り組み・定期試験・小テスト等
		7		小説3		○	○	○			
		7		評論4	○	○	○		○		
		7		評論5	○		○	○	○		
		4		表現	○	○	○				
合計時数(55分授業)		64									



令和2年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	国語・総合古典	学年	第3学年	教科書	大修館書店「精選古典B 改訂版」
		単位数	3単位	副教材	東京書籍「新精選古典文法改訂版」 第一学習社「新版四訂カラー版新国語便覧」 いっぴずな書店「古文単語330三訂版」

学習目標	<p>○これまで学習し身につけた古典を読む力をつけて、より長く難しい文章や文学に向き合い、知識の獲得や、文法の深い理解、それによる読む力の習熟を図る。</p> <p>○作品や文化へのより深い理解を身につける。</p> <p>○古典文学に親しみ、楽しみ、現代に古典を読む意義や目的を自分なりに見出す。</p>
------	---

学習方法	<p>○音読は、言語の音律を身に染みこませ、文章への理解を深めるものです。自ら積極的に取り組みましょう。</p> <p>○読み書き・語彙の知識は、すべての学習において理解の基礎になるものです。自ら積極的に取り組みましょう。</p> <p>○文法や文構造は客観的で正確な読解に必要不可欠です。必ず予習をおこない、授業を通して自分の読解の正確性を確かめ、読む力を培いましょう。</p> <p>○時代背景や文学史は、文章を理解する一助になります。便覧や読書を通じて幅広く知識を身につけましょう。</p>
------	--

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨		
	a	関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。		
	d	読む能力	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察するなどして、自分の考えを深め、発展させている。		
	e	知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解を深め、知識を身に付けている。		

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	d	e		
前期	古文	15	説話 随筆 日記 物語	古今著聞集 今昔物語集 枕草子 大和物語 など	○	○	○	<p>a 予習や音読、語彙獲得に積極的に努めるなど、意欲的に学習し、文学に関心をもち、読む力を培おうとしている。</p> <p>d 文法や文章構造を踏まえた客観的な読解の力を身に付けている。</p> <p>e 読解に必要な最低限の文法事項を身につけている。</p> <p>e 文章を読む上で必要な時代背景や文学史について十分な知識を身につけている。</p>	<p>取り組み、定期テスト、単語テスト、提出物など</p>
	漢文	20	漢詩 逸話	李白・杜甫 白居易 世説新語 韓非子 など	○	○	○		
	古文	13	物語	大鏡 源氏物語 など	○	○	○		
後期	漢文	20	史伝 思想	史記 韓非子 など	○	○	○		
	古文	20	物語 評論	源氏物語 風姿花伝 玉勝間 など	○	○	○		
	古文	8	近世文学	雨月物語 など	○	○	○		
合計時間(55分授業)		96							

# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	国語・現代文研究	学年	第3学年	教科書	
		単位数	2単位	副教材	いっずな書店「プロGRESS 現代文総演習 完成編」

**学習目標**  
教科書収録外の様々な優れた文章や作品に接し、読解することで、見識・感性・思考力を深める。また作品に現れた思想や感情を味わい、進んで表現し読書する態度を育てることを目標とする。

**学習方法**  
問題演習を通して、読解力を高めるとともに、見識・感性・思考力・表現力を深めます。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
c	書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め発展させている。	
d	読む能力	近代以降の文章を的確に読みとったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	
e	知識・理解	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し知識を身に付けている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	c	d	e			
前期	読むこと・書くこと	32	読解の基本 読解と要約	哲学	○	○	○	○	a文学の面白さを味わうことができる。	授業への取り組み・定期試験・小テスト等	
				国際理解	○	○	○	○	a内容について自分なりの意見を持ち、今後の考え方に反映させることができる。		
				小説	○	○	○	○	c与えられた課題に即して思考を深め作文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。		
				文化	○	○	○	○	d筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について認識を深めることができる。また、進んで評論を読む態度を身に付けている。		
				芸術	○	○	○	○	d登場人物の心情を的確にとらえ、時代と人間の関係について考えを深めることができる。		
				倫理	○	○	○	○	d文章の論理展開を的確に把握し、筆者の主張を理解している。		
				社会学	○	○	○	○			
				科学	○	○	○	○			
後期	読むこと・書くこと	32	読解の内容把握 読解と思考力	哲学	○	○	○	○	a文学の面白さを味わうことができる。	授業への取り組み・定期試験・小テスト等	
				国際理解	○	○	○	○	a内容について自分なりの意見を持ち、今後の考え方に反映させることができる。		
				小説	○	○	○	○	c与えられた課題に即して思考を深め作文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。		
				文化	○	○	○	○	d筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について認識を深めることができる。また、進んで評論を読む態度を身に付けている。		
				芸術	○	○	○	○	d登場人物の心情を的確にとらえ、時代と人間の関係について考えを深めることができる。		
				倫理	○	○	○	○	d文章の論理展開を的確に把握し、筆者の主張を理解している。		
				社会学	○	○	○	○			
				科学	○	○	○	○			
合計時数(55分授業)		64									

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	国語・古典研究	学年	第3学年	教科書	第一学習社「国語力を高める 教養講座古文30選」 第一学習社「実践型問題集 スタディアーク 古典(step3)」 第一学習社「新版四訂カラー版新国語便覧」 東京書籍「新精選 古典文法 改訂版」 いっすな書店「古文単語330三訂版」
		単位数	2単位	副教材	

学習目標	<p>○これまで学習し身につけた古典を読む力をつかって、問題演習に取り組み、知識の獲得や文法の深い理解、それによる読む力の習熟を図る。</p> <p>○古典文学に親しみ、楽しみ、現代に古典を読む意義や目的を自分なりに見出す。</p>
------	--

学習方法	<p>○音読は、言語の音律を身に染みこませ、文章への理解を深めるものです。自ら積極的に取り組みましょう。</p> <p>○読み書き・語彙の知識は、すべての学習において理解の基礎になるものです。自ら積極的に取り組みましょう。</p> <p>○文法や文構造は客観的で正確な読解に必要不可欠です。必ず予習をおこない、授業を通して自分の読解の正確性を確かめ、読む力を培いましょう。</p> <p>○時代背景や文学史は、文章を理解する一助になります。便覧や読書を通じて幅広く知識を身につけましょう。</p>
------	--

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して進んで古典に親しもうとする態度を身に付けている。
d	読む能力	古典に現れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする能力を身に付けている。	
e	知識・理解	古典の理解に役に立てるための音声、文法、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	d	e		
前期	古文	10	万葉集 古今和歌集 伊勢物語 枕草子 など	品詞分解 活用の種類 助動詞 和歌の修辞	○	○	○	<p>a 予習や音読、語彙獲得に積極的に努めるなど、意欲的に学習し、文学に関心を持ち、読む力を培おうとしている。</p> <p>d 文法や文章構造を踏まえた客観的な読解の力を身に付けている。</p> <p>e 読解に必要な最低限の文法事項を身につけている。</p> <p>e 文章を読む上で必要な時代背景や文学史について十分な知識を身につけている。</p>	<p>取り組み、定期テスト、単語テスト、提出物 など</p>
	漢文	10	荘子 龍川略志 呂氏春秋 など	漢文の読み方 助字 再読文字 句形	○	○	○		
	古文	10	源氏物語 栄花物語 大鏡 松浦宮物語 など	敬語 識別 接続助詞	○	○	○		
後期	漢文	10	荀子 幽明録 尚綱齋集 など	句形	○	○	○		
	古文	10	平治物語 発心集 たまきはる 太平記 など	識別	○	○	○		
	古文	14	歌論書 注釈書	まとめ	○	○	○		
合計時数(55分授業)		64							

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・世界史研究	学年	第3学年	教科書	山川出版社「流れ図で攻略 詳説世界史B」 実教出版「テーマ別学習世界史 文化史編」
		単位数	4単位	副教材	

学習目標	「世界史B」を発展学習することにより、主として中世以降の歴史の大きな枠組みと展開を諸史料に基づき理解することができる。さらに地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解することができる。				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 予習・復習を前提とし、授業においては単なる事実の羅列でなく歴史的意義の理解を行います。</li> <li>○ 授業における課題に対して自ら考え、また、資料を活用することでデータを読み取って考察する活動を行います。</li> <li>○ 家庭学習においては「新詳 世界史Bノート」などを使用し基本知識の定着を進めます。</li> </ul>				
学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨		
	a	関心・意欲・態度	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を備えている。		
	b	思考・判断・表現	世界の文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断するとともに、考察した過程や結果を適切に表現することができる。		
	c	資料活用の技能	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめるなど活用することができる。		
	d	知識・理解	世界の歴史についての基本的な事象を、地理的条件や我が国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。		

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	古代～近代のアジア	13	東アジア世界と中央ユーラシア世界	秦～宋の世界	○	○	○	a:東アジア世界における多様な古代文明の発生と、その中で日本の位置づけに関心がもてる。 b:遊牧民の活動と中華王朝の変遷が深く関連していることを理解し、考察できている。 c:地図を用いて、モンゴルの活動によってユーラシア大陸の内陸交易と海上交易が一体化したことを指摘できる。 d:モンゴルによりユーラシア大陸が一体化したことで、ユーラシア規模での人の交流やものの流通が起こったこと、および14世紀の危機を理解している。	「学習態度」(授業への取り組み、発言内容、プリントへの取り組み)、「定期試験」、「課題レポート」等をふまえて、総合的に評価する。	
				遊牧国家	○	○	○			
		13	モンゴル帝国の出現とアジア諸地域の繁栄	モンゴル帝国	○	○	○			
				オスマン帝国・ムガル帝国・明朝・清朝	○	○	○			
	近世～近代のヨーロッパ、アメリカ	13	近代ヨーロッパの成立・ヨーロッパ主権国家体制の展開	大航海時代	○	○	a:16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界の動向、アメリカ・アフリカとの関係に関心を高めている。 b:ヨーロッパとアメリカの諸革命について多面的に考察し、その過程や結果を表現できる。 c:18世紀頃のヨーロッパとアメリカ社会の変容に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択できる。 d:独立後のアメリカでは、フロンティアの存在と西漸運動がアメリカ人独特のものの考えや行動様式を育むうえで重要な役割を果たしたことを理解し、その知識を身に付けている。			
				絶対王政と啓蒙思想	○	○				
13		欧米における近代社会の成長・近代国民国家の発展	産業革命と各国の独立革命	○	○					
			ナポレオン、アメリカ南北戦争	○	○	○				
13	産業資本主義の発展と帝国主義	イギリスの覇権とヨーロッパ諸国	○	○	a, b, c, d: 19世紀後半から20世紀初めまでの欧米諸国の工業化の進展にともなう国家・社会の変化及び帝国主義時代の世界の動向と社会の特質について、関心を高め、地図資料を活用しながら多面的に考察するとともに、歴史的事象について必要な知識を身に付けている。					
		南北アメリカの発展	○	○						
後期	近代～現代	18	アジア諸地域の変革運動	清の動揺と東アジア	○	○	世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の対応、及び19世紀のアジアの特質について a. 関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b. 多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 c. 資料から有用な情報を読み取り、文章や図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d. 理解し、その知識を身に付けている。	「学習態度」(授業への取り組み、発言内容、プリントへの取り組み)、「定期試験」、「課題レポート」等をふまえて、総合的に評価する。		
				南アジア・東南アジアの植民地化と民族運動	○	○				
				西アジアの改革運動	○	○				
		18	世界戦争の時代	第一次世界大戦とヴェルサイユ体制	○	○			第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる世界戦争の時代の国際社会の変遷と大衆社会の出現、及び20世紀前半の世界の動向と社会の特質について a. 関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b. 多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 c. 資料から有用な情報を読み取り、文章や図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d. 理解し、その知識を身に付けている。	
				大戦後の合衆国とヨーロッパ	○	○				
				アジア・アフリカでの国家形成の動き	○	○				
	16	戦後世界秩序の形成	第二次世界大戦	○	○					
			冷戦の形成と展開	○	○					
			多極化	○	○					
	11	相互依存を深める世界	二極時代の終焉	○	○	第二次世界大戦終結後の冷戦体制の始まりから、アジア・アフリカ諸国の独立、平和共存の模索、アジアやヨーロッパの経済成長による世界の多極化を経て1970年代にいたるまでの世界の動向について a. 関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b. 多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 c. 資料から有用な情報を読み取り、文章や図表などにまとめるなどして歴史的事象を追究する方法を身に付けている。 d. 理解し、その知識を身に付けている。				
冷戦の終結と新たな世界秩序			○	○						
21世紀の地球的課題と地域世界	○	○								
合計時数(55分授業)	128									

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・日本史研究	学年	第3学年	教科書	浜島書店「新詳日本史」 実教出版「新詳述日本史史料集」 数研出版「改訂版 大学共通テスト対策チェック&演習 日本史B」
		単位数	4単位	副教材	

**学習目標**  
日本における文化・諸制度について、周辺諸国との関わりを踏まえて深く理解する。また、多彩な国際環境の中で日本文化の特性を修得し、併せて自己の言葉で表現する力を身に付ける。日本の近現代の歩みと発展・太平洋戦争までの歴史の展開を様々な視点で深く考察し、多面的な物事の見方・考え方を修得する。

**学習方法**  
○テーマ学習を設定し、自ら考え論ずる活動を行う。  
○進んで不明点を解明し、また、周囲の生徒と共同で主体的に考えていく活動を行う。  
○随時問題演習を行い、実践的な学力を身に付けるようにする。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	b	c	d
a	関心・意欲・態度	日本の歴史と東アジアの文化に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする態度を身に付けている。		
b	思考・判断・表現	日本の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や東アジア世界の特質を多面的・多角的に考察し、世界の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。		
c	資料活用 の技能	思考・判断・表現の場面において、日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、適切に活用している。		
d	知識・理解	日本の歴史や東アジアの仏教文化についての基本的な事柄を、地理的条件や世界史的な視野と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。		

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	I 原始・古代、中世 ・原始、古代、中世における日本の社会と仏教の受容	36	1 日本文化のあけぼの 2 水稻農業の開始と社会生活の進展 3 東アジア文化の影響と律令制度の成立 4 摂関政治と荘園公領制の展開	列島の形成から古墳文化成立にかけての日本文化の特質 古代国家と仏教文化 貴族政治の特質と中国と朝鮮・日本との関係、文化の受容 古代の崩壊と中世への変遷	○			○	a: 日本の古代国家の統一から貴族政権の変遷までを、仏教文化の受容や東アジア諸国(特に中国や朝鮮)との関わりの中で意欲的にとらえようとしている。 b: 仏教文化の受容の在り方や、古代社会制度の変遷について理解し、その歴史的意義について、多角的・多面的に考察する力を身に付けている。 c: 国内文化の特徴を捉え、古代から中世への変化について諸史料を読みとぎ、正確な知識を身に付けている。 d: 日本の古代国家の統一から貴族政権の変遷までの歴史の流れを、理解している。	定期考査 課題レポート ワークシート 記述内容
			5 武家社会の成立と文化の新機運 6 武家社会の展開と室町文化	武家政権の成立と中世に生きる人々の特質 東アジアとの関わりから考える武家政権の特色 産業の発達とヨーロッパ文明との出会いによる日本の変化	○	○		○	a: 武家社会の成立発展過程と、武家社会の文化の特質について、意欲的に追究しようとしている。 b: 武家社会の成立から変遷、特色について、多角的・多面的に考察する力を身に付けている。 c: 中世の人々の具体的な営みを絵画資料などから積極的にイメージし、再現できる。さらに文字史料を正確に読み取り、自己の考えをまとめている。 d: 武家政権の成立から変遷、特色について理解している。また、蒙古や明、ヨーロッパ諸国との関係と文化の変容を把握し、日本文化の特徴的な様相をとらえている。	
後期	II 近世、近現代 ・近世、近代の日本における海外文化の受容と発展	32	7 幕藩体制の展開と近世文化の成立 8 幕藩体制の動揺と文化の成熟	ヨーロッパ文明との出会いによる日本文化の変質 幕藩体制がもたらした独自の文化の発達 鎖国下で発達した国学・儒教・仏教の意味と政治に与えた影響	○		○		a: 様々な近世文化に積極的に親しみ、現代の文化に通底する普遍性を理解しようとする意欲を持っている。 b: 織豊政権の特色と南蛮貿易などと関係して理解し、江戸時代につながる歴史の流れを考察している。 c: 幕藩体制の成立と変化を捉えるとともに、史料の読解から当時の人々の考え方や行動を追究している。 d: 織豊政権と幕藩体制の成立と変遷を、東アジアの中の日本という視点を持って理解している。	定期考査 課題レポート ワークシート 記述内容
			9 近代への転換 10 近代国家の形成 11 両大戦間の日本と市民文化 12 十五年戦争と日本 13 現代の日本と新しい文化	東アジアにおける近代国家誕生の意義と文化比較 繰り返される戦争が日本と東アジア社会に与えた影響とその問題点 ファシズムがもたらした文化統制 戦後のアメリカ文化の受容と日本社会の変質	○	○		○	a: 近代・現代史の学習を通じて、日本のたどってきた道について公正な視点から捉え、理解しようとする主体的な意欲を持っている。 b: 日本の近代化と両大戦に至る社会の変化について考察し、戦前、戦中の日本社会を多角的に理解している。また、戦後の経済成長や文化の大きな変容を事実に基づいて説明し、伝えることができる。 c: 史料から戦争の実態を理解し、戦争が生活・文化に与えた影響を具体的に捉えている。 d: 近代国家成立の意義と東アジアにおける先進的な役割を理解し、併せて欧米文明の受容の意味について把握することができる。	
			合計時数(55分授業)	128						

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・地理B	学年	第3学年	教科書	帝国書院「新詳地理B」
		単位数	3単位	副教材	帝国書院「新詳地理資料COMPLETE2021」

学習目標	1 現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察する。 2 現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を養う。 3 国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。	
	1. 授業における課題に対して自ら考え、また、資料を活用することでデータを読み取って考察する活動を行います。 2. 授業においては補助プリントや演習プリントを利用し、資料集も活用します。 3. 適宜、時事的な題材も取り上げますが、普段から世界の出来事にも関心を持ちつつ学習に取り組みましょう。	
学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
	a 関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。
	b 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、追究した過程や結果を適切に表現している。
	c 資料活用の技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付けている。
	d 知識・理解	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	さまざまな地図と地理的 技能	2	地理情報と地図	・地図の発達 ・地図の種類とその利用 ・地理情報の地図化	○				a:現代世界の地図について、さまざまな技術を利用してつくられた地図の読図や比較、地理情報の地図化などの活動を通して、現代世界の地図に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 c:作成方法や世界観が異なる現代世界のさまざまな地図を収集・比較し、有用な情報を適切に選択できる。	授業への取り組み(発言内容、プリント類への取り組み)、定期試験、課題レポート等をふまえて、総合的に評価する。
		4	地図の活用と地域調査	・地図の活用 ・身近な地域の調査	○				a:地図の活用と地域調査について、地形図の読図や資料収集などを意欲的にを行い、地域調査に対する関心と課題意識を高めている。 c:地形図の読図などを通して、調査内容に関する地域の情報を適切に収集・選択できる。	
	21	自然環境	・世界の地形 ・世界の気候 ・日本の自然の特徴と人々の生活 ・環境問題		○			b:世界の自然環境について、その分布や特徴を成因と関連付けて考察するとともに、人間生活とのかかわりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 d:世界の自然環境について、分布や特徴、成因や人間生活とのかかわりについて理解し、その知識を身に付けている。		
	21	資源と産業	・世界の農林水産業 ・食料問題 ・世界のエネルギー・鉱産資源 ・資源・エネルギー問題 ・世界の工業 ・第3次産業 ・世界を結ぶ交通・通信 ・現代世界の貿易と経済圏			○		b:現代世界や日本の産業の現状と課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 d:世界の産業について、自然条件や社会条件の違いと関連付けて地域区分やそれぞれの特徴を理解し、その知識を身に付けている。		
後期	現代世界の系統地理的 考察	8	人口、 村落・都市	・世界の人口 ・人口問題 ・村落と都市 ・都市・居住問題			○		b:世界の人口について、世界の人口分布のかたよりと人口増加の原因、人口構成と人口転換の考え方、国際的な人口移動の背景を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 d:世界人口の分布と動態、人口構成の特色と人口転換のしくみを理解し、その知識を身に付けている。	授業への取り組み(発言内容、プリント類への取り組み)、定期試験、課題レポート等をふまえて、総合的に評価する。
		7	生活文化、 民族・宗教	・世界の衣食住 ・民族と宗教 ・現代世界の国家 ・民族・領土問題			○		b:世界の衣食住や宗教について、さまざまな衣食住の地域的差異の背景、世界と日本の衣食住の変化と世界的な画一化の要因を、自然環境や社会環境の変化などを踏まえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 d:衣食住の分布や地域的差異の特徴、画一化の進展状況などを理解し、その知識を身に付けている。	
	現代世界の 地誌的考察	2	現代世界の地域 区分	・地域区分とは何か		○			a:地域区分の目的や意義をふまえて、その有用性に対する関心高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 c:地域区分の目的や意義をふまえてさまざまな地域区分を示した図から有用な情報を適切に選択し、読み取ることができる。	
		26	現代世界の諸地 域	・地域の考察方法 ・東アジア ・東南アジア ・南アジア ・西アジアと中央アジア ・北アフリカとサハラ以南のアフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア ・アンゴラアメリカ ・ラテンアメリカ ・オセアニア		○	○		b:世界の諸地域について、日本との関係を含め歴史的背景をふまえた地域の姿容、地域的特色や地誌的課題を、項目ごとに整理して体系的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 c:世界の諸地域の自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、世界の諸地域の特色や近年の動向について読み取ることができる。 d:世界の諸地域の自然の特徴、日本との関係を含め歴史的背景をふまえた地域の姿容、地域的特色や地誌的課題を理解し、その知識を身に付けている。	
		5	現代世界と日本	・日本が抱える地理的な諸課題 ・日本の抱える課題の追究		○	○		b:日本が抱える地理的な諸課題について、これまでの歴史的経緯などをふまえて、その解決の方向性や持論などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 c:現代世界の日本に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに日本が抱える地理的な諸課題の原因や今後の展望などを読み取ることができる。 d:さまざまな規模の地理的な諸課題を抱える日本の現状と今後重要となる取り組みを理解し、その知識を身に付けている。	
	合計時数(55分授業)	96								

# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	公民・現代社会	学年	第3学年	教科書	実教出版「高校現代社会 新訂版」
		単位数	2単位	副教材	第一学習社「本質が見えてくる 最新現代社会資料集 新版」

**学習目標**  
 現代社会の基本的な問題について主体的に考察し、社会的事象に対する見方や考え方を深め、公正な判断力を持つことができる。  
 主に、現代の日本の政治及び国際政治について学習し、民主政治の本質について探究し、政治についての基本的な見方や考え方を身に付ける。また、人間としての在り方や生き方について考える力の基礎を固め、これからの国際社会を生きる良き市民として必要な能力と態度を身に付ける。

**学習方法**  
 ○ 講義と併せて時事問題を中心に自ら課題を設定し発表する等の学習活動をとおして、現代社会の諸問題に主体的に取り組む、自ら考える力を深める。  
 ○ 学習プリントや問題演習を利用しながら、現代社会の諸問題に対する理解を深め、学力の向上を図る。  
 ○ 定期的に家庭学習におけるレポートや副教材を利用した課題を提出する。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	関心・意欲・態度	現代社会の諸問題や日本の政治及び国際社会について関心を高め、主体的に政治に関わる態度を深めようとする。	
b	思考・判断・表現	現代社会の諸問題や日本の政治及び国際社会について課題を見だし、公民としての生き方を広い視野に立って考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。		
c	資料活用	メディア等を通して現代社会の諸問題や日本の政治・国際社会で起きていることを知り、有用な情報を主体的に選択する方法を身に付け、効果的に活用している。		
d	知識・理解	現代社会の基本問題と人間としての生き方にかかわる事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。		

※ 定期テストに関しては、上記四つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分している。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	(1) 現代の民主政治と民主社会	16	現代の国家と民主政治	基本的人権の保障と法の支配	○			○	a: 近代政治と人権保障の歩みを理解し、国民主権・多数決・権力分立などの基本原理と政治制度の多様性をとらえている。 b: 人権思想と近代国家の発展の歴史に関心をもち、人権尊重の視点から、民主主義の基本原理の特質を理解している。 c: 近代の人権思想の歩みと近代の民主主義国家の政治原理および現実の政治機構との関わりをとらえている。 d: 近代民主政治の歩みと歴史的宣言文書を通じて、民主主義の原理の形成過程をとらえている。	・レポート ・確認テスト ・授業への取り組み ・定期テスト
				国民主権と議会制民主主義		○		○		
				現代世界の政治制度	○			○		
				日本の領域	○			○		
前期	(1) 現代の民主政治と民主社会	16	日本国憲法と国民生活	日本国憲法の成立		○		○	a: 日本国憲法の成立過程とその三大基本原理を理解し、地方自治・世論・選挙・政党などの意味をとらえている。 b: 憲法の基本原理の正確な理解に基づき、日本の防衛問題や人権問題に関心をもち政治の主体としての自覚をもっている。 c: 憲法の平和主義と日本の防衛問題との関連、憲法の人権規定と現実の人権問題との関わりをとらえている。 d: 憲法第9条に関する政府解釈の推移と日本の防衛政策と日米安保体制の変化をとらえている。	・レポート ・確認テスト ・授業への取り組み ・定期テスト
				平和主義	○	○		○		
				基本的人権の保障	○	○	○	○		
				政治機構と国民生活			○	○		
後期	(2) 国際社会の動向と日本の役割	16	国際社会の動向	国際政治の動向と様々な人種・民族問題	○			○	a: 国際社会と国際法・国際組織の原理を理解し、戦後の国際政治の動向と人権民族問題や軍縮問題の現状をとらえている。また、経済摩擦や南北問題の日本の役割も理解している。 b: 国際政治の動向に興味関心をもち、人権尊重の立場から、人種民族問題・軍縮問題の現状をとらえている。 c: 戦後の国際政治の動向と国際紛争との関わりを理解し、国際組織が紛争解決のために果たす役割をとらえている。また、国際経済の動向についても経済摩擦や南北問題の原因および解決のための視点をとらえている。 d: 国際政治年表や国際紛争と地域的安全保障の地図を活用し、国連に求められる役割と新しい秩序の理念をとらえている。	・レポート ・確認テスト ・授業への取り組み ・定期テスト
			国際経済の問題と日本の役割	国際経済の動向			○	○		
合計時数(55分授業)		64								

# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	公民・政治・経済	学年	第3学年	教科書	第一学習社 「高等学校 改訂版 政治・経済」
		単位数	3単位	副教材	浜島書店「最新図説政経」

学習目標	<p>○民主主義の本質を理解し、広い視野から政治・経済・国際関係について、客観的に理解する力を身に付ける。</p> <p>○政治・経済・国際関係などに関する諸問題について主体的に考察する態度を身に付ける。</p> <p>○公正な判断力を持ち、良識ある公民として行動できる能力と態度を身に付ける。</p>
------	---

学習方法	<p>○授業において板書を写すだけでなく、自らの意見等もそこに加えていきましょう。</p> <p>○定期的にレポートをまとめることで、知識や他の人の考え方を知しましょう。</p> <p>○グループで調べ学習を行うことにより、共同で考える訓練を行います。</p>
------	--

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	現代の政治・経済・国際関係に関心を持ち、それらの課題を意欲的に追求する態度を身に付けている。
b	思考・判断・表現	現代の政治・経済・国際関係に関わる事象を見だし、解決のあり方など広い視野に立って多角的・多面的に考察し、様々な立場を踏まえながら公正に判断している。	
c	資料活用の技能	現代の政治・経済・国際関係に関わる諸資料を収集し、情報を主体的に選択し活用するとともに、考察した結果を適切に表現できる。	
d	知識・理解	現代の政治・経済・国際関係に関する基本的な事項や理論を理解し、その知識を身に付けている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点	単元(題材)の評価規準	評価方法	
前期	1章 現代の政治	24	1. 現代国家と民主政治	民主主義の基本的原理	○	a. 民主主義の歴史や基本的原理に関して、歴史学習と関連づけながら興味・関心を抱いている。 b. 現実の人権問題や平和問題に対して自らの考えを持ち、諸課題を追求する姿勢を示している。 c. 人権・平和主義などの問題について、諸資料を収集し、主体的に選択できる。 d. 民主政治の基本原則や憲法条文などについて基本的な知識を持っている。	・授業への取り組み ・単元テスト ・確認テスト ・レポート	
			2. 日本国憲法と基本的人権	基本的人権の歴史、法の支配、世界の主な政治体制	○			
				日本国憲法の成立、基本的人権の保障と新しい人権	○			
				平和主義	○			
		24	1. 日本の政治制度と政治参加	国会・内閣・裁判所の組織と権能	○	a. 国会・内閣・裁判所や地方自治の仕組みや制度に興味・関心を持っている。 b. 現代の国際政治の動向に関心を持ち、国際問題などの諸原因を意欲的に探求している。 c. マスメディア等を通じて情報を収集し、主体的に選択している。 d. 政党政治、官僚制、選挙制度等に関して客観的な知識を持っている。	・授業への取り組み ・単元テスト ・確認テスト ・レポート	
			2. 現代の国際政治	地方自治の仕組み	○			
			3. 日本の平和主義と国際平和	政党と選挙、世論の役割	○			
				国際平和と外交、政治の動向	○			
後期	2章 現代の経済	24	1. 現代の経済社会	経済主体と経済活動	○	a. 現実の日本経済の動向や問題点に興味・関心を持っている。 b. 現実の経済から、課題を見だし、様々な論者の意見の比較し、主体的に判断している。 c. 経済動向に関する諸資料を様々なメディアから収集している。 d. 現代企業、金融・財政、市場経済、国民所得などについて基本的な知識を持っている。	・授業への取り組み ・単元テスト ・確認テスト ・レポート	
			2. 現代の日本経済と福祉の向上	市場経済の機能と限界	○			
				金融と財政	○			
				経済成長と景気変動	○			
			24	1. 現代の国際経済	国際経済の仕組み	○	a. グローバル化が進む国際経済の動向に興味・関心を示している。 b. 現代日本の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決のあり方について客観的に考えようとしている。 c. 収集した資料から国際社会で日本が果たすべき役割などについて情報を主体的に選択・活用できる。 d. 自由貿易と保護貿易の考え方、国際収支の見方、為替相場の仕組み等国際経済の基本的知識を習得している。	・授業への取り組み ・単元テスト ・確認テスト ・レポート
				2. 現代社会の諸課題	国際協調と国際機関の役割	○		
					環境保全と資源エネルギー問題・農業と食料問題	○		
					少子高齢化と社会保障	○		
合計時数(55分授業)		96						



# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	数学・数学Ⅲ	学年	第3学年	教科書	啓林館「詳説 数学Ⅲ改訂版」
		単位数	5単位	副教材	啓林館「アドバンスプラス改訂版 数学Ⅲ」

**学習目標**  
 平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法について理解を深め、知識の習得とその技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力や、それらを積極的に活用する態度を身に付ける。

**学習方法**  
 ○授業は教科書の内容を中心に進め、基礎学力の向上を図ります。  
 ○進路に応じた演習問題を扱うので、授業の予習復習を行い、授業内容を十分に理解しておきましょう。  
 ○授業で習ったことを活用できるよう、副教材などを利用し練習を繰り返すようにしましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、考え方や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に進んで活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
b	数学的な見方や考え方	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	
c	数学的な技能	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けている。	
d	知識・理解	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	(1) 複素数平面	24	複素数平面	複素数平面、複素数の極形式、ド・モアブルの定理	○	○	○	○	a: 複素数平面、極形式に関心を持ち、それらのよさを認識し、考察に活用しようとしている。 b: 複素数の平面上における表し方を理解し、考察・表現できるようにする。 c: 複素数平面において、方程式が表す図形について考察することができる。 d: 複素数平面、極形式について理解し、計算や高次方程式を解くことができる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
			平面図形と複素数	平面図形と複素数						
	(2) 式と曲線	16	2次曲線	放物線、楕円、双曲線、2次曲線と直線の共有点、平行移動、離心率	○	○	○	○	a: 2次曲線の定義・性質に関心をもつとともに、それらのよさを認識し、考察に活用しようとしている。 b: 2次曲線の平行移動を理解し、さらに2次曲線と直線の位置関係について考察することができる。 c: 2次曲線の媒介変数表示や極座標、極方程式について理解し、グラフをかくことができる。 d: 式と曲線の媒介変数表示や極座標の概念、法則等を体系的に理解している。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
			媒介変数表示と極座標	曲線の媒介変数表示、極座標と極方程式、いろいろな曲線						
(3) 関数	12	分数関数と無理関数	分数関数、無理関数、合成関数逆関数	○	○	○	○	a: 分数・無理関数、逆関数、合成関数に関心をもつとともに、それらのよさを認識し、考察に活用しようとしている。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等	
(4) 極限	28	数列と関数の極限	数列の極限、無限等比級数、関数の極限、三角関数の極限	○	○	○	○	b: 数列の極限、無限級数について理解し、極限值や級数の和について考察することができる。 c: 関数の極限を求めることができ、関数の連続性を調べることができる。 d: 数列や関数の極限について理解し、極限值を求めることができる。		
後期	(5) 微分法	35	微分と導関数	微分可能と連続、微分と導関数、合成関数と逆関数の微分法	○	○	○	○	a: 関数の連続、微分可能について理解する。いろいろな関数の導関数とその計算に関心をもつとともに、それらのよさを認識し、考察に活用しようとしている。 b: 導関数を用いて様々な関数について、関数の増減・凹凸・変曲点を調べ、関数の特徴や性質を考察することができる。 c: 関数のグラフをかき、最大・最小、方程式・不等式、速度・近似式等に応用することができる。 d: 微分法の基本的な性質、概念、法則等を体系的に理解している。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
			いろいろな関数の導関数	三角関数の導関数、対数・指数関数の導関数、高次導関数						
			導関数の応用	接線の方程式、平均値の定理、関数の増減						
			いろいろな応用	グラフの凹凸、第2次導関数と極大・極小、速度と加速度、関数の近似値						
(6) 積分法	45	不定積分	不定積分、置換積分法と部分積分法	○	○	○	○	a: いろいろな関数の不定積分、計算法則に関心をもつとともに、それらのよさを認識し、考察に活用しようとしている。 b: 置換積分・部分積分法を理解し、様々な不定積分の計算を考察することができる。 c: 定積分を用いて様々な図形の面積、立体の体積を求めることができる。 d: 積分法の基本的な性質、概念、法則等を体系的に理解している。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等	
		定積分	定積分、定積分と微分、区分求積法と定積分							
		面積	面積							
		体積	体積、回転体の体積							
		曲線の長さ	曲線の長さ							
合計時数(55分授業)	160									

# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	数学・一般数学	学年	第3学年	教科書	数研出版「ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B受験編」
		単位数	3単位	副教材	

**学習目標**  
 数学Ⅰ・Aの全領域、数学Ⅱ・Bの全領域の考え方について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用できるようにする。大学入学共通テスト対策を図り対応する能力を身に付ける。実践問題演習により実践力を身に付け、的確に表現できるようになる。

**学習方法**  
 ○授業では、問題集の標準からやや発展的な問題を中心に演習および解説を行います。  
 ○授業では問題を精選し進めていくので、授業で取り組む問題以外は宿題や自主学習等で扱います。  
 ○大学入学共通テストに準ずる問題を基本的に扱うので、基本事項の確認・授業の復習などは自主的に行うようにしてください。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する能力を身に付けている。
b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して数学的な見方や考え方を身に付けている。
c	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
d	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

※ 定期テストに関しては、上記四つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前期	数学Ⅰ 数学A	24	I 数と式 II 集合と命題 III 2次関数 IV 図形と計量 V データの分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>式の計算</li> <li>1次不等式</li> <li>集合</li> <li>命題と論証</li> <li>2次関数</li> <li>2次関数の最大・最小</li> <li>2次方程式と2次不等式</li> <li>三角比の基本</li> <li>三角比と図形</li> <li>データの代表値とちがわり</li> <li>データの相関</li> </ul>				○	○	a:数と式、2次関数、図形と計量、データの分析に関心をもち、それらに関する性質を調べようとする。 b:数と式、2次関数、図形と計量、データの分析について、さまざまな場面に適用して考察することができる。 c:事象を数と式、2次関数、図形と計量、データの分析を用いた表現をし、処理する技能を身に付けている。 d:数と式、2次関数、図形と計量、データの分析における基本的な用語や記号の意味を理解している。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
	数学Ⅱ	24	I 場合の数と確率 II 図形の性質 III 整数の性質 IV 式と証明 V 複素数と方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>場合の数・順列・組合せ</li> <li>確率</li> <li>平面図形</li> <li>空間図形</li> <li>整数の性質</li> <li>式と証明</li> <li>複素数と方程式</li> </ul>			○	○	a:場合の数と確率、図形や整数、いろいろな式に関心をもち、それらに関する性質を調べようとする。 b:場合の数と確率、図形や整数、いろいろな式について、さまざまな場面に適用して考察することができる。 c:事象を場合の数と確率、図形や整数、いろいろな式を用いた表現をし、処理する技能を身に付けている。 d:場合の数と確率、図形や整数、いろいろな式における基本的な用語や記号の意味を理解している。		
後期	数学Ⅱ 数学B	24	I 図形と方程式 II 三角関数 III 指数関数 IV 対数関数 V 微分法と積分法	<ul style="list-style-type: none"> <li>点・直線・円</li> <li>曲線と直線</li> <li>軌跡と領域</li> <li>三角関数</li> <li>指数関数</li> <li>対数関数</li> <li>導関数と接線</li> <li>関数の値の変化</li> <li>関数の最大・最小</li> <li>微分法の応用</li> <li>不定積分・定積分</li> <li>面積</li> </ul>			○	○	○	a:図形と方程式、三角・指数・対数関数、微分・積分法に関心をもち、それらに関する性質を調べようとする。 b:図形と方程式、三角・指数・対数関数、微分・積分法について、さまざまな場面に適用して考察することができる。 c:事象を図形と方程式、三角・指数・対数関数、微分・積分法を用いた表現をし、処理する技能を身に付けている。 d:図形と方程式、三角・指数・対数関数、微分・積分法における基本的な用語や記号の意味を理解している。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
		12	I ベクトル II 数列	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルの基本</li> <li>平面ベクトルと図形</li> <li>空間ベクトルと図形</li> <li>等差数列・等比数列</li> <li>種々の数列</li> <li>漸化式と数列</li> <li>数学的帰納法</li> <li>数列の応用</li> </ul>			○	○	○	a:ベクトル、数列に関心をもち、それらに関する性質を調べる。 b:ベクトル、数列について、さまざまな場面に適用して考察することができる。 c:ベクトル、数列の内容を用いた表現をし、処理する技能を身に付けている。 d:ベクトル、数列における基本的な用語や記号の意味を理解している。	
	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B	12	総合演習	大学入学共通テストを想定した問題演習	○	○	○	○	○	大学入学共通テストに準ずる問題を扱い、実践的な学力を身に付けている。	
合計時数(55分授業)		96									

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	数学・応用数学	学年	第3学年	教科書	数研出版「メジアン数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B」
		単位数	3単位	副教材	

**学習目標**  
 数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの全単元の内容について理解を深め、基礎的な知識に基づき、応用・発展的な技能の習得・習熟をはかる。記述式問題に対応する能力を身に付け、的確に表現・処理できるようになる。記述力を洗練する。

**学習方法**  
 ○授業では、問題集の標準から発展的な問題を中心に演習および解説を行います。  
 ○授業では、問題を精選し進めていくので、授業で取り組む問題以外は宿題や自主学習等で扱います。  
 ○難関大学入試問題も扱うので、基本事項の確認・授業の復習などは自主的に行うようにしてください。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
	b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
	c	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
	d	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

※ 定期テストに関しては、上記四つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	数学Ⅰ	20	1 数と式 2 関数と方程式・不等式 3 式と聡明, 論理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式の値</li> <li>・恒等式、整式の割り算</li> <li>・関数のグラフ</li> <li>・2次関数と方程式・不等式</li> <li>・高次方程式と複素数</li> <li>・論理と証明</li> </ul>	○	○	○	○	a:数と式、関数、論理に関心を持ち、それらに関する性質を調べようとする。 b:数と式、関数、論理について、さまざまな場面に適用して考察することができる。 c:事象を数と式、関数、論理を用いた表現をし、処理する技能を身に付けている。 d:数と式、関数、論理における基本的な用語や記号の意味を理解している。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
	数学A 数学Ⅱ				28	4 整数 5 場合の数と確率 6 平面図形 7 図形と方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数</li> <li>・場合の数</li> <li>・確率</li> <li>・平面図形</li> <li>・図形と式</li> </ul>	○		
後期	数学Ⅰ	24	8 三角関数・指数・対数関数 9 微分法・積分法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角比・三角関数</li> <li>・指数関数</li> <li>・対数関数</li> <li>・極値、接線、関数の決定</li> <li>・微分法と最大・最小、不等式への応用</li> <li>・微分法の方程式への応用</li> <li>・積分の計算</li> <li>・定積分と面積</li> </ul>				○	○	○
	数学Ⅱ 数学B				24	10 数列 11 ベクトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等差数列・等比数列</li> <li>・いろいろな数列の和</li> <li>・漸化式</li> <li>・数学的帰納法</li> <li>・平面ベクトル</li> <li>・ベクトルの内積</li> <li>・空間ベクトル</li> <li>・空間座標</li> </ul>	○	○	○
合計時数(55分授業)		96								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	数学・実践数学Ⅰ・A	学年	第3学年	教科書	数研出版「ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・A 受験編」
		単位数	2単位	副教材	

**学習目標**  
 数学Ⅰの方程式と不等式、数学Aの論理と集合などについて相互に関連する内容の理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断できるようにする。

**学習方法**  
 ○授業では、問題集の基本から標準およびやや発展的な問題の演習および解説を行います。  
 ○授業では問題を精選し進めていくので、授業で取り組む問題以外は宿題や自主学习等で扱います。  
 ○センター大学入試問題を基本的に扱うので、基本事項の確認・授業の復習などは自主的に行うようにしてください。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
c	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
d	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	数学Ⅰ	7	数と式	整式の展開・因数分解	○	○	○	○	a:整式、実数、方程式と不等式、集合と命題に関心をもつとともに、その有用性を認識し、問題の解決に活用しようとする。 b:数の範囲を拡張することの意味を理解し、整式の見方を豊かにし、方程式や不等式について考察することができる。集合を用いて、命題の真偽を判断することができる。 c:無理数を計算したり、整式の基礎的な計算ができる。集合の考えを生かし、数学的な論理を活用することができる。 d:整式、実数、方程式と不等式、集合と命題について理解し、基本的な知識を身に付けている。	
				根号を含む式の計算						
				整数部分・小数部分						
				絶対値を含む1次方程式						
		10	2次関数	グラフの平行・対称移動	○	○	○	○	a:2次関数とそのグラフや値の変化に関心をもつとともに、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、2次関数を活用しようとする。 b:表、式、グラフを関連づけながらとらえることができ、具体的な事象について、とらえて変化する2変数に着目して変化の様子を見出すことができる。 c:関数を用いて数量の変化を表現し、関数の値の変化を調べることができる。 d:2次関数とそのグラフ及び関数の値の変化について理解し、基礎的な知識を身に付けている。	
				2次関数の最大最小						
				2次関数の決定						
				2次不等式						
		9	図形と計量	放物線と直線の関係	○	○	○	○	a:線分の長さや角の大きさなどを用いた計量に関心をもつとともに、具体的な事象の考察に活用しようとする。 b:三角比の考えを用いて、線分の長さや角の大きさなどを用いた図形の計量を行う過程を考察することができる。 c:具体的な事象の数量の関係を三角比などを用いて表現し、図形の様々な計量を行うことができる。 d:直角三角形における三角比の意味、三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、図形の計量の基本的な知識を身に付けている。	
				条件と命題						
				命題の証明						
				命題の証明						
		6	データの分析	散布図と相関係数	○	○	○	○	a:様々な事象から見出される確率や統計に関するデータの分析に関心をもち、問題解決の中で活用しようとする。 b:データを整理した表や図から傾向を把握することができる。 c:統計の基本的な考えを用いてデータを整理・分析してその傾向を的確にとらえ説明することができる。 d:分散、標準偏差、などの統計の用語を理解している。	
				条件付き確率						
				条件付き確率						
				条件付き確率						
後期	数学A	10	場合の数と確率	場合の数・順列	○	○	○	○	a:不確定な事象を数学的にとらえることの有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用しようとする。 b:順列、組合せなどの数の求め方を身に付け、具体的な事象の確率を考察することができる。 c:具体的な事象の起こりうる場合の数を順列や組合せの考えを用いて表現し、確率の基本性質を活用して、その確率を求めることができる。 d:場合の数を求め、確率を求める知識を身に付けている。	
				円順列・組合せ						
				同じものを含む順列						
				確率・反復試行の確率						
		8	平面図形	三角形の性質	○	○	○	○	a:三角形や円の性質に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、問題の解決に活用しようとする。 b:図形の性質を見出し、論理的に考察することができる。 c:図形の性質が論理的に正しいことを表現することができる。 d:図形の性質を系統的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	
				チェバ・メネラウスの定理						
				円の性質						
				空間図形と多面体						
		8	整数の性質	余りによる整数の分類	○	○	○	○	a:整数の性質に関心をもち、事象の考察に活用しようとする。 b:素因数分解、互除法などの方法を身に付け、様々な方法で整数の性質を考察することができる。 c:整数の性質を用いて約数の個数、最大公約数や最小公倍数を求めることができる。 d:公約数や公倍数の求め方の知識を身に付けている。	
				1次不定方程式						
				いろいろな方程式の整数解						
				n進法						
	数学Ⅰ・A	6	総合演習	共通テスト対策	○	○	○	○	共通テストを意識した問題演習を行い、実践的な学力定着を図る。	
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	理科・物理	学年	第3学年	教科書	数研出版「改訂版 総合物理1 力と運動・熱」 数研出版「改訂版 総合物理2 波・電気と磁気・原子」
		単位数	4単位	副教材	第一学習社「セミナー 物理」

**学習目標**  
物理的な事物・現象に対する探究心を深め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身に付けることを目標とします。

**学習方法**  
○ 授業における課題に対して自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行います。  
○ 復習を心がけ、各単元終了ごとに教科書やノートの内容が理解できているかどうか確認しましょう。  
○ 家庭学習において副教材等を活用し、演習問題を数多く解き、理解を深めましょう。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、主体的に探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
b	思考・判断・表現	物理的な事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
c	観察・実験の技能	物理的な事物・現象に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
d	知識・理解	物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、意識を身に付けている。

※ 定期テストに関しては、上記四つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前期	(1)力学・熱力学・波動	40	力と運動	平面内の運動 剛体にはたらく力	○	○	○	○	a: 平面の運動をベクトルの内容と関連させながら意欲的に理解しようとする。大きさのある剛体に力を加えると、並進運動だけではなく、回転運動を引き起こすこともある。どのような力を加えたら回転が起こるかに関心を示している。 b: 物体の運動を表すなどの物理量について、ベクトルを用いて考えることができる。 c: 速度、力のベクトルの演算や作図についての理解を深める。 d: 物体の平面内の運動について運動方程式を立てることができる。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み	
			熱と気体	気体のエネルギーと状態変化	○	○	○	○	a: 気体の圧力や体積、温度を変えると、これらの量の間にはどのような関係が成り立っているのだろうかということに関心を示している。 b: 気体の圧力、体積、絶対温度の間の関係について理解している。 c: 温度や分子量から水素分子などがどのくらいの平均速度で運動しているか推測できる。 d: 状態変化後の気体の圧力、体積、絶対温度を求めることができる。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み	
後期	(2)波動・電磁気学・原子物理学	18	波	波の伝わり方	○	○	○	○	a: 正弦波が伝わっているときの媒質の周期的な運動に興味をもっている。 b: 波を表す式中の物理量について理解しており、変位などを計算で求めることができる。 c: 波が干渉により強めあったり、弱めあったりすることを具体例を用いて説明することができる。 d: 回折現象はどのようなときに起きるか、また波長との関係を理解している。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み	
			音、光	○	○	○	○	○	○	○	○
		19	電気と磁気	電場	○	○	○	○	a: 電場と電位の関係を定量的に考えることができる。 b: 電気力線のモデル実験について、実験前に結果を予測し、表現することができ、電荷の大きさの比や正負を考慮することができる。 c: 磁場中で電流が受ける力を計算で求めることができる。電磁誘導のしくみを理解している。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み	
			電流	○	○	○	○	○			
18	原子	電子と光	○	○	○	○	a: 原子の構成要素について、意欲的に理解しようとする。 b: エネルギー準位を移る電子が、放出・吸収した光子とスペクトルとの関係を考えることができる。 c: 条件を変えて得られたさまざまな実験結果をもとに、光電効果の特徴を説明することができる。 d: 原子の構造や、電子の性質が解明されるまでの研究について定量的に理解している。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み			
		原子と原子核	○	○	○	○					
	(3)問題演習	9	各章の単元の復習	章末にある演習問題を解く	○	○	○	a: 物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、科学的態度を身に付けている。 b: 物理的な事物・現象に関の中に問題を見出し、導き出した考えを的確な表現方法を身に付けている。 c: 物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、意識を身に付けている。	・定期試験 ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み		
合計時数(55分授業)		128									

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	理科・生物	学年	第3学年	教科書	実教 生物 新訂版
		単位数	4単位	副教材	東京書籍「NEW GLOBAL 生物基礎＋生物」

学習目標	生物や生物現象に対する探求心を高め目標をもって実験をし、生物学の概念や法則の理解を深め、科学的な自然観を身に付けることを目標とします。	
学習方法	○ 授業における課題に対して自ら考える活動を行います。 ○ 授業においては実験実習を行い、レポートを作成し提出してもらいます。	
学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
	a 関心・意欲・態度	生物や生物現象について関心を持ち探求しようとするともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
	b 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
	c 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。
	d 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	生命現象と物質	10	細胞と分子	生体物質と細胞	○	○		○	a:生物を構成する物質や元素について知ろうとすることができる。 b:生体での元素と物質の関係、水の重要性を説明できる。 c:酵素・呼吸・光合成に関する実験を行い、実験データと理論値のずれから作業の改善点を考察することができる。 d:生体を構成する主要な元素、有機物、無機物について理解することができる。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み
				生命現象とタンパク質	○		○	○		
		12	代謝	代謝と呼吸・合成・窒素同化	○		○	○		
				遺伝情報の発現	DNAの構造と複製	○	○			
	22	遺伝情報の発現とバイオテクノロジー	遺伝情報の発現とバイオテクノロジー	○		○	○	a:遺伝子発現の調節のしくみについて、関心をもって学習する。 b:遺伝子の発現のしくみを理解し、遺伝情報の変化と形質の発現を関連づける。 c:ヒヤシンスの根端を使って体細胞の染色体を顕微鏡で観察する。 d:DNAが染色体にどのように収まっているのか、また、染色体の構成や、染色体と遺伝子の関係について理解する。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み	
			生殖と発生	有性生殖	○		○	○		
20	生殖と発生	動物・植物の発生	動物・植物の発生	○	○		○	a:動物の発生過程に関心をもち、意欲的に学習する。 b:卵割の特徴、発生過程を説明する。 c:実験材料や手順などは適切であり、いろいろな時期の分裂像を観察できている。 d:染色体に存在する遺伝子の分配について理解する。また、動物の配偶子が形成され、受精に至るまでの過程について理解する。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み	
			動物・植物の反応	動物の反応と行動	○		○	○		
後期	生物の環境応答	20	動物・植物の反応	動物の反応と行動	○		○	○	a:神経も基本単位は細胞であること、環境の変化に対する植物の反応について意欲的に学習する。 b:各受容体の構造と機能との関係を整理して述べるができる。 c:オーキシンの移動や各部位の感受性の違いなどを実験データをもとにまとめる。 d:ニューロンの構造、興奮の伝導と伝達のしくみ、さらに、神経伝達物質のはたらき、屈性と傾性の違いについて理解する。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み
				植物の環境応答	○	○		○		
	18	生物群集と生態系	生態と環境	生物群集と生態系	○		○	○	a:生物群集や生態的地位、生態的同位種について説明できる。 b:生態系における物質生産とエネルギー効率とは何かを考え、的確に説明できる。 c:データを正確にとり、適切に曲線を作成することができる。 d:個体群・個体群内の個体間の関係について、生物多様性の保全の重要性について理解する。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み
				生態系	○	○		○		
	12	生物の進化と系統	生命の起源と進化	生物の進化	○	○		○	a:原始地球や生命誕生の過程、進化がどのようなしくみで起こったかについて興味・関心をもつ。 b:さまざまな進化の要素について整理し、それらが進化にどのように結びつくかを説明できる。 c:観察を通じて、ニワトリの翼の骨の配置や筋肉の分布などを正しくとらえる。 d:初期の生物がどのような特徴をもち、どのように進化していったかを系統的に理解する。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み
				進化のしくみ	○		○	○		
14	生物の進化と系統	生物の系統	系統に基づく分類	○	○		○	a:多様な種が系統にもとづいて分類されることに興味・関心を示す。 b:進化の過程にもとづいて分類された系統分類が自然分類であることを説明できる。 c:形質あるいは分子データによる分類の方法を理解する。 d:種概念、系統分類の方法、各分類群の特徴を進化の過程と関連づけて理解する。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み	
			3つのドメインによる生物分類	○			○			
合計時数(55分授業)		128								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	理科・応用化学	学年	第3学年	教科書	
		単位数	3単位	副教材	実教出版「四訂版 サイエンスビューー化学総合資料」

**学習目標**  
 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に探究する能力を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養うことを目標とします。

**学習方法**  
 ○授業においては自分にとって必要なことを考えながら、情報の整理のためにノートを利用します。  
 ○演示実験や生徒実験を通して実験の基本操作を習得し、データの処理の仕方を身に付けましょう。  
 ○基本問題や大学入試問題を数多く解き、計算問題などの解答能力を身に付けましょう。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。
b	思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
c	観察・実験の技能	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
d	知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	物質の変化	12	化学反応の速さ	化学反応の速さとくみ	○	○		○	a: 化学反応の根本的なしくみに関心をもち、意欲的に探究しようとしている。 b: 反応速度や化学平衡の概念と化学変化の量的関係を理解している。 c: 観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d: 物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				反応条件と反応速度		○	○	○		
		24	化学平衡	可逆反応と平衡状態の変化	○	○		○		
				電解質水溶液の化学平衡		○		○		
前期	無機化学	12	非金属元素	水素・希ガス・ハロゲンとその化合物	○			○	a: 非金属元素とその化合物の性質に関心をもち、意欲的に探究しようとしている。 b: 非金属元素の化合物の生成や確認などの実験の原理を考察できる。 c: 観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d: 非金属元素やその化合物の性質に関する基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				酸素・硫黄とその化合物	○	○	○	○		
				窒素・リンとその化合物	○	○	○	○		
				炭素・ケイ素とその化合物	○			○		
後期	金属元素	12	金属元素	アルカリ金属とその化合物	○			○	a: 金属元素とその化合物の性質に関心をもち、意欲的に探究しようとしている。 b: 金属元素の化合物の生成や確認などの実験の原理を考察できる。 c: 観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d: 金属元素やその化合物の性質に関する基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				2族元素とその化合物	○			○		
				1, 2族元素以外の典型元素の化合物	○	○	○	○		
				遷移元素とその化合物	○	○	○	○		
	天然高分子化合物	12	天然高分子化合物	高分子化合物	○	○		○	a: 高分子化合物の構造や性質に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとしている。 b: 高分子化合物の合成や性質の確認などの実験の原理を考察できる。 c: 観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d: 高分子化合物の構造や性質に関する基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				天然高分子化合物	○			○		
		12	合成高分子化合物	合成繊維	○	○		○		
				合成樹脂と合成ゴム	○			○		
	生活と物質	12	生活と物質	食品の化学	○			○	a: 食品や衣料など身近な生活物質に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとしている。 b: 衣料や材料などの基となる化学物質の確認などの実験の原理を考察できる。 c: 観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d: 身近な生活物質の構造や性質に関する基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				衣料の化学	○			○		
材料の化学				○	○	○	○			
医薬品と化学				○	○	○	○			
合計時数(55分授業)		96								

# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	理科・生物研究	学年	第3学年	教科書	浜島書店「2020 大学共通テスト対策 つかむセンター生物基礎」
		単位数	2単位	副教材	

**学習目標**  
 生物的な事物・現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。また探求するための態度を養い、基本的な概念や法則の理解を深め、科学的な自然観を問題演習を通して身に付けることを、目標とします。

**学習方法**  
 ○ 授業における演習に対して自ら考える活動を行います。  
 ○ 授業においては実験実習を行い、レポートを作成し提出してもらいます。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	・生物や生物現象に関心や探究心をもち、科学的な態度を身に付けている。
b	思考・判断・表現	・生物や生物現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象にもとづいて科学的に判断し、表現することができる。
c	観察・実験の技能	・生物や生物現象に関する観察、実験の技能を身に付けている。
d	知識・理解	・生物や生物現象についての基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	生物と遺伝子	32	生物の特徴	生物の多様性と共通性	○	○	○	○	a:生物の共通祖先や代謝・呼吸・光合成について関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。 b:現生生物の特徴から、生物の共通祖先のモデルを理論的に推定することができる。 c:顕微鏡の扱い方、観察材料に応じたプレパラートの作成法を習得している。 d:すべての生物は共通した特徴をもつことや、代謝・呼吸・光合成について理解している。	・単元テスト ・レポート ・授業への取り組み
			細胞とエネルギー		○	○	○			
			遺伝子とその働き	遺伝情報とDNA	○	○	○		a:遺伝子研究の歴史やDNAに興味を示し、意欲的に学習に取り組んでいる。 b:遺伝子研究の歴史から、実験結果からどのような事実がわかったのかを理解している。 c:押しつぶし法によってプレパラートを作成できるようになる。 d:DNAの二重らせん構造の特徴や複製、タンパク質合成について理解している。	
			遺伝情報の発現	○	○	○				
			遺伝情報の分配	○	○	○				
後期	生物の体内環境の維持	15	生物の体内環境	体液という体内環境	○	○	○	○	a:体液と恒常性との関係や生体防御に関心をもち、理解しようとしている。 b:恒常性の維持について科学的に考察することができる。 c:実験の結果を的確に記録し、わかりやすくまとめることができる。 d:体液の種類と関係について、生体防御や体内環境の維持について理解している。	・単元テスト ・授業への取り組み
			神経とホルモンによる調節	○	○	○				
			免疫	○	○	○				
後期	生物の多様性と生態系	17	植生の多様性と分布	さまざまな植生	○	○	○	○	a:陸上の生物集団の成り立ちに関心をもち、バイオームについて理解しようとしている。 b:陸上のバイオームは、そこに生育する植物に依存して成り立つことを科学的に理解している。 d:バイオームの概念を理解している。	・単元テスト ・授業への取り組み
			植生の遷移	○	○	○				
			気候とバイオーム	○	○	○				
			生態系とその保全	生態系	○	○	○		a:生態系の成り立ちやその保全について関心をもち、意欲的に理解しようとしている。 b:食物網において、上位にある生物がいなくなった場合にどのような影響が生じるかなど、生態系のバランスについて科学的に理解している。 c:情報機器などを利用して、信頼のできる情報を得ることができる。 d:生態系の構造やその保全についてを理解している。	
			物質循環とエネルギーの流れとバランス	○	○	○				
			人間活動と生態系の保全	○	○	○				
合計時数(55分授業)		64								



令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	保健体育・体育	学年	第3学年	教科書	
		単位数	2単位	副教材	大修館書店「ステップアップ高校スポーツ2019」

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら希望する種目を選択し、楽しみながら学ぶ喜びを知ることができるようにする。</li> <li>・基礎体力を向上できるようにする。</li> <li>・基本的技能を修得できるようにする。</li> <li>・試合の進め方、方法、ルールを理解できるようにする。</li> </ul>
------	--

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業における課題に対して自ら考えられるような活動を行う。</li> <li>○学習ノート、補助プリント等を利用する。</li> <li>○互いに協力し、自己の責任を果たせるようグループでの活動を行う。</li> </ul>
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。
b	思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	
c	運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	
d	知識・理解	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	体づくり運動(全員)	6	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・基礎練習</li> <li>・応用練習</li> <li>・トレーニング</li> </ul>	○	○		○	a: 仲間と協力し、積極的に運動に参加している。 b: 自分の体力を把握し、適切な目標を設定できる。 d: 体づくりの意義を理解している。	・授業への取り組み
	球技・他(全種目男女)	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バドミントン</li> <li>・バレーボール</li> <li>・軽スポーツ</li> <li>・テニス</li> <li>・柔道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・基礎練習</li> <li>・応用練習</li> <li>・ゲーム(試合)</li> </ul>	○	○	○	○	球技 a: ルールを守り、公正な態度で練習や試合を行っている。 b: ゲームに必要なルールや審判法を知っている。 c: 基本的な技術を向上させることができる。 d: 基本的な技術を実践で生かせる。 武道 a: 積極的に技を覚えている。 b: 自己の能力に応じて練習を工夫できる。 d: 武道に対する伝統的な考え方を理解している。	・授業への取り組み ・記録 ・試験 ・発表
	球技・他(全種目男女)	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バドミントン</li> <li>・バスケットボール</li> <li>・ソフトボール</li> <li>・テニス</li> <li>・水泳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・基礎練習</li> <li>・応用練習</li> <li>・ゲーム(試合)</li> </ul>	○	○	○	○	水泳 a: 記録の向上の喜びや競泳の楽しさなどを味わっている。 b: 自己の目標を達成するための練習を計画している。	
球技・他(全種目男女)	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バドミントン</li> <li>・バレーボール</li> <li>・軽スポーツ</li> <li>・テニス</li> <li>・器械運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・基礎練習</li> <li>・応用練習</li> <li>・ゲーム(試合)</li> </ul>	○	○	○	○	器械運動 b: 自己に合った技を選択している。 c: 技の習得し、演技の構成をすることができる。 ダンス a: 曲に合わせて、楽しく取り組んでいる。 b: 自己の能力に応じた課題を選び、自ら考え工夫することができる。		
後期	球技・他(全種目男女)	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バドミントン</li> <li>・バスケットボール</li> <li>・サッカー</li> <li>・テニス</li> <li>・ダンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・基礎練習</li> <li>・応用練習</li> <li>・ゲーム(試合)</li> </ul>	○	○	○	○		
	陸上競技(全員)	6	持久走	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・ジョギング</li> <li>・測定</li> </ul>	○	○	○	○	a: 持久走の必要性を理解し、積極的に取り組んでいる。 b: 体に負担の少ない走り方を考えている。 c: 自己のベスト記録を更新することができる。 d: 自己の能力を判断し、適切な目標タイムを設定できる。	・授業への取り組み ・記録
	体育理論	6	体育理論	豊かなスポーツライフの設計	○	○		○	a: 豊かなスポーツライフの設計について理解し、諸問題について学ぼうとしている。 b: 豊かなスポーツライフの設計の問題点を考えている。 d: 豊かなスポーツライフの設計の問題について理解している。	・授業への取り組み ・レポート
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	3
教科書	啓林館「Revised ELEMENT English Communication Ⅲ」		副教材	文英堂「SWICH 4 New Edition」 文英堂『Listening Sparkle Advanced 』 いいずな書店「共通テスト対策 Reading40」 いいずな書店「共通テスト対策 Listening30」 東京書籍「コーパス 4500 3rdEdition フェイバリット英単語・熟語（テーマ別）」	

CAN-DO リストに基づく学習到達目標とその評価規準・評価方法	
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	(評価方法) コミュニケーション活動への取組の観察
外国語表現 の能力	話すこと ----- やり取り ----- ・内容や文脈を意識して、適切な表現を用いながら話すことができる。 ・言葉をことさら探さずに、流暢で自然な会話ができる。 ・様々な内容について話すことができる。 (1分間)
	発表 ----- ・様々な内容について、自分の意見を述べながら英語で話すことができる。 ・聞き手を意識して理解しやすい表現を適切に用いることができる。
	(評価方法) 小テスト
	書くこと ----- ・読み手や状況を意識して、適切で幅広い表現を用いることができる。 ・様々なテーマについて、自分の意見をまとめた英文で書くことができる。 (評価方法) 定期テスト、課題
外国語理解 の能力	聞くこと ----- ・時事問題や社会的なテーマに関する話題について、聞き取ることができる(長いスピーチや英語での講義、複数の人が参加する会話など)。 (評価方法) 定期テスト、小テスト
	読むこと ----- ・さまざまなジャンルのまとめた英文を読んで、概要や要点、話の展開を読み取ることができる。 (評価方法) 定期テスト、小テスト、課題
	(評価方法) 定期テスト、小テスト、課題
言語や文化についての 知識・理解	(評価方法) 定期テスト、小テスト、課題

科目	コミュニケーション英語III	学期	前	時数 (55分授業)	48	単元	Lesson 1 ~ Lesson 5	
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)						評価方法	
							定期テスト	パフォーマンス テスト
							小テスト	課題
Lesson 1	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークやグループワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)	外国語理解の能力	L：統計学に関する説明文を聞き、その概要や要点を理解することができる。				○	
		外国語表現の能力	R：統計学に関する説明文を読み、その概要や要点を理解することができる。				○	
			S：誤解を生むようなグラフや統計データが使われる理由について、グループで意見を伝えあうことができる。					○
			W：					
			言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用について知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解することができる。				○	
Lesson 2	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークやグループワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)	外国語理解の能力	L：言語の消滅に関する説明文を聞き、その概要と要点を理解することができる。				○	
		外国語表現の能力	R：言語の消滅に関する説明文を読み、その概要や要点を理解することができる。				○	
			S：日本語の存続について、グループ内で意見を伝え合うことができる。					○
			W：					
			言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用について知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解することができる。				○	
Lesson 3	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークやグループワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)	外国語理解の能力	L：自然保護とオランウータンに関する説明文を聞き、その概要と要点を理解することができる。				○	
		外国語表現の能力	R：自然保護とオランウータンに関する説明文を読み、その概要や要点を読み取ることができる。				○	
			S：「すべての大学生が、1年間の留学を義務づけられるべきである」という題でディスカッションを行い、自分の意見を述べることができる。					○
			W：積極的な自然保護の是非について、自分の意見を書くことができる。					○
			言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用について知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解することができる。				○	

科目	コミュニケーション英語Ⅲ	学 期	前	48	単元	Lesson 1 ～ Lesson 5		
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)						評価方法	
	定期テスト	パフォーマンステスト						課題
Lesson 4	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークやグループワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)							
	外国語理解の能力	L: 「気骨」の秘密に関する説明文を聞き、その概要と要点を理解することができる。					○	
	外国語表現の能力	R: 「気骨」の秘密に関する説明文を読み、その概要と要点を理解することができる。 S: 「困難に立ち向かう方法」について、グループで意見を伝え合うことができる。 W:						○
	言語や文化に関する知識・理解	英語やその運用について知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解することができる。					○	
Lesson 5	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークやグループワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)							
	外国語理解の能力	L: 「スタンフォード大学の授業」に関する英文を聞き、その概要と要点を理解することができる。					○	
	外国語表現の能力	R: 「スタンフォード大学の授業」に関する英文を読み、その概要と要点を理解することができる。 S: 5 ドルの手持ち金と2時間の時間でお金を稼ぐ方法を、グループで考え、意見を伝え合うことができる。 W:						○
	言語や文化に関する知識・理解	英語やその運用について知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解することができる。					○	
Deepen Your Thoughts 2 + Pros and Cons 2	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークやグループワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)							
	外国語理解の能力	L:						
	外国語表現の能力	R: S: 「高所得者には高い税金がかけられるべきである」という題でディベートを行い、自分の意見を述べることで W: 「すべての教員が授業でコンピュータなどの科学技術を使うべきである」という題に対して、自分の意見を 書くことができる。					○	
	備考	授業中に随時リスニングテストを行います。また、パフォーマンステストも行います。それぞれのテストの内容や評価基準の詳細は、授業の中でお知らせします。						

科目	コミュニケーション英語Ⅲ	学期	後	時数 (55分授業)	48	単元	Lesson 6 ～ Lesson 10	
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)						評価方法	
	定期テスト	パフォーマンス テスト	課題					
Lesson 6	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークやグループワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)							
	外国語理解の能力			L: △ペンパ効果に関する説明文を聞き、その概要や要点を理解することができる。 R: △ペンパ効果に関する説明文を読み、その概要や要点を理解することができる。			○	
	外国語表現の能力			S: W: 困難を乗り越えた経験について、書くことができる。			○	
	言語や文化に関する知識・理解			英語やその運用について知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解することができる。			○	
Lesson 7	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークやグループワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)							
	外国語理解の能力			L: 人間の知覚をめぐる幻想についての説明文を聞き、その概要や要点を理解することができる。 R: 人間の知覚をめぐる幻想についての説明文を聞き、その概要や要点を理解することができる。			○	
	外国語表現の能力			S: W: 本文から学んだことについて書くことができる。			○	
	言語や文化に関する知識・理解			英語やその運用について知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解することができる。			○	
Lesson 8	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークやグループワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)							
	外国語理解の能力			L: R: 「壁に落書きをした少年」に関する物語文を読み、その概要や要点、主人公の心情の移り変わりを理解することができる。			○	
	外国語表現の能力			S: W: 「壁への落書きは犯罪か」という題で、市長(想像上)にメールを書くことができる。			○	
	言語や文化に関する知識・理解			英語やその運用について知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解することができる。			○	

科目	コミュニケーション英語Ⅲ	学期	後	時数 (55分授業)	48	単元	Lesson 6 ~ Lesson 10		
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)							評価方法	
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワークやグループワークにおいて積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)							定期テスト	パフォーマンス 課題
Deepen Your Thoughts! 4	外国語理解 の能力	L:							
		R:							
	外国語表現 の能力	S:	「留学先のホストファミリーに別れの挨拶をする」という場面設定でプレゼンテーションをすることができる。					○	
		W:							
	言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用について知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解することができる。								
Lesson 9	外国語理解 の能力	L:							
		R:	「祈りの手」の秘話についての物語文を読み、その概要と要点、主人公の心情を理解することができる。					○	
	外国語表現 の能力	S:	読んだ内容に関する自分の意見をディベート形式で伝えることができる。						○
		W:							
	言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用について知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解することができる。							○	
Lesson 10	外国語理解 の能力	L:							
		R:	「人生を支えた学校時代の思い出」に関する物語文を読み、その概要と要点、主人公の心情を理解することができる。					○	
	外国語表現 の能力	S:							
		W:	お世話になった先生に感謝の手紙を書くことができる。						○
	言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用について知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解することができる。							○	
備考	授業中に随時リスニングテストおよび単語テストを行います。また、パフォーマンステストとしてスピーキングテストを1回、ライティングテスト(課題)を4回行います。それぞれのテストの内容や評価基準の詳細は、授業の中でお知らせします。								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科	外国語	科目	英語表現Ⅱ	単位数	2
教科書	数研出版「Revised POLESTAR English ExpressionⅡ」		副教材	数研出版「CLOVER 英文法・語法ランダム演習」 Z会「OVER ALL 英語総合問題集」	

CAN-DO リストに基づく学習到達目標とその評価規準・評価方法					
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	(評価方法) コミュニケーション活動への取り組みの観察				
外国語表現 の能力	<p style="text-align: center;">話すこと</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; border-right: 1px dashed black;">やり取り</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">発表</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容や文脈を意識して、適切な表現を用いて話すことができる。</li> <li>・ ことばをことさら探さずに、流暢で自然な会話ができる。</li> <li>・ 様々な内容について話すことができる。</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な内容について意見を述べながら話すことができる。</li> <li>・ 聞き手が理解しやすい表現を適切に用いることができる。</li> </ul> </td> </tr> </table>	やり取り	発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容や文脈を意識して、適切な表現を用いて話すことができる。</li> <li>・ ことばをことさら探さずに、流暢で自然な会話ができる。</li> <li>・ 様々な内容について話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な内容について意見を述べながら話すことができる。</li> <li>・ 聞き手が理解しやすい表現を適切に用いることができる。</li> </ul>
	やり取り	発表			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容や文脈を意識して、適切な表現を用いて話すことができる。</li> <li>・ ことばをことさら探さずに、流暢で自然な会話ができる。</li> <li>・ 様々な内容について話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な内容について意見を述べながら話すことができる。</li> <li>・ 聞き手が理解しやすい表現を適切に用いることができる。</li> </ul>			
	(評価方法)スピーキング活動への取り組みの観察				
書くこと					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み手(友人や上司など)や状況(手紙やメールなど)を意識して適切で幅広い表現を用いることができる。</li> <li>・ さまざまなテーマについて、自分の意見をまとめた英文で論理的に書くことができる。</li> </ul>					
(評価方法)ライティング課題					
外国語理解 の能力	聞くこと				
	(評価方法)				
	読むこと				
	(評価方法)				
言語や文化についての 知識・理解	(評価方法) 定期テスト・小テスト				

科目	英語表現Ⅱ	学期	前	時数 (55分授業)	32	単元	Part 3 Lesson 1～Lesson 7、Part 4 Lesson 1～Lesson 2
単元名	単元の評価規準（学習到達目標）						
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。（評価方法：活動の観察）						
Part 3 Lesson 1	外国語理解 の能力	L:					
		R:					
	外国語表現 の能力	S: first, second, ...などの表現を用いて、物事を順序立てて説明し、話すことができる。					○
		W:					
	言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。						
Lesson 2	外国語理解 の能力	L:					
		R:					
	外国語表現 の能力	S: 「説明／定義」「分類」の支持文の展開パターンを用いて、物事を説明した英文を書くことができる。					○
		W: 「説明／定義」「分類」の支持文の展開パターンを用いて、物事を説明した英文を書くことができる。					○
	言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。						
Lesson 3	外国語理解 の能力	L:					
		R:					
	外国語表現 の能力	S: 「列挙」に使われるシグナル・ワードを適切に用いて英文を書くことができる。					○
		W: 「列挙」に使われるシグナル・ワードを適切に用いて英文を書くことができる。					○
	言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。						
Lesson 4	外国語理解 の能力	L:					
		R:					
	外国語表現 の能力	S: 「列挙」に使われるシグナル・ワードを適切に用いて英文を書くことができる。					○
		W: 「列挙」に使われるシグナル・ワードを適切に用いて英文を書くことができる。					○
	言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。						
単元名	単元の評価方法						
	定期テスト	小テスト	パフォーマンス	テスト	課題		



	の能力	W: like, alike, similar, the same など, 「共通点」を表す際に使われるシグナル・ワードや different, unlike, but, on the other hand など, 「相違点」を表す際に使われるシグナル・ワードを適切に用いて書くことができる。		○
	言語や文化に関する知識	理解: 英語やその運用についての知識を身に付けているとともに, 言語の背景にある文化などを理解している。	○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)		
Lesson 5	外国語理解の能力	L: R: S:		
	外国語表現の能力	W: result in ~, lead to ~, that's why ~ など, 「結果」に使われるシグナル・ワードを用いてまとめた英文を書くことができる。		○
	言語や文化に関する知識	理解: 英語やその運用についての知識を身に付けているとともに, 言語の背景にある文化などを理解している。	○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)		
Lesson 6	外国語理解の能力	L: R: S:		
	外国語表現の能力	W: first, then, last, finally など, 時間の順序を表すシグナル・ワードを効果的に用いてパラグラフを書くことができる。		○
	言語や文化に関する知識	理解: 英語やその運用についての知識を身に付けているとともに, 言語の背景にある文化などを理解している。	○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)		
Lesson 7	外国語理解の能力	L: R: S:		
	外国語表現の能力	W: 「説明/定義・分類」, 「例示・列挙」, 「比較・対照」, 「原因・結果」, 「時間の順序」のシグナル・ワードをそれぞれ使い分けてパラグラフを書くことができる。		○
	言語や文化に関する知識	理解: 英語やその運用についての知識を身に付けているとともに, 言語の背景にある文化などを理解している。	○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)		
Part 4	外国語理解の能力	L:		

の能力	R:			
外国語表現の能力	S: 自分の経験について、過去形や現在完了形を適宜使い分けて話すことができる。 W:			○
言語や文化に関する知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	○		○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度: ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)				
外国語理解の能力	L:			
外国語表現の能力	R: S: 日本語の表現を, or (すなわち, つまり) などの表現を用い, 英語で言い換えて口頭で説明できる。 W: お正月などの日本特有のイベントについて, いっ始まっていつ終わるかなどをきちんと説明した文章を書くことができる。		○	○
言語や文化に関する知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	○		○
備考	パフォーマンステストとしてスピーキングまたはライティングテストを1回行います。テストの内容や評価基準の詳細は、授業の中でお知らせします。			

科目	英語表現Ⅱ	学期	後	時数 (55分授業)	32	単元	Part 4 Lesson 3~ Lesson 7 Part 5 Lesson 1~ Lesson 4		
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)						評価方法		
							定期テスト 小テスト	パフォーマンス テスト 課題	
Part 4 Lesson 3	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	外国語理解の能力	L:							
	外国語表現の能力	R:							
		S: 仮定法過去の表現を効果的に用いて説明しながら話すことができる。							○
		W:							
	言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。							○	○
Lesson 4	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	外国語理解の能力	L:							
	外国語表現の能力	R:							
		S: 長所や短所を挙げた上で、自分の意見や主張を相手に伝えながら話すことができる。							○
		W: 自分の立場を明確に示した上で、どうすべきなのかを英語で主張した文章を書くことができる。							○
	言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。							○	○
Lesson 5	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	外国語理解の能力	L:							
	外国語表現の能力	R:							
		S: moreover などのシグナル・ワードを用いて、いくつかの理由・事柄を列挙して口頭で論じることができる。							○
		W: 理由を述べた後で、therefore などのシグナル・ワードを用いて、自分なりの結論を述べた文章を書くことができる。							○
	言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。							○	○
Lesson 6	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	言語や文化に関する知識・理解：英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。							○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								



コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)				
Lesson 3	外国語理解の能力	L: R:		
	外国語表現の能力	S: ディスカッションにおいて、あいさつ・テーマの明示の後、互いの意見を尊重しながら個々の意見を述べ、最後に参加者の発言内容をまとめることができる。 W:		○
	言語や文化に関する知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)				
Lesson 4	外国語理解の能力	L: R:		
	外国語表現の能力	S: デイベートにおいて、開会の言葉から始まり、肯定側と否定側がそれぞれの立場に即して主張を述べ合い、最後に司会者が審査員に判定結果を発表してもらい、閉会するまでができる。 W:		○
	言語や文化に関する知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	○	○
備考	パフォーマンステストとしてスピーキングまたはライティングテストを1回行います。テストの内容や評価基準の詳細は、授業の中でお知らせします。			

科目	Reading Skills	学期	前	時数 (55分授業)	32	単元	Cutting Edge 2020 -Blue-		
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)						評価方法		
							定期テスト 小テスト	授業内活動 課題	
Chapter 1	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容を理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。							○
	外国語表現の能力	R：ゴニア虫に関する説明文を読み、その概要や要点、語の展開を理解することができる。						○	
		S：世界の疾病を知り、そのことについて意見交換を行う。							○
		W：読んだ内容の要約と自分の意見をまとめた英文で書くことができる。							○
Chapter 2	言語や文化に関する知識・理解：言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。								
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容を理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。							○
	外国語表現の能力	R：家族の在り方に関する物語を読み、その概要や要点、語の展開、登場人物の心情を理解することができる。						○	
		S：自分の家族、世界の家族について話題にして意見交換する。							○
Chapter 3	言語や文化に関する知識・理解：言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。								
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容を理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。							○
	外国語表現の能力	R：大学研究の新聞記事を読み、その概要や要点、語の展開や主人公の心情を理解することができる。						○	
		S：人体や動物の研究について話題にして意見交換する。							○
Chapter 4	言語や文化に関する知識・理解：言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。								
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容を理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。							○
	外国語表現の能力	R：液体燃料の説明文を読み、その概要や要点、語の展開を理解することができる。						○	
		S：燃料資源について考え、意見交換する。							○

	の能力	W：読んだ内容の要約と自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)			
Chapter 5	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容を理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。		○	○
	外国語表現の能力	R：社会の上下関係に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○		○
		S：人間関係について考え、意見交換する。		○	○
		W：読んだ内容の要約と自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)			
Chapter 6	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容を理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。		○	○
	外国語表現の能力	R：コーラに関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○		○
		S：小売業、消費者心理について考え、意見交換する。		○	○
		W：読んだ内容の要約と自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)			
Chapter 7	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容を理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。		○	○
	外国語表現の能力	R：国際語としての英語に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○		○
		S：言語について考え、意見交換する。		○	○
		W：読んだ内容の要約と自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)			
Chapter 8	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容を理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。		○	○
	外国語表現の能力	R：睡眠に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○		○
		S：睡眠について考え、意見交換する。		○	○
		W：読んだ内容の要約と自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○	○

Chapter 9	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)			
	外国語理解の能力	L：英文を読み、本文の内容理解を深める。関連する内容の会話を聞き理解することができる。		○
	外国語表現の能力	R：口論と真実に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。 S：コミュニケーションについて考え、意見交換する。 W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○	○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)			
Chapter 10	外国語理解の能力	L：英文を読み、本文の内容理解を深める。関連する内容の会話を聞き理解することができる。 R：オーガニックに関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○	○
	外国語表現の能力	S：オーガニック製品について考え、意見交換する。 W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○	○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)			
	外国語理解の能力	L：英文を読み、本文の内容理解を深める。関連する内容の会話を聞き理解することができる。 R：自動運転技術に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○	○
Chapter 11	外国語表現の能力	S：自動運転技術について考え、意見交換する。 W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。		○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)			
	外国語理解の能力	L：英文を読み、本文の内容理解を深める。関連する内容の会話を聞き理解することができる。 R：AIと仕事に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○	○
	外国語表現の能力	S：AIと仕事について考え、意見交換する。 W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。		○
Chapter 12	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)			
	外国語理解の能力	L：英文を読み、本文の内容理解を深める。関連する内容の会話を聞き理解することができる。 R：AIと仕事に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○	○
	外国語表現の能力	S：AIと仕事について考え、意見交換する。 W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。		○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
Chapter 13	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)			
	外国語理解の能力	L：英文を読み、本文の内容理解を深める。関連する内容の会話を聞き理解することができる。		○



Chapter 14	の能力	R: 動物行動学に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○	
	外国語表現の能力	S: 動物行動学について考え、意見交換する。 W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。		○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度: ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)				
Chapter 14	外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を会話で聞き理解することができる。		○
	外国語表現の能力	R: 災害と温暖化に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。 S: 災害と環境問題について考え、意見交換する。 W: 読んだ内容の要約と自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○	○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度: ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)				
Chapter 15	外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を会話で聞き理解することができる。		○
	外国語表現の能力	R: ビッグデータに関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。 S: ビッグデータについて考え、意見交換する。 W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○	○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度: ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)				
Chapter 16	外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を会話で聞き理解することができる。		○
	外国語表現の能力	R: 事実の伝わり方を説明した英文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。 S: 本文に関わる出来事を考え、その意見交換する。 W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○	○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度: ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)				
Chapter 17	外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を会話で聞き理解することができる。		○
	外国語表現の能力	R: 宇宙に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。 S: 宇宙のあるトピックについて考え、その意見交換する。	○	○

の能力	W: 読んだ内容の要約と自分の意見をまとめた英文で書くことができる。				○
言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○		○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度: ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)					
外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容の会話を聞き理解することができる。			○	
外国語表現の能力	R: 確証バイアスを説明した英文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。 S: 確証バイアスについて考え、意見交換する。 W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。		○		○
言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○		○
備考	本文の学習後、スピーキング活動を行います。				

科目	Reading Skills	学期	後	時数 (55分授業)	32	単元	SKYWARD SKY course		
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)						評価方法		
							定期テスト	パフォーマンス テスト	課題
Unit 1	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。 R：原字力発音に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。						○	
	外国語表現の能力	S： W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。						○	
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。						○	○
Unit 2	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。 R：俗語に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。						○	
	外国語表現の能力	S： W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。						○	
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。						○	○
Unit 3	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。 R：教育に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。						○	
	外国語表現の能力	S： W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。						○	
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。						○	○
Unit 4	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)								
	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。 R：国民性に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。						○	
	外国語表現の能力	S：						○	
	外国語表現の能力	S：						○	

	の能力	W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○	○
Unit 5	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)			
	外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。 R: 衣服が与える影響に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○	○	○
	外国語表現の能力	S: W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○		○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)			
Unit 6	外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。 R: 環境問題に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○	○	○
	外国語表現の能力	S: W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○		○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)			
	外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。 R: 結婚観に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○	○	○
Unit 7	外国語表現の能力	S: W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○		○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)			
	外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。 R: 結婚観に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○	○	○
	外国語表現の能力	S: W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
Unit 8	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○		○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)			
	外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。 R: 蜂の研究に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○	○	○
	外国語表現の能力	S: W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
	言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○		○

コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)			
Unit 9	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を会話で聞き理解することができる。 R：視覚に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○
	外国語表現の能力	S： W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○
	言語や文化に関する知識・理解：言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)		
Unit 10	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を会話で聞き理解することができる。 R：伝記を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○
	外国語表現の能力	S： W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○
	言語や文化に関する知識・理解：言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)		
Unit 11	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を会話で聞き理解することができる。 R：DNA鑑定に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○
	外国語表現の能力	S： W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○
	言語や文化に関する知識・理解：言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)		
Unit 12	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を会話で聞き理解することができる。 R：インターネットに関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○
	外国語表現の能力	S： W：読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○
	言語や文化に関する知識・理解：言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)		
Unit 13	外国語理解の能力	L：英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を会話で聞き理解することができる。	○
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法：活動の観察)		

の能力	R: 近接学に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。	○	
外国語表現の能力	S: W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。		○
言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)		
Unit 14			
外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容の会話を聞き理解することができる。	○	
外国語表現の能力	R: いじめに関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。 S: W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○	○
言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)		
Unit 15			
外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容の会話を聞き理解することができる。	○	
外国語表現の能力	R: 余暇に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。 S: W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○	○
言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)		
Unit 16			
外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容の会話を聞き理解することができる。	○○	
外国語表現の能力	R: 光害に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。 S: W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。	○	○
言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)		
Unit 17			
外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容の会話を聞き理解することができる。	○	
外国語表現の能力	R: 電子書籍に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。 S:	○	

の能力	W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度: ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)				
外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。		○	
外国語表現の能力	R: 食品添加物に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。		○	
外国語表現の能力	S:			
外国語表現の能力	W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度: ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)				
外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。		○	
外国語表現の能力	R: 食糧問題に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。		○	
外国語表現の能力	S:			
外国語表現の能力	W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○	○
コミュニケーションへの関心・意欲・態度: ペアワーク・グループワークにおいてコミュニケーションを図ろうとしている。(評価方法: 活動の観察)				
外国語理解の能力	L: 英文を聞き、本文の内容理解を深める。関連する内容を聞き理解することができる。		○	
外国語表現の能力	R: 移民に関する説明文を読み、その概要や要点、話の展開を理解することができる。		○	
外国語表現の能力	S:			
外国語表現の能力	W: 読んだ内容の要約とそれについての自分の意見をまとめた英文で書くことができる。			○
言語や文化に関する知識・理解	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。		○	○
備考	表現活動としてライティング課題を単元ごとに課します。内容や評価基準の詳細は、授業の中でお知らせします。			

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	情報・社会と情報	学年	第3学年	教科書	実教出版「高校社会と情報 新訂版」
		単位数	2単位	副教材	実教出版「30時間でマスター Word&Excel 2013」

学習目標 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を学習し、情報機器や情報通信ネットワークなどを活用する知識や技能を習得することが目標である。また、情報を収集、処理、表現するとともに効果的に発信する能力を身に付けることが目標である。

- 学習方法
- 授業における課題に対して自ら考え、また、周りの生徒と協力しながら制作する活動も行います。
  - 授業の課題は、サーバーやクラウド上に提出をします。
  - レポートによる課題を定期的に提出してもらいます。計画的に取り組みましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。
b	思考・判断・表現	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するため情に、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	
c	技能	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	
d	知識・理解	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。	

※ 定期テストに関しては、上記四つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	情報コミュニケーションと安全対策	10	1章 情報社会	1 情報と情報社会	○	○	○	○	a: 情報社会の諸問題についてWebを利用して調べようとしている。 b: Webページの信頼性チェックリストの記入内容は適切に表現している。 c: 適切な個人情報の保護の方法について発表できる。 d: 情報化の光と影の部分について理解できる。	・レポート ・確認テスト ・授業への取り組み
				2 社会の変化と個人の責任	○	○	○	○		
				3 情報社会の問題	○	○	○	○		
4 個人情報とその保護	○			○	○	○				
5 メディアとその特徴	○			○	○	○				
6 メディアリテラシー	○			○	○	○				
2章 コミュニケーション	11	1 コミュニケーション	○	○	○	○	a: 進んでコンピュータやネットワークについて調べようとしている。 b: CCとBCCを適切に使い分けができる。 c: フォルダの作成、ファイルの移動ができる。 d: 代表的な拡張子が理解できる。	・レポート ・確認テスト ・授業への取り組み		
2 電子メールの利用		○	○	○	○					
3 ネットワーク		○	○	○	○					
4 共通の取り決め		○	○	○	○					
5 インターネットの仕組み		○	○	○	○					
6 Webページの閲覧とメールの仕組み		○	○	○	○					
7 インターネットを利用したサービス		○	○	○	○					
8 情報の共有化と合意形成		○	○	○	○					
3章 情報安全	11	1 個人による安全対策	○	○	○	○	a: 情報セキュリティに対して、関心を持っている。 b: 著作権などの侵害事例について、どの権利を侵害しているかを適切に判断できる。 c: 適切なパスワードを設定できる。 d: パスワードの重要性などを理解できる。	・レポート ・確認テスト ・授業への取り組み		
2 組織による安全対策		○	○	○	○					
3 安全のための情報技術		○	○	○	○					
4 暗号化		○	○	○	○					
5 法規による安全対策		○	○	○	○					
6 知的財産権の概要と産業財産権		○	○	○	○					
7 著作権		○	○	○	○					
8 著作物の利用		○	○	○	○					
後期	情報のデジタル化と問題解決・情報発信	16	4章 デジタル化	1 デジタル情報の特徴	○	○	○	○	a: 文字コードを2進数や16進数表示できるソフトウェアを使い、意欲的に実習しようとしている。 b: 画像処理ソフトでフィルタなどの効果を使い、創作的な作品を表現できる。 c: 2進数、10進数、16進数の相互変換の計算において、電卓ソフトを操作できる。 d: アナログとデジタルの概念、情報量と単位変換の計算を理解できる。	・レポート ・確認テスト ・授業への取り組み
				2 静止画像の扱い	○	○	○	○		
3 数値や文字の表し方	○			○	○	○				
4 音のデジタル化	○			○	○	○				
5 色のデジタル表現	○			○	○	○				
6 画像のデジタル化	○			○	○	○				
7 圧縮の種類	○			○	○	○				
8 圧縮の仕組み	○			○	○	○				
9 さまざまな計算	○			○	○	○				
10 Webページによる情報発信	○			○	○	○				
16	5章 問題解決	1 問題を解決するには	○	○	○	○	a: 計画や情報収集を積極的にしている。 b: 問題解決の手順、問題の内容を理解し、明確化している。 c: 問題解決にあたって適切な情報手段を使うことができる。 d: 問題解決の手順と解決するための工夫を理解できる。	・レポート ・確認テスト ・授業への取り組み		
		2 情報の収集	○	○	○	○				
		3 情報の整理と管理	○	○	○	○				
		4 分析のための工夫	○	○	○	○				
		5 関数と統計	○	○	○	○				
		6 表とグラフの活用	○	○	○	○				
		7 分析の実際	○	○	○	○				
		8 問題解決の実践	○	○	○	○				
		9 プレゼンテーションの方法	○	○	○	○				
		10 Webページによる情報発信	○	○	○	○				
合計時数(55分授業)	64									



令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	音楽：ソルフェージュ 音楽理論	学年	第3学年	教科書	
		単位数	4単位	副教材	自主作成教材

学習目標  
音楽に関する基礎的な知識及び理論諸要素を正しく捉え、音楽性豊かな表現をするための基礎的能力を、演奏・鑑賞とともに身に付ける。

学習方法  
○授業中の課題に積極的に取り組む。また、他の生徒の実技演習を注意深く聴き参考にする。  
○授業中に実施した課題は、他の生徒に割り当てられたものも含め、すべて復習する。  
○課題を単なる練習としてとらえず、常に実際の演奏と結びつけて学習に取り組む。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	音楽への関心・意欲・態度	音楽を愛好し、音楽文化を尊重する態度を身に付けるとともに、個性豊かに意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わっている。
b	音楽表現の創意工夫	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽の良さや美しさを深く感じ取り、個性豊かに創造的な音楽活動の工夫をしている。
c	音楽表現の技能	自己のイメージを持ち、個性豊かに充実した創造的な表現をするための技能を身に付けている。
d	鑑賞の能力	感性を働かせて、多様な音楽(芸術)を深く理解し、その価値や意味を創造的に味わい、演奏表現についての意見を持っている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
通 年	(1)楽典	24	譜表	音部記号・スコア	○	○	○		a:楽譜や音楽理論に強い関心を持ち、積極的に課題に取り組もうとしている。 b:音楽の諸要素の理解し、自らの音楽体験と結びつけることにより、更に楽曲の理解を深める。 c:楽譜や音楽理論の知識を実際の演奏に生かそうとしている。	・授業への取り組み ・問題演習 ・課題 ・筆記テスト
			音名	日・独・英語音名	○	○	○			
			音程	単・複音程	○	○	○			
			音階	様々な音階	○	○	○			
			和音	三和音・四和音	○	○	○			
			移調	移調・移調楽器	○	○	○			
			調判定	様々な調	○	○	○			
			楽語	速度・発想記号	○	○	○			
	(2)楽曲の形式	4	形式	様々な形式		○	○	○	a:楽曲の形式に強い関心を持ち、積極的に課題に取り組もうとしている。 b:形式や成立した時代背景を知り、自らの音楽体験と結びつけることにより、更に楽曲の理解を深める。 c:楽曲の形式や構成についての知識を実際の演奏に生かそうとしている。 d:楽曲の形式や構成を理解し、その意図や良さを感じ取りながら味わうことができる。	
	(1)視唱	20	視唱	コールユーブンゲン		○	○	○	a:難易度の高い課題にも集中して積極的に取り組み、予習も十分に行っている。 b:音楽の諸要素を考慮し、実際の演奏に即した表現を常に心がけている。 c:無理のない発声で、課題となる楽曲の良さを表現できる歌唱力を持っている。	・授業への取り組み ・課題 ・実技テスト
			初見視唱	旋律 ト・ヘ・ハ音記号 いろいろな調		○	○	○		
	(2)視奏	20	初見視奏	ピアノ演奏 楽曲の構成 テンポ設定 強弱の読み取り リズム打ち リズムアンサンブル 平易なピアノ曲		○	○	○	a:課題にも集中して積極的に取り組んでいる。 b:音楽の諸要素を考慮し、実際の演奏に即した表現を常に心がけている。 c:課題に十分応えるだけの技術が身に付いている。または、自身の能力にあわせて課題を再構成する力がある。	・授業への取り組み ・課題 ・実技テスト
(3)聴音	60	旋律	単旋律 二声・三声		○		○	a:難易度の高い課題や様々な形式の課題にも、その必要性や有機的なつながりを理解し、集中して積極的に取り組んでいる。 c:視唱の能力や音楽理論の知識を総合的に活用して、的確な楽譜を書くことを常に心がけている。	・授業への取り組み ・課題 ・実技テスト	
		和音	三和音・和声		○		○			
		リズム	短音のリズム 旋律のリズム		○		○			
合計時数(55分授業)		128								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	美術・美術概論	学年	第3学年	教科書	自高作成教材
		単位数	3単位	副教材	

学習目標	美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育み、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化への理解を深め、豊かな情操を養う。
------	--

学習方法	○世界の美術文化の歴史を理解し、幅広い視野に基づいた創造的表現により、社会と美術の繋がりやその役割についての意識を高め、専門技術の習得を目指し、感性豊かな造形活動と作品づくりに専念する。 ○授業は美術や建築など専門科目を有する大学の受験に対応する内容を精選し、自主的な活動を中心とする。
------	--

学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
	a	美術への関心・意欲・態度
b	発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。
c	創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的に表している。
d	鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や国際理解に果たす美術の役割、美術文化などの理解を一層深め、自己の価値観や美意識を働かせて、その良さや美しさを創造的に味わっている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	オリエンテーション 表現・鑑賞	24	デザイン (色彩構成Ⅰ) (色彩構成Ⅱ)	・色彩全般の専門的知識と技法 ・デザイン力と構成力の基礎と応用について学ぶ	○	○	○	○	a作品の表現方法を工夫し、最後まで制作に向けて努力できる。 b形・色・線の三大要素を理解し、美術的な構成力を身に付けようとする工夫と努力が見られる。 c色彩への総合的な知識と表現技法への理解に基づいた、構成的表現ができる能力を身に付けている。 d進路や受験にも対応できる総合的な判断と作品づくりができる。	・授業への取り組み、 ・活動観察 ・アイディアスケッチ ・提出作品 ・レポート課題 ・他生徒との対話 ・鑑賞
		24	絵画	・好きな絵画作品を一つ選択し、模写する ・素材研究として油画作品や写真のテクニチャーを研究する	○	○	○	○	ad絵画作品をよく観察し、原画に忠実に色彩感覚を身に付けようとしている。 b色彩に対する知識や感覚を身に付けられるよう、構想を練る努力ができる。 c色彩と質感について興味と関心を持ち、独創的な表現の工夫が見られる。 dお互いの作品を鑑賞し、良い点を指摘し味わっている。	
後期	表現・鑑賞	24	デザイン (建築模型の制作)	・二次元から三次元の物を制作できる応用力を習得する	○	○	○	○	ab「理想の家」をテーマにどのようなコンセプトの家にするのか、また周りのランドスケープデザインまで考えることができる能力を身に付けている。 c素材の特性を理解し、独自の工夫と美しく立体構造物を制作できる能力を身に付けている。 d作品のコンセプトを端的に発表し、お互いの作品を鑑賞し、意見を出し合い作品鑑賞を味わっている。	・授業への取り組み、 ・活動観察 ・アイディアスケッチ ・提出作品 ・レポート課題 ・他生徒との対話 ・鑑賞
		24	美術史 鑑賞	・美術史(西洋・日本)を通して、社会と美術について深く考える。	○	○	○	○	ad美術史研究の成果として「展覧会をプロデュース」をテーマにオリジナルの展覧会を企画する。美術科目の全般を理解し、芸術文化を生涯を通して愛する心情を持てるよう努力している。 bc将来豊かな生活を送るために深い教養と幅広い視野を持って美術の技法や理論を身に付けようとしている。 d作品のコンセプトを端的に発表し、お互いの作品を鑑賞し、意見を出し合い作品鑑賞を味わっている。	
合計時数(55分授業)		96								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	美術・素描	学年	第3学年	教科書	
		単位数	3単位	副教材	本校作成教材

学習目標	美術Ⅰ・美術Ⅱの内容をベースに、美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育み、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化への理解を深め、豊かな情操を養う。	
学習方法	○身近なモチーフのデッサンを中心に、ものの観察力と描写力を養い、一層の創造活動の技術的な伸長を目指す。 ○生徒ひとり一人の個性を育むための具体的な教育プログラムを実践し、将来の進路を考えた美術全般の応用力を養う。	
学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
	a 美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法に関心を持ち、美術文化を尊重し、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。
	b 発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。
	c 創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的に表している。
	d 鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や国際理解に果たす美術の役割、美術文化などの理解を一層深め、自己の価値観や美意識を働かせて、その良さや美しさを創造的に味わっている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	オリエンテーション 表現・鑑賞	24	絵画 (鉛筆による デッサン)	・デッサンの基礎を学ぶ ①② (①石膏首像+②自画像)	○	○	○	○	a形や物体への観察眼を身に付けようと努力している。 bc筆のモノクロにおける描写的表現を身に付けている。 石膏デッサンで学んだものの見方や技法を人物(自画像)描画表現に応用できる。 ad自らの作品の完成に向けて忍耐強く制作画面に向かうことができる。	・授業への取り組み ・提出作品 ・レポート課題
			彫刻 (模刻)	・立体を模刻 ・質感表現技法の習得	○	○	○	○	a形体に対して、空間意識を持って観察眼を身に付けようと努力している。 b作品の完成に向けて忍耐強く制作に向かうことができる。 c再現描写、模刻ができる技術を習得している。 d歴史的に残る多くの作品の良さを理解できる。	
後期	表現・鑑賞	24	自由研究課題 (デッサン研究、素材研究、写真映像小論文等)	・いくつかの課題の中から選択して取り組み、表現と技法について独自の発見を促し、専門的知識の向上と表現力の幅を広げる	○	○	○	○	a描画素材の違いと特性を理解し、幅広い表現技法が身に付いている。 bc課題モチーフへの理解・技法・表現について自らの手法を工夫し、納得できる作品づくりを目指している。 d社会と美術の関連について学び、美術の役割について考察し、作品として表現できる。	・授業への取り組み ・提出作品 ・レポート課題
			絵画 (構成デッサン+デザイン) 鑑賞(小論文)	美術の総合力(まとめ)	○	○	○	○	ab身近なモチーフを目視せず、想定デッサンできる観察眼が身に付いている。 bあらゆるモチーフをどのように組み合わせ、作品化していくか、美術を専門とした職業や学問についての応用力を身に付けようと努力している。 bc視覚的表現と言語表現の違いを学び、それぞれの長所を活かした自己の表現方法を身に付けている。 d社会における美術の役割について多くの作品からエッセンスを読み取り発想に結び付けることができる。	
合計時数(55分授業)		96								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	家庭・フードデザイン	学年	第3学年	教科書	実教出版「フードデザイン 新訂版」
		単位数	2単位	副教材	実教出版「生活学Navi 資料+成分表2020」

**学習目標**  
 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を身に付ける。

**学習方法**  
 ○授業における課題に対して自ら考え、また、周りの生徒と意見交換したり、共同で考える活動を行います。  
 ○授業においてはプリントを利用します。  
 ○調理実習ではレポートを作成し、実習結果をもとに考察したり、実習について自身で計画し、実践します。  
 ○家庭学習における課題を提出してもらいます。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	b	c	d
a	関心・意欲・態度	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネート等に関心を持ち、食生活を総合的にデザインする意欲と実践的な態度を身に付けている。		
b	思考・判断・表現	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネート等に課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。		
c	技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネート等に関する技術を身に付けている。		
d	知識・理解	栄養、食品、調理、テーブルコーディネート等に関する知識を身に付けている。		

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	食生活と健康	2	食事の意義と役割 食をとりまく現状	・食事の意義と役割 ・栄養摂取の現状 ・現代の食生活 ・食生活を取り巻く状況との課題	○	○			a: 食事の意義と役割や食生活の現状に関心を持ち、学習に取り組もうとしている。 b: 現代の食生活の課題を見出し、その改善を目指して思考を深め、適切に判断し、意見交換をすることができる。	・プリント ・取り組み ・発表
	栄養素のはたらきと食事計画	5	からだのしくみとはたらき 栄養素のはたらき	・栄養素の役割 ・五大栄養素	○	○		○	a: 体内における栄養素のはたらきについて関心を持ち、学習に取り組もうとしている。 b: 栄養素の効率的な摂取方法について思考を深め、適切に判断し、発表することができる。 d: 体内における栄養素のはたらきや、栄養素の効率的な摂取方法について理解している。	・レポート ・発表 ・小テスト
	食品の特徴・表示・安全	4	食品の種類と性質 食品の生産と流通	・食品の種類と性質 ・食品の生産と流通	○	○		○	a: 様々な食品に関心を持ち、積極的に様々な食品の食べ方を学んでいる。 b: 食品の生産や流通に関する課題について思考を深め、生活に活かす方法について考えている。 d: 食品の種類と性質や特徴を生かした食べ方について理解している。	・プリント ・取り組み ・小テスト
	調理の基本	5	調理とおいしさ 調理操作 調味操作	・調理の目的とおいしさ ・非加熱操作 ・調味操作	○	○	○	○	a: 調理の基本について関心を持ち、積極的に学習に取り組んでいる。 b: 科学的に栄養面や美味しさを高める調理操作について思考を深めている。 c: 科学的に栄養面や美味しさを高める調理操作を実践することができる。 d: 調理の基本について理解している。	・プリント ・取り組み ・小テスト
	実験・実習	10	食品実験 調理実習	・食品実験 ・調理実習		○	○		b: 食品実験や調理実習の結果について考察し、思考を深めている。 c: 食品実験や調理実習を適切に行うことができる。	・取り組み ・レポート
	フードデザイン実習	2	献立作成	・日常食の献立を考える際の留意点 ・日常食の献立作成		○	○		b: 日常食の献立を考える際の留意点に配慮しながら、献立について検討している。 c: 日常食の献立を適切に作成することができる。	・取り組み ・作品
後期	料理様式とテーブルコーディネート	4	料理様式とテーブルコーディネート	・日本料理の様式と献立 ・和風のテーブルコーディネート	○	○	○	○	a: 日本料理の様式と献立について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 b: 和風のテーブルコーディネートについて思考を深めている。 c: 和風のテーブルコーディネートに使用する小物を製作することができる。 d: 日本料理の様式と献立について理解している。	・プリント ・取り組み ・作品 ・小テスト
	料理様式とテーブルコーディネート	6	料理様式とテーブルコーディネート	・西洋料理、中国料理の様式と献立 ・洋風のテーブルコーディネート ・室内のコーディネート	○	○	○	○	a: 西洋料理、中国料理の様式と献立について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 b: 洋風のテーブルコーディネートについて思考を深めている。 c: 洋風のテーブルコーディネートに使用する小物を製作し、活用することができる。 d: 西洋料理、中国料理について理解している。	・プリント ・取り組み ・作品 ・小テスト
	調理の基本	8	調理操作	・加熱操作 ・加熱調理器具	○	○	○	○	a: 調理の基本について関心を持ち、積極的に学習に取り組んでいる。 b: 科学的に栄養面や美味しさを高める調理操作について思考を深めている。 c: 科学的に栄養面や美味しさを高める調理操作を実践することができる。 d: 調理の基本について理解している。	・プリント ・取り組み ・小テスト
	フードデザイン実習	4	献立作成	・供応所・行事食 ・テーマ設定と調理実習		○	○		b: 供応所・行事食の献立について検討している。 c: 供応所のテーマ設定、献立作成と調理や行事食の調理を適切に行うことができる。	・取り組み ・レポート
	実験・実習	10	食品実習 調理実習	・食品実習 ・調理実習		○	○		b: 食品実験や調理実習の結果について考察し、思考を深めている。 c: 食品実験や調理実習を適切に行うことができる。	・取り組み ・レポート
	食育	4	食育の意義と推進活動	・食育基本法 ・家庭や地域における食育推進活動	○	○	○		a: 食育について関心を持ち、積極的に食育に取り組もうとしている。 b: 食育について思考を深め、実践例について発表することができる。 c: 食育の実践的活動を工夫して行うことができた。	・取り組み ・作品 ・発表
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	総合的な探究の時間(SL)	学年	第3学年	教科書	
		単位数	1単位	副教材	自校作成教材

**学習目標**  
 自らの興味関心に基づき、テーマを探し出す力を養います。また、テーマに基づいて目標を設定し、学習を進める方法を学びます。さらに、学習の成果をレポート・発表として表現する力、自己の生き方・在り方を考えることができる力を身に付けます。

**学習方法**  
 ○講演を聞いたり、大学研究を行ったりすることで、グローバル社会の自己の生き方・在り方を考えます。  
 ○課題研究を行うことで、自らの興味関心に基づいたテーマを探し出します。  
 ○以上の2つから学習を進める方法を学び、その成果を発表することにより、他者に伝えることや、他者への理解を深めましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	知識・技能	探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、グローバル社会に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。
	b	思考・判断・表現	諸問題と自己との関わりから問いを見出し、自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。
	c	主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c		
前期集中	総合的な探究の時間	2	自己探求	ガイダンス(情報収集の方法)	○		○	a:探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、グローバル社会に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。 b:諸問題と自己との関わりから問いを見出し、自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 c:探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。	授業への取り組み ワークシート
		8		キャリアサポート			○		
		6		講演会 自己啓発 グローバル	○	○			
		16	課題研究	課題研究	○		○		
	発表				○	○			
合計時数(55分授業)		32							